

令和３年度 文部科学省 専修学校留学生の学びの支援推進事業
コロナ禍を踏まえた各地域における外国人留学生の戦略的受入に向けた体制整備

テクノロジー分野の留学生および留学希望者を対象とした

教育及び就職の支援モデル構築事業

令和３年度事業 成果報告書

2022 年 3 月

一般財団法人 日本検定基盤財団

目次

1. 事業概要	3
1.1. 事業の趣旨・目的	4
1.2. 当該地域において取組を進める意義	5
1.3. 事業の実施体制	8
1.3.1. 事業の連携組織	8
1.3.2. 実施体制のイメージ	9
1.4. 事業計画の全体像	11
2. 調査	13
2.1. 専門学校アンケート調査	14
2.1.1. 調査の概要	14
2.1.2. IT・情報系専門学校アンケート調査結果	15
2.1.3. 自動車整備系専門学校アンケート調査結果	37
2.1.4. 結果のまとめ	59
2.2. 企業ヒアリング調査	63
2.2.1. 調査概要	63
2.2.2. IT・情報通信系企業等ヒアリング調査結果	64
2.2.3. 自動車整備系企業・工場調査結果	75
2.2.4. 結果のまとめ	87
2.3. 遠隔教育、ネットワーク支援学習環境事例調査	89
2.3.1. 調査概要	89
2.3.2. 事例調査結果からの分析	90
3. 開発	93
3.1. 学習者評価指標	94
3.1.1. 概要	94
3.1.2. 学習者評価指標の構成	94
3.2. 「日本の文化と産業」試作教材	96
3.2.1. 科目群の概要	96
3.2.2. 「日本の基礎知識」試作教材の概要	96
3.2.3. 「九州・沖縄の文化」試作教材の概要	98
3.2.4. 「日本とベトナムの文化比較」試作教材の概要	100
3.3. 「キャリア学習」試作教材	102
3.3.1. 科目群の概要	102
3.3.2. 「IT キャリア」試作教材の概要	102

3.3.3.	「自動車整備キャリア」試作教材の概要	105
3.4.	「プロジェクト演習」試作教材	107
3.4.1.	科目の概要	107
3.4.2.	「プロジェクト演習」試作教材の概要	107
3.5.	専門学校紹介コンテンツ	109
3.5.1.	コンテンツの概要	109
3.5.2.	ベトナム語版学校パンフレット	109
3.5.3.	ベトナム語版学校パンフレット WEB 版	111
3.5.4.	ベトナム人留学生インタビュー動画	112
3.6.	Facebook ページと WEB サイト	114
3.6.1.	Facebook ページと WEB サイトの概要	114
3.6.2.	Facebook ページにおける取り組み	114
3.6.3.	WEB サイトにおける取り組み	120
3.7.	e ラーニングシステム	126
3.7.1.	e ラーニングの概要	126
3.7.2.	e ラーニングの構成	126
4.	まとめ	134
4.1.	令和 3 年度事業の総括	135
4.2.	事業終了後の成果活用方針・手法	137
5.	巻末付録	138

1. 事業概要

1.1. 事業の趣旨・目的

1.2. 当該地域において取組を進める意義

1.3. 事業の実施体制

1.4. 事業計画の全体像

1.1. 事業の趣旨・目的

九州・沖縄地方産業競争力協議会は令和 3 年 3 月、地理的なアドバンテージを活かし「アジアのゲートウェイとして持続的な発展を目指す」ための地方成長産業戦略を取りまとめた。その中では、次世代自動車やビッグデータの活用、グローバル人材の確保・育成等が挙げられている。鹿児島県・宮崎県・沖縄県では情報通信産業の振興に注力していることもあり、AI・ビッグデータ等を扱える高度な IT 人材の需要増加が予想されている。また、熊本県・福岡県では自動車産業が盛んであり、産官学連携で EV 車・自動運転車の実証実験や導入も進んでおり、それらに対応可能な整備士の養成も急務となってきた。

このような九州・沖縄の各県での技術系人材へのニーズへ対応し IT や自動車整備の分野は留学生の人気も比較的高く、専門学校による受け入れも進んでいる。さらに新型コロナウイルス流行の収束後には、九州・沖縄地域に就職する留学生に対しての企業や産業からの期待は一層増大するものと考えられる。

このような状況を受け、専門学校は、これまで以上に留学生の志向性や企業・業界の人材ニーズに対応するため、来日後はもとより来日前の募集や教育への支援体制、企業・団体との連携による就職支援の仕組みの構築を必要としている。

本事業では、まずは鹿児島県・熊本県の専門学校とその専各協会、企業と業界団体、当初に着手するベトナムの教育機関や企業による連携組織を構築し、留学候補者に対する母国での教育と評価、九州・沖縄地域の専門学校での学習・生活支援、就職支援等の体制を整備する。これらの各種支援方策に、WEB サイトや SNS、e ラーニング等のネットワーク環境を積極的に活用し、トータルパッケージ化した留学生への強力な支援体制を構築する。さらには、他県や他国への展開を目指す。

1.2. 当該地域において取組を進める意義

(1) 九州・沖縄地方における行政の方針と地域の産業

九州・沖縄地域の知事と経営者による九州・沖縄地方産業競争力協議会は令和 3 年 3 月に「九州・沖縄地方成長産業戦略～九州・沖縄 Earth 戦略Ⅱ～」を取りまとめた。そこでは、地理的なアドバンテージを活かし「アジアのゲートウェイとして持続的な発展を目指す」とし、次世代自動車、先端技術・ビッグデータ、グローバル人材としての留学生の受け入れ・就職・起業の促進等が挙げられている。

◎鹿児島県・宮崎県・沖縄県における IT 産業

近年、新たな産業として IT の振興に注力している地方自治体が増加している。平成 29 年に「地域未来投資促進法」が施行された際、鹿児島県は重点的に取り組む地域経済牽引分野に情報通信関連産業（≡IT 産業）を選定している。また、情報通信関連業種の立地・移転への補助金も充実しており、IT 系企業の誘致やスタートアップ支援にも熱心である。さらに、肝付町の国内初の自治体主導によるスマート畜産（牛の発情・疾病データを IoT センサーで管理・分析）や東町の ICT を活用したぶりの養殖管理等、県の主要産業にも IT を活用した技術革新が進んでいる。同様に、宮崎県でも IT 企業の誘致が盛んで、宮崎市における GMO インターネットグループのサテライトオフィスの開業、日南市の油津商店街における 10 社以上の IT 企業進出等が例として挙げられる。沖縄県も成長産業として IT に積極的に投資を行い、「アジア有数の国際情報通信ハブ」の地位を目指している。うるま市の「沖縄 IT 津梁パーク」設立などの取り組みにより、県内の IT 企業は 2009 年の 202 社から 2019 年には 490 社となっている。さらに、鹿児島県・宮崎県・沖縄県はニアショア開発の拠点としても注目されており、多数の企業やオフィスが進出している。

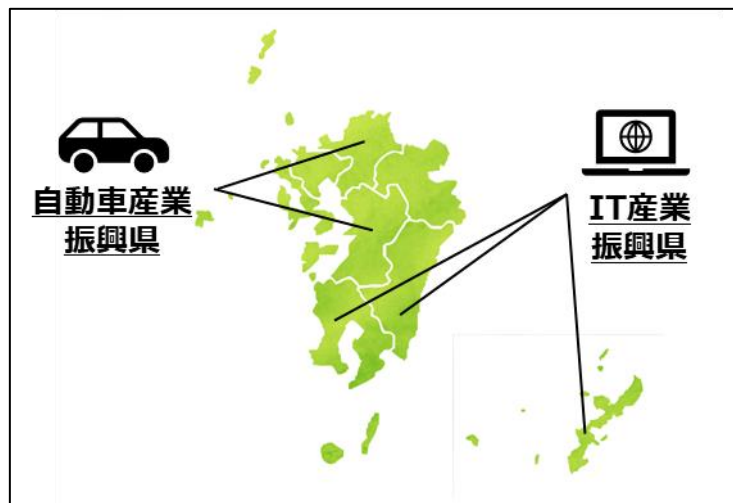
◎熊本県・福岡県における自動車産業

自動車産業は我が国の主要産業のひとつである。特に九州は「カーアイランド」とも呼ばれており、熊本県や福岡県には数多くの自動車関連産業が立地している。また、先進的な自動車の実証実験や導入にも熱心である。

内閣府から「SDGs 未来都市」として選定された熊本市では、日産自動車と「電気自動車を活用した持続可能なまちづくりに関する連携協定」を結び、EV 車を通じた社会変革に取り組んでいる。また、熊本大学では EV バス、トラックの普及に向けた研究開発が環境省事業に採択され、普及拡大に向けた実証実験を進めている。

福岡市ではスマートシティ化の一環として産学官連携で自動運転バスの実証実験を行っ

ている。また、北九州市には国内初の商用 EV 車専用量産工場が建設され、2023 年頃に稼働を目指している。



(2) 技術系人材の不足

今後も九州・沖縄地域で継続的に IT 産業や自動車産業が発展していくためには、IT エンジニアや自動車整備士といった当該産業に携わる人材が不可欠である。特に、Society5.0 の到来や SDGs にもとづく持続可能な社会の実現に向けて、AI・IoT・ビッグデータといった先端技術を扱うことができる IT 人材や EV 車・自動運転車にといった次世代のモビリティに対応できる整備士の需要はますます増加することが予想されている。

しかし、2016 年の経済産業省の試算によると日本は 2030 年時点で最大約 79 万人の IT 人材不足に直面する恐れがある。また、同省の 2019 年の試算によれば、「AI やビッグデータ、IoT 等、第 4 次産業革命に対応した新しいビジネスの担い手として、付加価値の創出や革新的な効率化等により生産性向上等に寄与できる IT 人材」と定義された「先端 IT 人材」も 55 万人不足する見込みであるという。

自動車整備要員数はここ数年微減している状態であるが、2018 年には有効求人倍率が 4.46 となっており人手不足が深刻である。また、平均年齢が 45.3 歳と高齢化も進んでおり、若手の自動車整備要員獲得も課題となっている。

さらに、九州・沖縄地域では、人口の減少や首都圏等の大都市への人材流出といった問題を抱えており、人材の養成・獲得と定着が喫緊の課題となっている。

(3) 留学生への期待とコロナ禍の影響

日本人の IT 人材や自動車整備要員が不足している一方で、IT や自動車整備分野は留学生に比較的人気があるため、専門学校における受け入れが進んでいる。また、専門学校は

県内就職率が高く、既に多くの元留学生が外国人材として地域の企業や産業に貢献している実績がある。しかし、昨年からのコロナ禍の影響で日本国内の留学生数は大きく減少している。日本学生支援機構の調査では、2020年に専門学校に在籍している留学生の数は前年度から1%増加しているが、この数年は毎年15%程度の増加であったため、影響の大きさが表れている。また、主要な進学元である日本語教育機関の在学生在が27.4%も減っているため、専門学校は今後数年間留学生の獲得に苦勞する可能性がある。さらに、都道府県別の留学生数を見ると、九州・沖縄地域では2020年に大きく留学生数を減らしている（下表1）。2021年は留学生数の更なる減少が確実である。

表1 九州・沖縄地域の留学生数の推移（単位：人）

	2019年 6月	2019年 12月	2020年 6月
福岡県	19,167	20,955	18,181
熊本県	1,233	1,333	1,239
宮崎県	809	834	652
鹿児島県	941	1,008	777
沖縄県	2,901	3,580	2,767

※出入国在留管理庁 在留外国人統計より

コロナ禍収束後も優秀な技術系人材を求める業界のニーズに応えるため、専門学校は日本人だけでなく留学生への教育に注力する必要がある。そして、留学生に対してより質の良い教育を提供し就職の支援をしていくためには、留学生に来日前後で一貫した教育内容を提供する体制や国内の企業・団体との連携による就職の仕組みを構築することが重要となる。

1.3. 事業の実施体制

1.3.1. 事業の連携組織

本事業では一般財団法人日本検定基盤財団（以下、当財団）が事業実施主体となり、以下の教育機関、企業・団体に協力を得て構成した。

(1) 教育機関

名称	所在地
学校法人九州総合学院 鹿児島情報ビジネス公務員専門学校	日本 鹿児島県
学校法人九州総合学院 九州工科自動車専門学校	日本 熊本県
学校法人宮崎総合学院 宮崎情報ビジネス医療専門学校	日本 宮崎県
学校法人西鉄学園 西鉄自動車整備専門学校	日本 福岡県
学校法人フジ学園 専門学校 I T カレッジ沖縄	日本 沖縄県
国立大学法人 鹿児島大学	日本 鹿児島県
国立大学法人 琉球大学	日本 沖縄県
T-Under	ベトナム ハノイ
VTI Education	ベトナム ハノイ
ハノイ工業大学	ベトナム ハノイ
GLO-TECH（ハノイ工芸商科短期大学）日本語教育センター	ベトナム ハノイ

(2) 企業・団体

名称	所在地
一般社団法人 鹿児島県専修学校協会	日本 鹿児島県
一般社団法人 熊本県専修学校各種学校連合会	日本 熊本県
一般社団法人 鹿児島県情報サービス産業協会	日本 鹿児島県
一般社団法人 熊本県自動車整備振興会	日本 熊本県
一般財団法人 日本教育基盤財団	日本 東京都
NPO 法人 宮崎ネパール友好協会	日本 宮崎県

株式会社 VTI ジャパン	日本 東京都
株式会社 フォーエバー	日本 鹿児島県
熊本日野自動車 株式会社	日本 熊本県
熊本日産自動車 株式会社	日本 熊本県
株式会社 VIT JAPAN	ベトナム ホーチミン
COPRONA 株式会社	日本 神奈川県

(3) 行政機関

名称	所在地
鹿児島県 総務部 学事法制課	日本 鹿児島県
熊本県 総務部 私学振興課	日本 熊本県

1.3.2. 実施体制のイメージ

本事業実施に際して、「実施委員会」と2つの「分科会」を設置する。

実施委員会は、鹿児島県・熊本県の専修学校各種学校協会・連合会の参画のもとIT及び自動車整備学科を設置する九州・沖縄地域の専門学校、海外の日本語教育機関、業界企業・団体、行政機関等で構成される本事業の推進主体である。ここでは、事業全体の活動方針・計画、各事業活動の実施方針・実施内容、活動成果の評価等の重要事項に関する検討・意思決定や、分科会に対する具体的な活動方針の指示、進捗管理等を行う。事業統括は日本検定基盤財団が担い、事業全体の進捗や事業経費のマネジメントを行う。また、実施委員会の構成機関への連絡・調整、資料準備等の事務作業を担当する。

分科会は、分野によって「IT 分科会」と「自動車整備分科会」に分ける。「IT 分科会」は鹿児島情報ビジネス公務員専門学校を中心的なメンバーとしてIT・情報産業に関連する教育機関・企業・団体等の産学官の連携により組織される。「自動車整備分科会」は九州工科自動車専門学校を中心とした自動車産業に関連する教育機関・企業・団体等の産学官の構成になっている。各分科会では、実施委員会の指示のもと、各事業活動の企画や具体的な仕様の検討、実作業の推進等を担当する。ここでも、日本検定基盤財団は各分科会において進捗管理、事業経費のマネジメント、構成機関への連絡・調整、資料準備等の事務作業、作業の取りまとめ等を行う。

実施委員会

自動車整備分科会

熊本県
専修学校
各種学校
連合会

九州工科
自動車
専門学校



IT分科会

鹿児島
情報ビジネス
公務員
専門学校

鹿児島県
専修学校
協会



<事業統括>
一般財団法人
日本検定基盤財団

1.4. 事業計画の全体像

本事業は令和3年度から令和5年度にかけて実施する計画で、今年度はその初年度である。各年度の事業活動項目を以下に記載する。

次章以降、本年度の各活動項目の概要と成果を報告する。

(1) 令和3年度事業活動項目

活動種別	活動項目
調査	① 専門学校アンケート調査 ② 企業ヒアリング調査 ③ 遠隔教育、ネットワーク支援学習環境事例調査
開発	① 学習者評価指標プロトタイプの開発 ② 来日前の提供科目の教材試作 ③ 専門学校紹介コンテンツの制作 ④ Facebook ページと WEB サイトの整備 ⑤ e ラーニング環境の整備
支援体制	① 学生募集における支援
会議	① 実施委員会（3回） ② IT 分科会（3回） ③ 自動車整備分科会（3回）

(2) 令和4年度事業活動項目

活動種別	活動項目
調査	なし
開発	① 学習者評価指標完成版の開発 ② 来日前の提供科目の教材改訂及び追加開発 ③ 来日後の提供科目の教材試作 ④ 専門学校紹介コンテンツの制作 ⑤ Facebook ページと WEB サイトの整備 ⑥ e ラーニング環境の整備
支援体制	① 学生募集における支援 ② 来日前後の学習における支援 ③ 訪日・日本での生活における支援

会議	① 実施委員会（3回） ② IT 分科会（3回） ③ 自動車整備分科会（3回）
----	---

(3) 令和5年度事業活動項目

活動種別	活動項目
調査	なし
開発	① 来日前後の提供科目の教材改訂及び追加開発 ② 専門学校紹介コンテンツの制作 ③ Facebook ページと WEB サイトの整備 ④ e ラーニング環境の整備
支援体制	① 学生募集における支援 ② 来日前後の学習における支援 ③ 訪日・日本での生活における支援 ④ 就職における支援 ⑤ 募集から就職までの支援体制モデル
会議	① 実施委員会（3回） ② IT 分科会（3回） ③ 自動車整備分科会（3回）

2. 調査

2.1. 専門学校アンケート調査

2.2. 企業ヒアリング調査

2.3. 遠隔教育、ネットワーク支援学習環境事例調査

2.1. 専門学校アンケート調査

2.1.1. 調査の概要

(1) 調査目的

本事業では、IT・情報分野及び自動車整備分野の学科を持つ専門学校に対しアンケート調査を実施した。本調査では、外国人留学生に関する情報（留学生受入状況、留学生の出身、日本語力、教育内容、遠隔教育実績、生活・就職活動支援、就職状況、課題など）や本事業に関する意見・感想等を調査する。ここで得た情報は、教育プログラムを検討する際の基礎資料とすると共に、事業活動の周知と事業活動への協力可能性を把握することを目的とした。

(2) 調査対象

本調査では、日本国内の IT・情報系学科及び自動車整備系学科を持つ専門学校を対象に調査を実施した。

(3) 調査手法

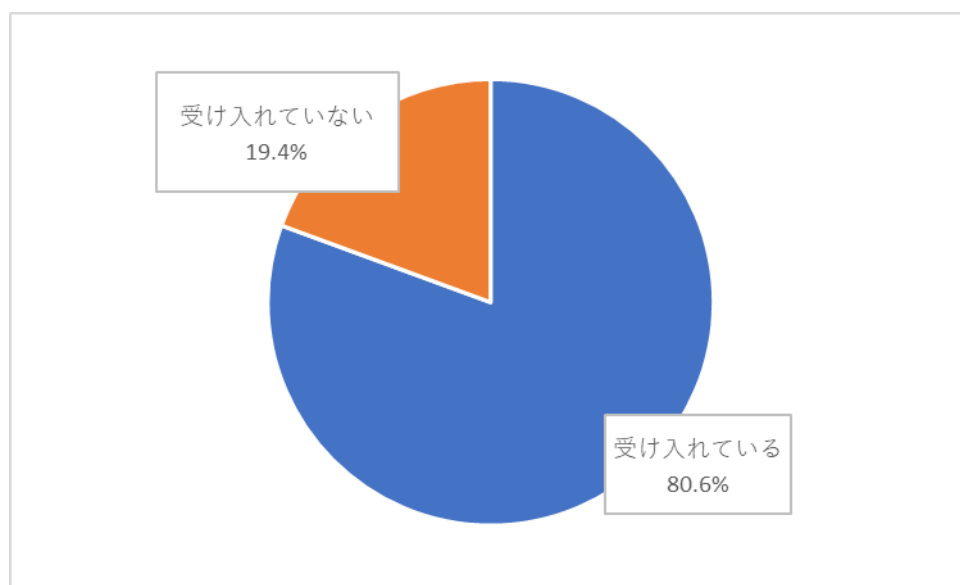
調査項目に関して情報収集を行うための質問で構成される調査票を作成し、同時に同一の質問項目及び選択肢等が記載されたオンラインアンケートフォームを作成した。質問形式は多肢選択形式と自由記述形式の 2 系統である。そして、IT・情報系の学科を有する専門学校 259 校と自動車整備系の学科を有する専門学校 82 校をリストアップし、この調査票を郵送した。回収方法は、紙媒体の調査票に直接記入しての返送、同封した依頼状に記載した URL 及び QR コードからオンラインアンケートフォームにアクセスしての回答、FAX での回答と 3 種類用意した。その結果、IT・情報系専門学校 67 校、自動車整備系専門学校 48 校からの回答があった。

次頁以降、本アンケート調査結果を掲載する。

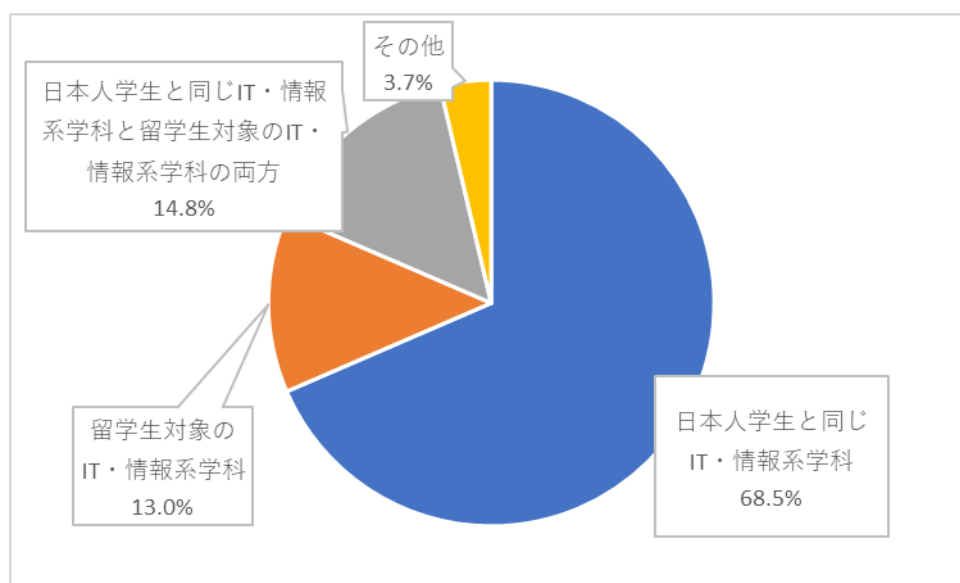
2.1.2. IT・情報系専門学校アンケート調査結果

I. 留学生の受入について

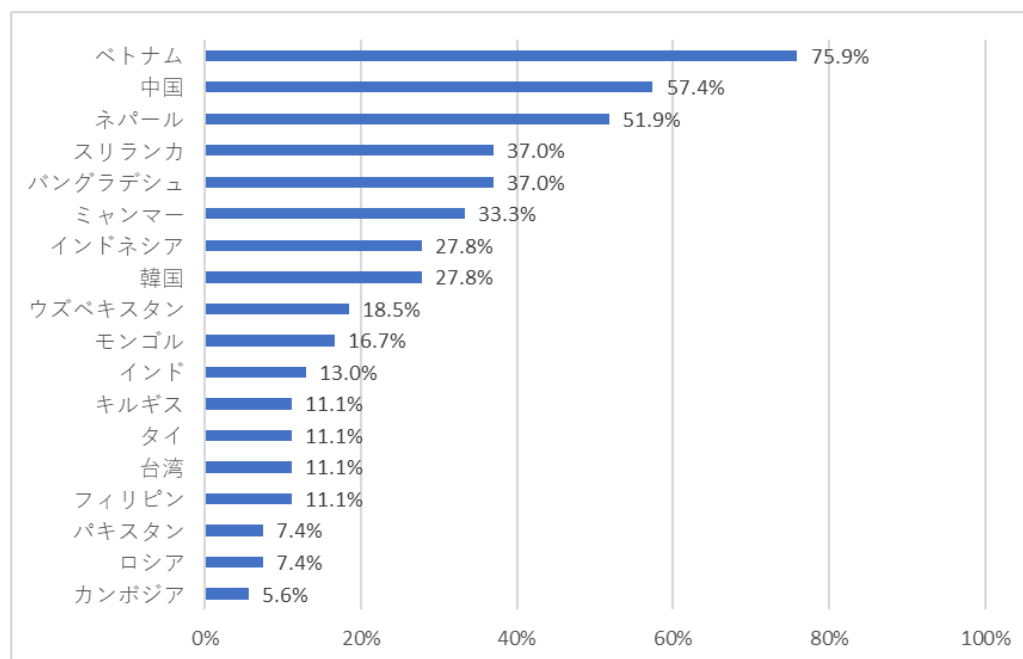
- (1) 御校では留学生の受け入れを行っていますか。当てはまる選択肢を1つ選んでください。



- (2) 御校はどのような学科で留学生受け入れを行っていますか。当てはまる選択肢を1つ選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

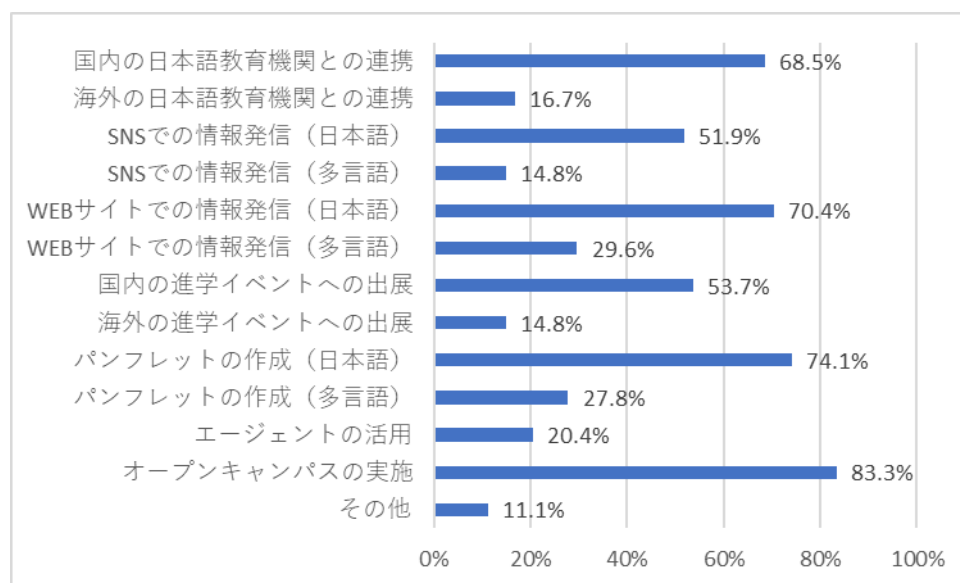


(3) 御校で受け入れている留学生の出身国をご記入ください。

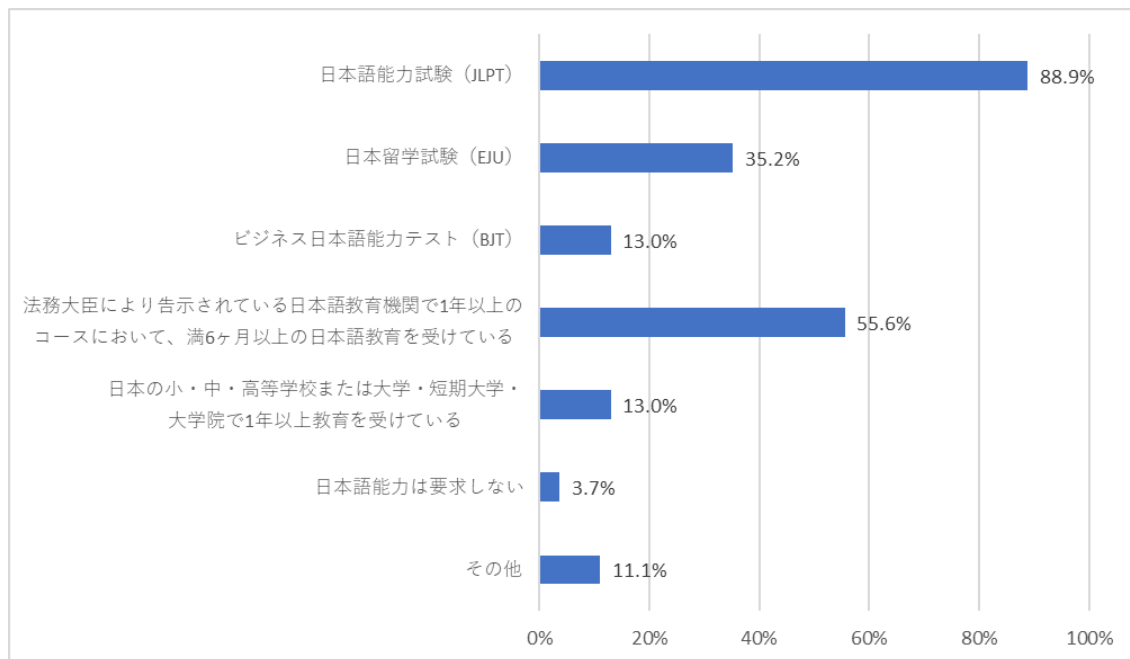


その他、イタリア・スペイン・トルコ・ブラジル・フランス・マリ（3.7%）、アメリカ・アルジェリア・イラン・シンガポール・セネガル・タジキスタン・ドイツ・香港・マレーシア・メキシコ（1.9%）と続いている。

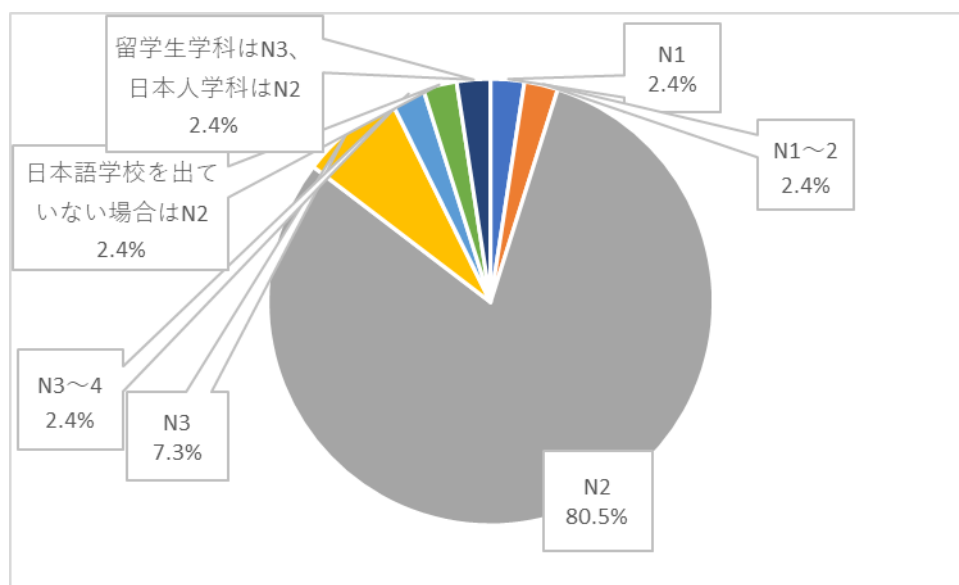
(4) 留学生の募集にあたり御校ではどのような取り組みを行っていますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



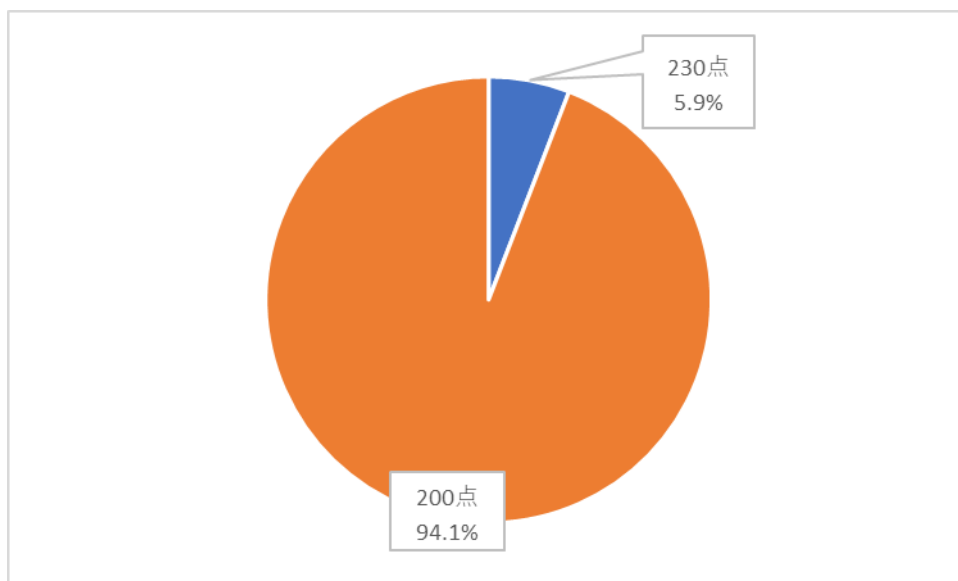
(5) 御校の留学生の入学資格として、どの程度の日本語能力を基準としていますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。また、基準となる試験等のレベル、点数等を具体的にご記入ください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



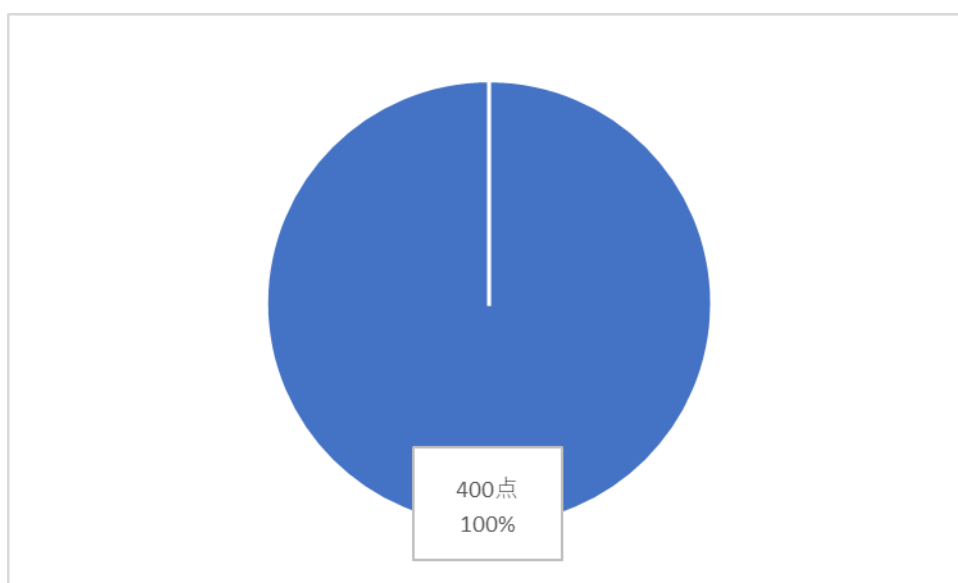
※「日本語能力試験 (JLPT)」を選択された方、基準となるレベルをご記入ください。



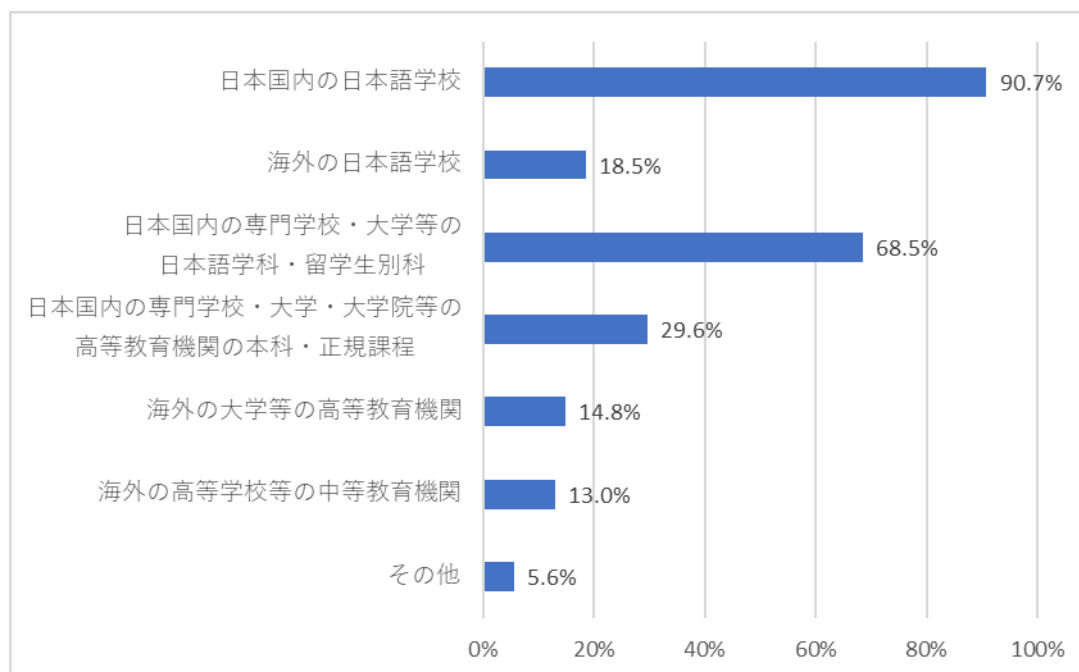
※「日本留学試験（EJU）」を選択された方、基準となるレベルをご記入ください。



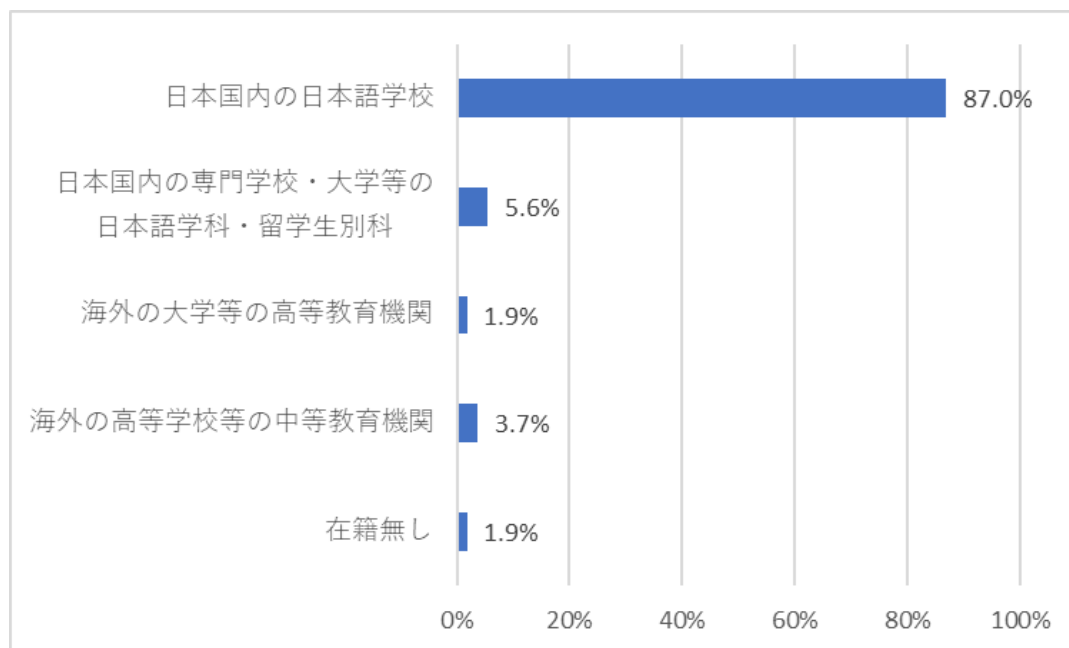
※「ビジネス日本語能力テスト（BJT）」を選択された方、基準となるレベルをご記入ください。



- (6) 御校の留学生は、どのような教育機関から進学・入学されていますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

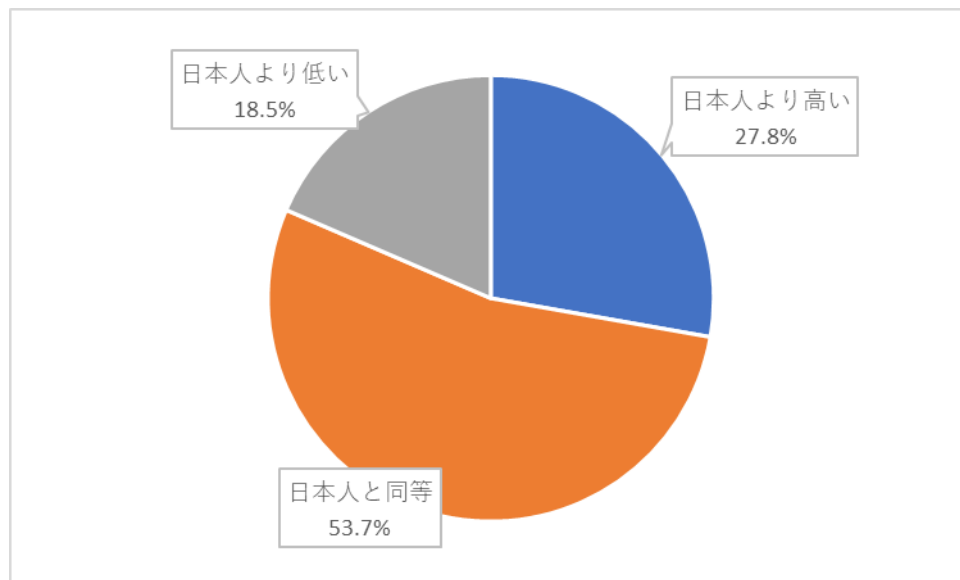


- (7) 上記質問項目(6)の中で、どの教育機関からの留学生が最も多いですか。具体的にご記入ください。

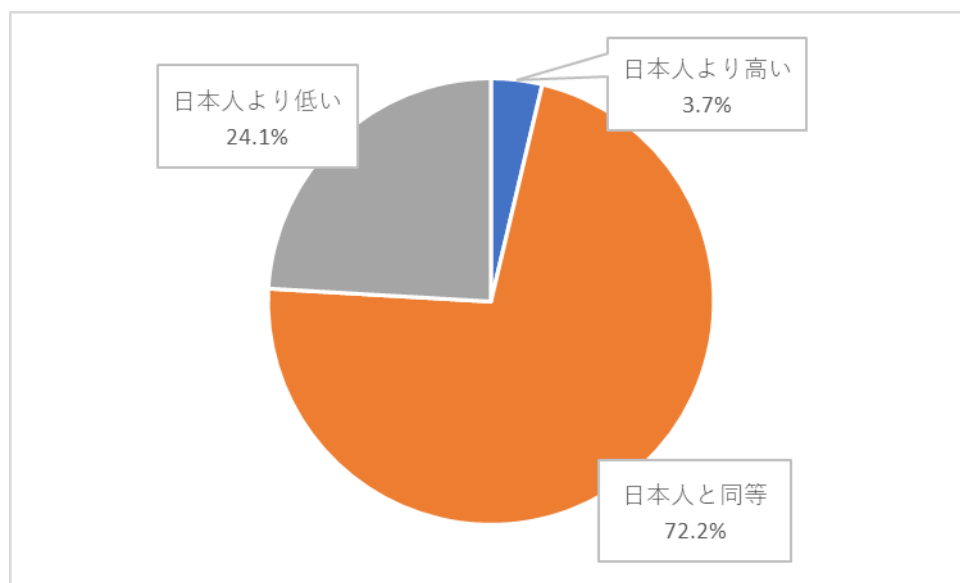


(8) 御校で留学生教育を行う中で、日本人学生と比較して、留学生全般にどのような特性
があると感じますか。当てはまる選択肢を1つずつ選んでください。

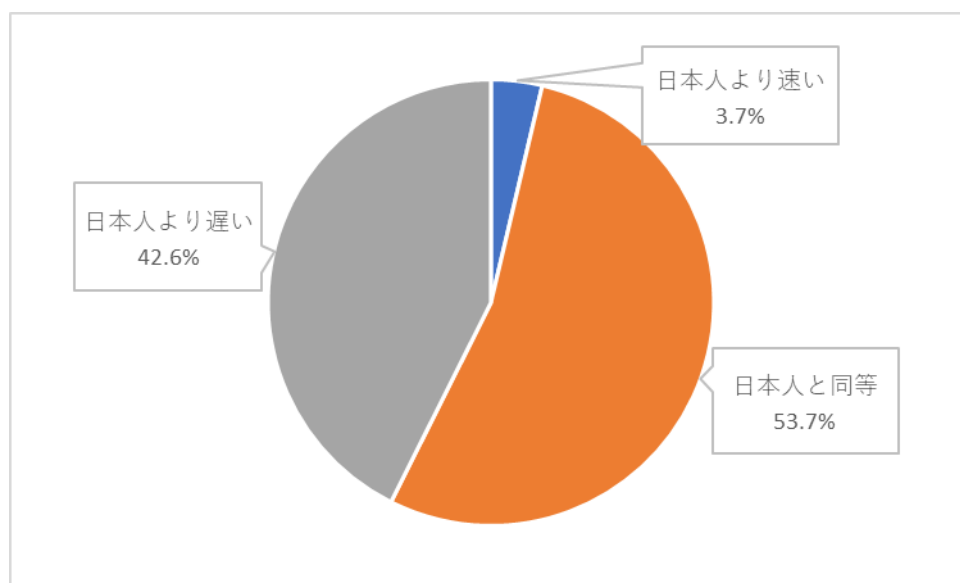
① 学習へのモチベーション



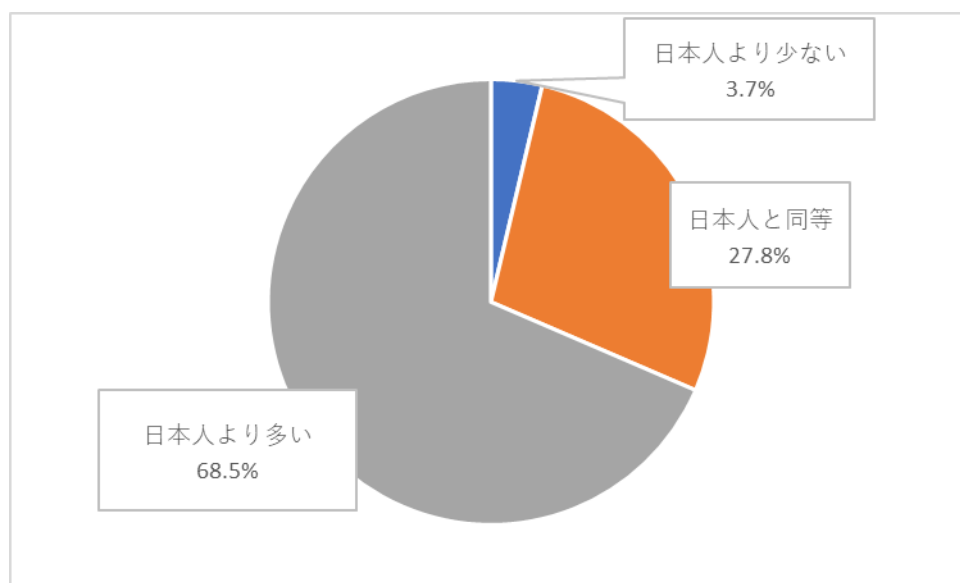
② 基礎学力



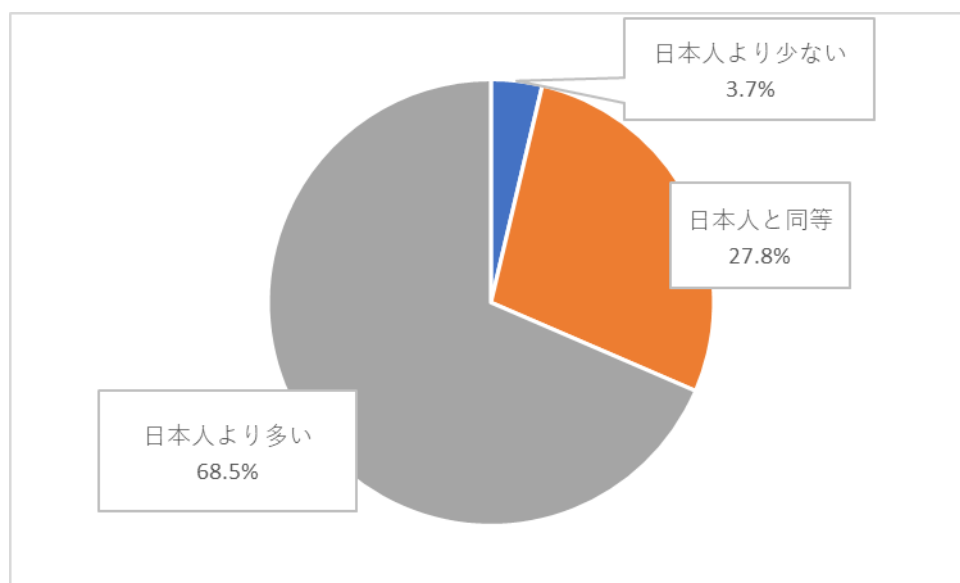
③ 専門知識・技術の習得



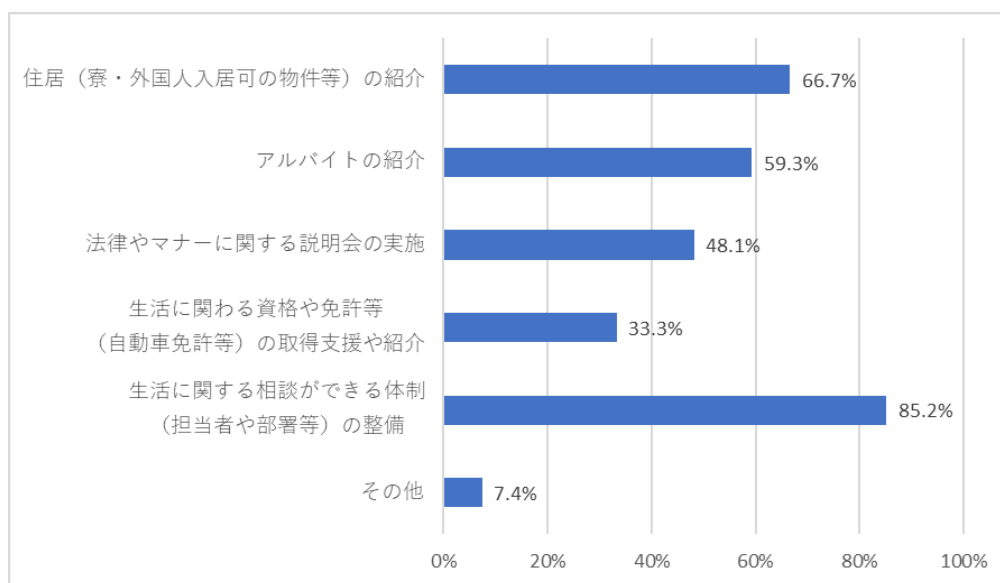
④ 自身のキャリアに対する意識



⑤ 就職に苦勞する学生

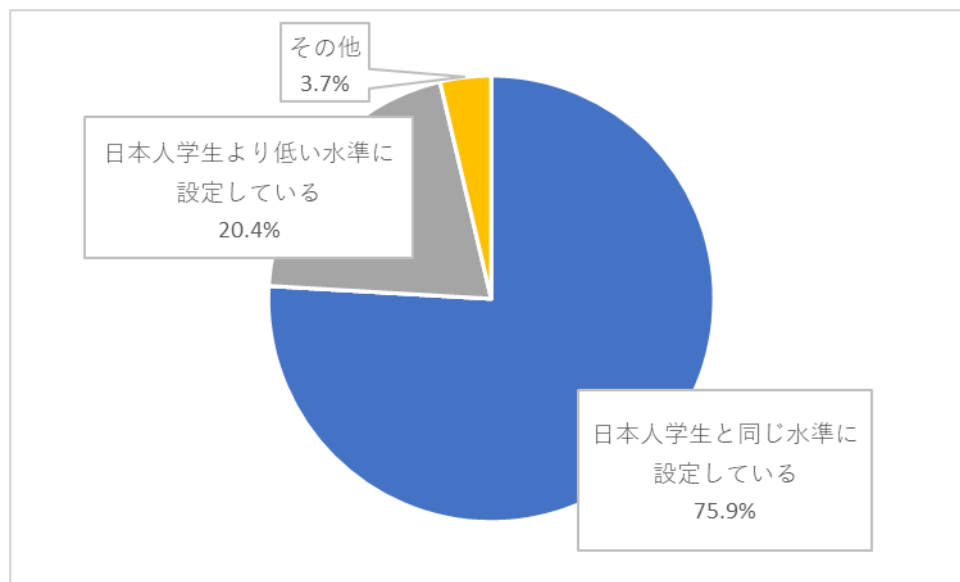


(9) 御校が留学生を受け入れるにあたり、生活面でどのような支援を行っていますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

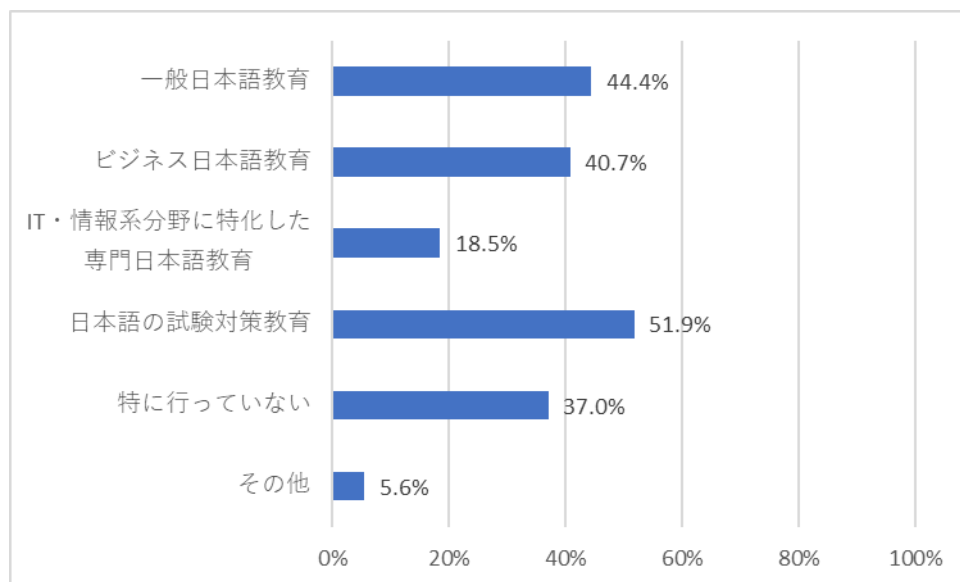


II. 留学生への教育内容について

- (10) 御校で IT・情報系専門学科の留学生への専門教育の内容をどの水準に設定していますか。当てはまる選択肢を1つ選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



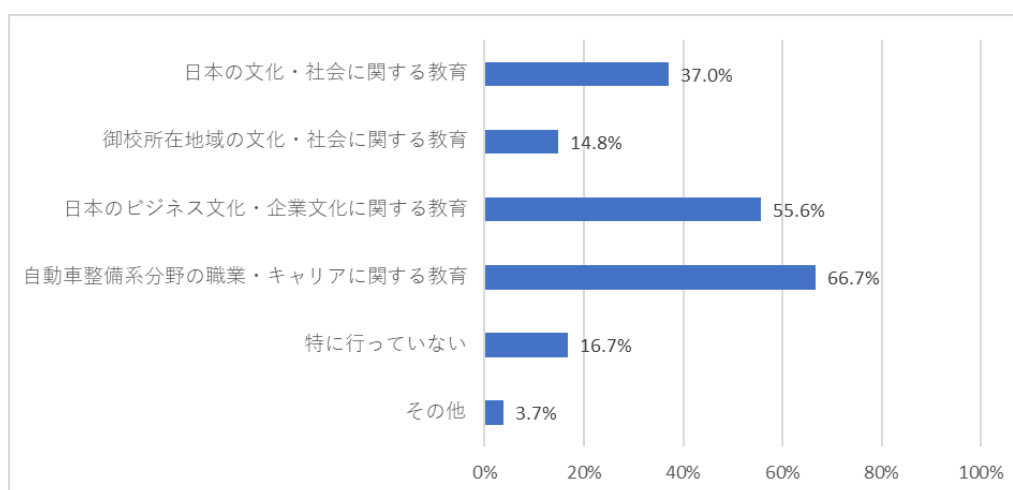
- (11) 御校ではどのような日本語教育を行っていますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



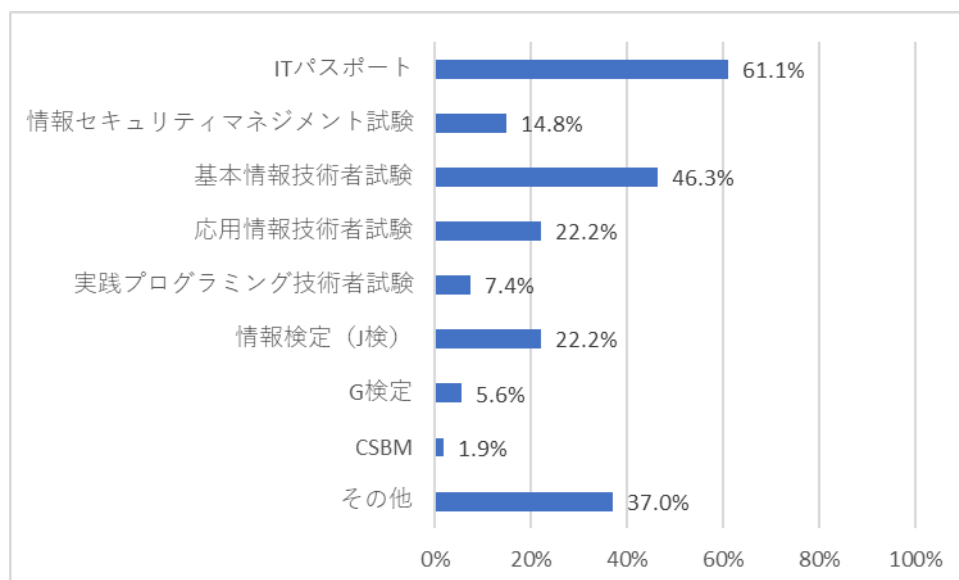
(12) 御校では留学生に対して年間何時間程度日本語教育の授業を提供していますか。具体的にご記入ください。

最高値	最低値	平均値	中央値
550 時間	0 時間	124.8 時間	70 時間

(13) 御校では自動車整備系分野の専門科目や日本語教育の他にどのような教育を行っていますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

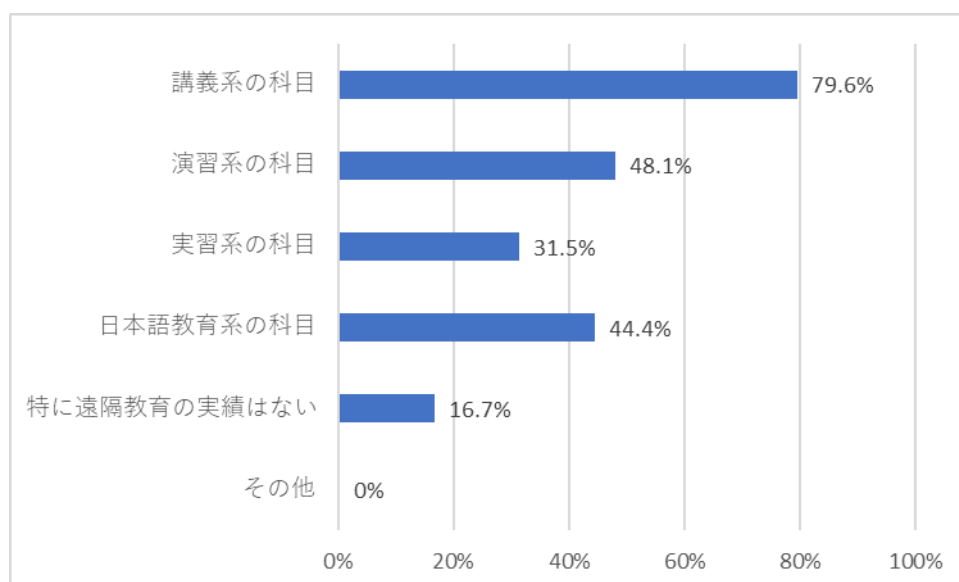


- (14) 御校では留学生にどのような IT・情報系分野の資格の取得に関する授業を提供していますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

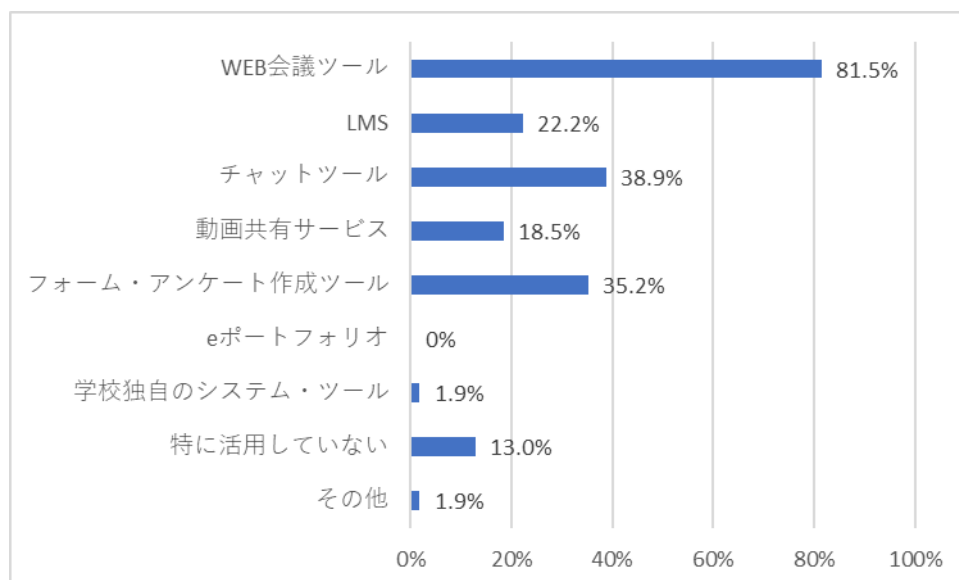


III. 留学生に対する遠隔教育の実績について

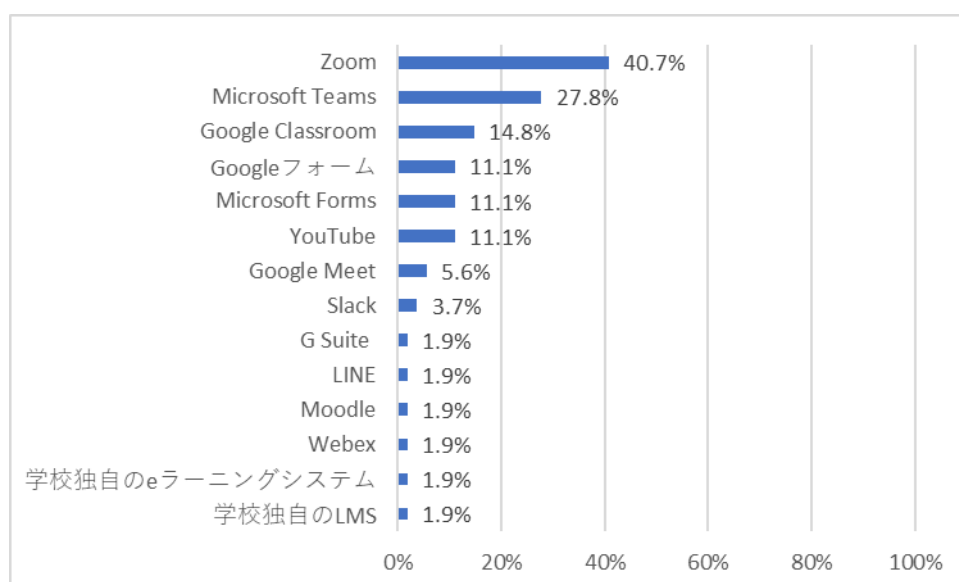
- (15) 御校では留学生に対してどのような科目で遠隔教育・遠隔授業の実績がありますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



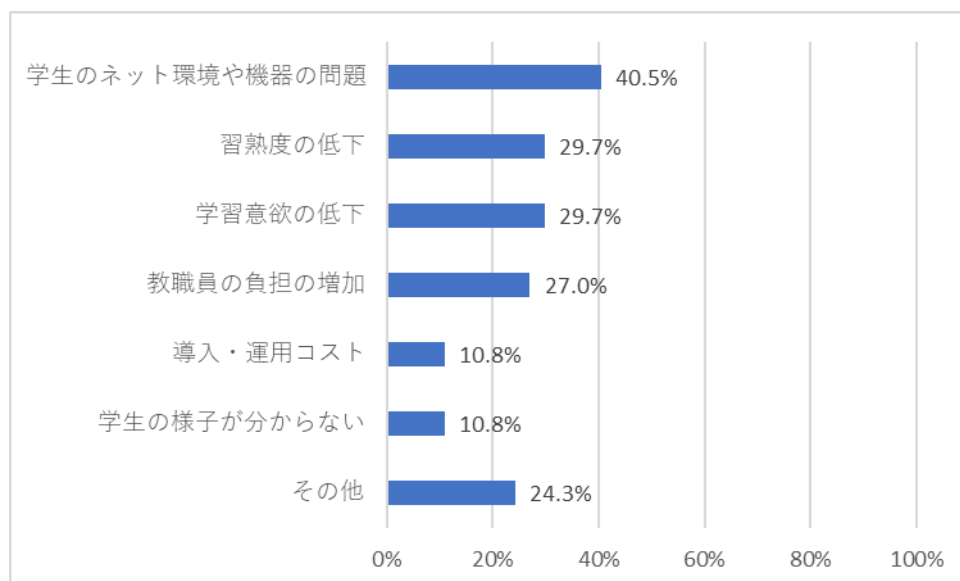
- (16) 御校では留学生に対する遠隔教育・遠隔授業の際、どのようなシステム・ツールを活用しましたか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



- (17) 御校では留学生に対する遠隔教育・遠隔授業の際に活用したシステム・ツールを具体的にご記入ください。

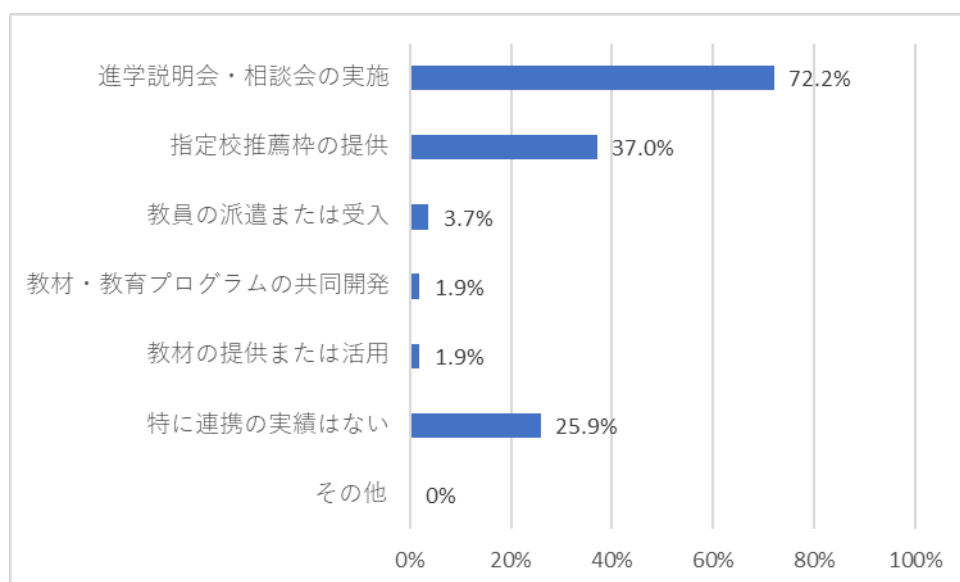


(18) 御校が行っている／行った留学生に対する遠隔教育・遠隔授業において、課題や問題点ございましたらご記入ください。

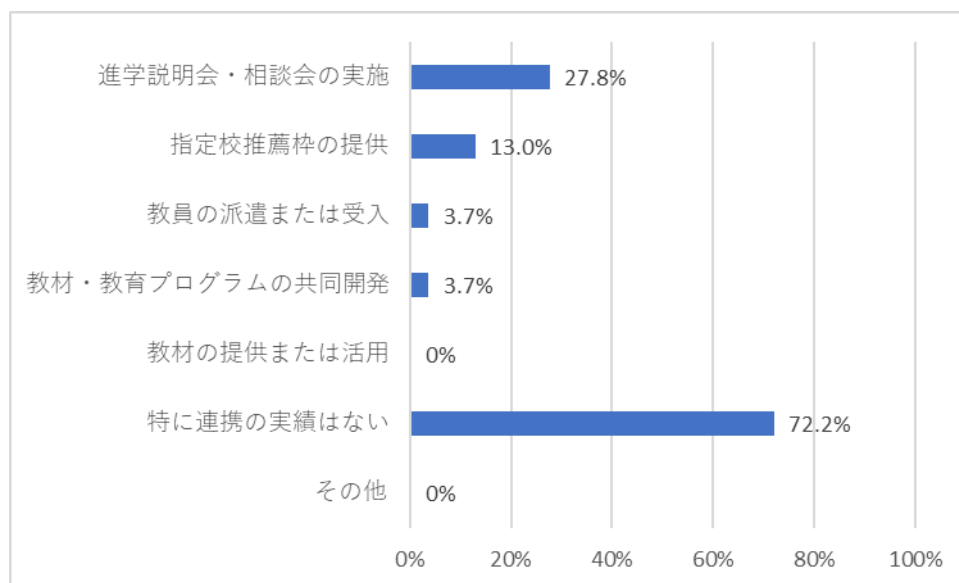


IV. 日本語教育機関や企業・団体等との連携の実績について

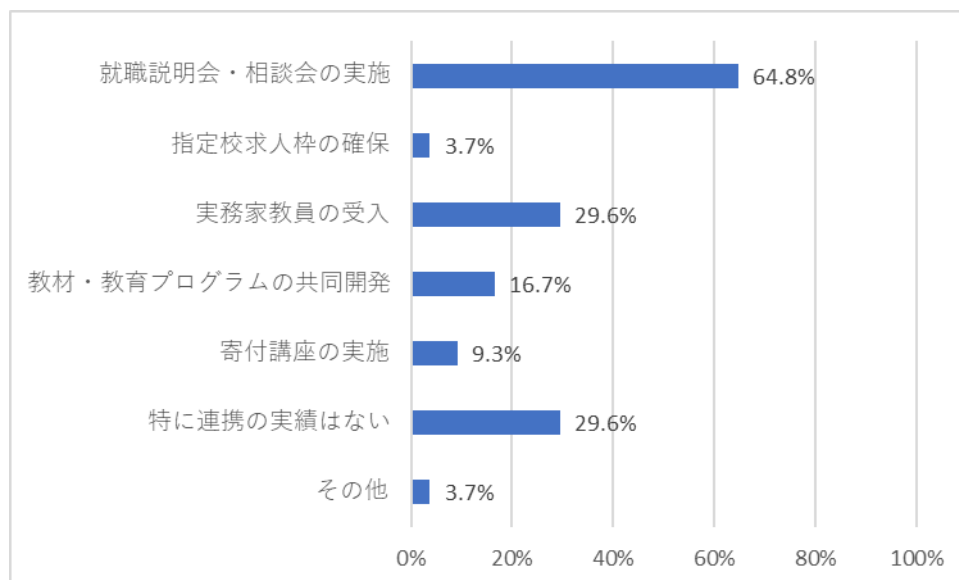
(19) 御校は日本国内の日本語教育機関とどのような連携の実績がありますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



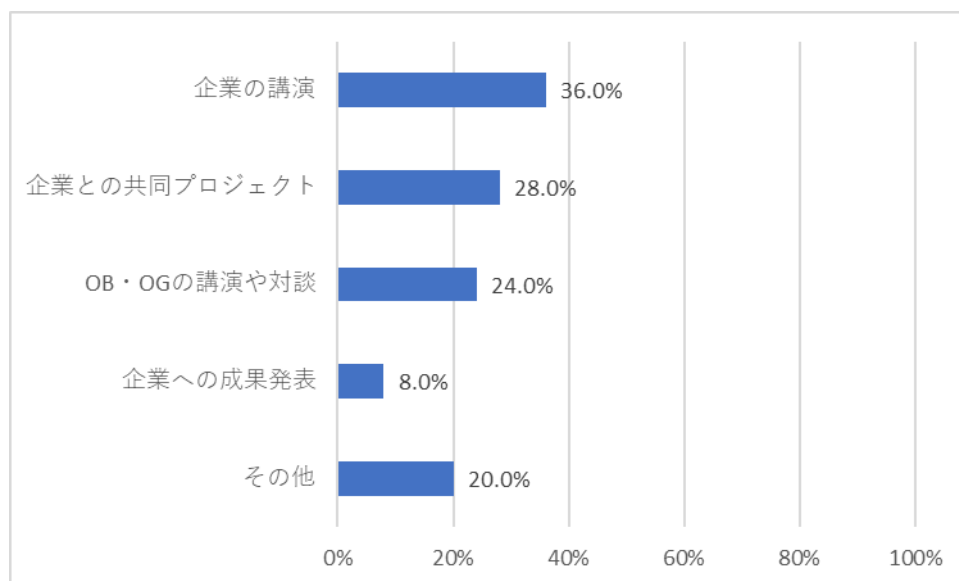
(20) 御校は海外の日本語教育機関とどのような連携の実績がありますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



(21) 御校は IT・情報通信系企業・団体とどのような連携の実績がありますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

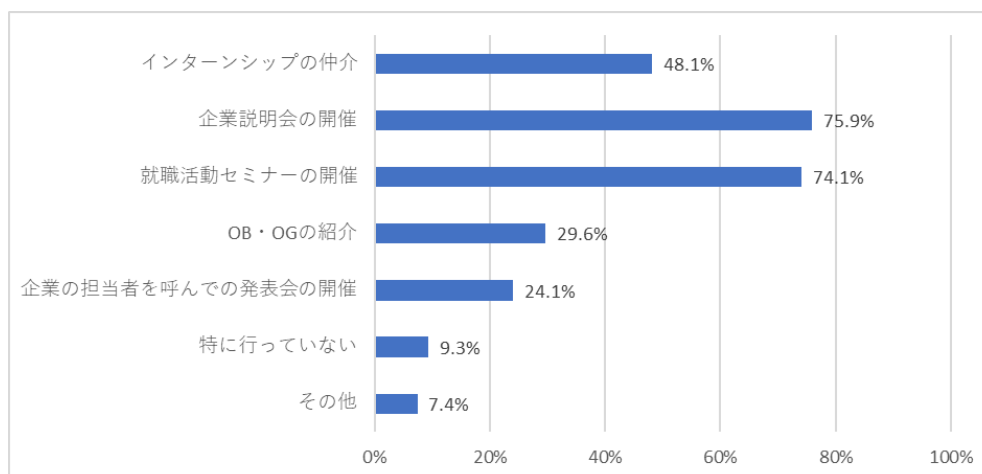


(22) その他にも御校が教育を行う上で、連携・協力関係にある外部組織や個人等がございましたら、連携・協力内容も含めて可能な範囲でご記入ください。

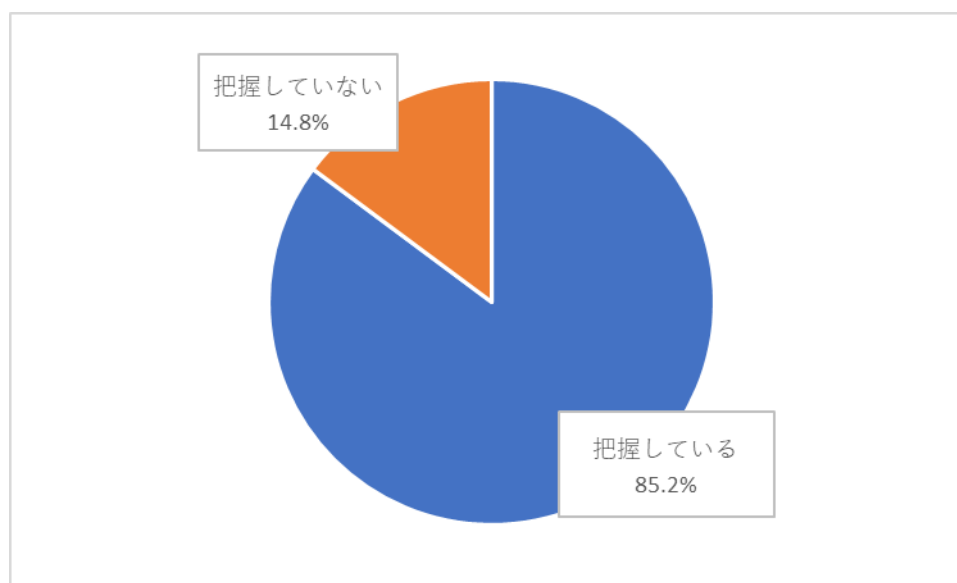


V. 留学生の就職について

(23) 留学生に対する日本での就職の支援として、御校ではどのような取り組みを行っていますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



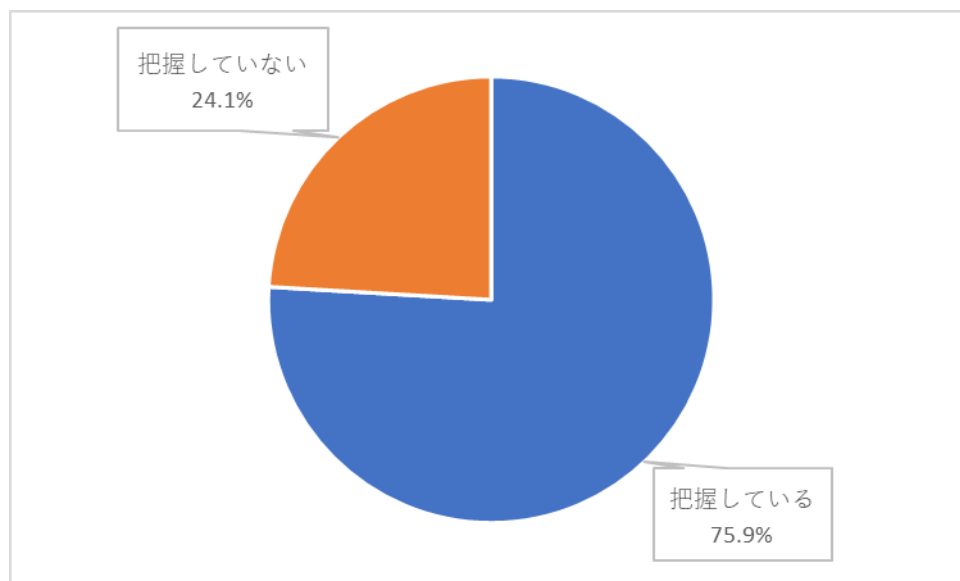
(24) 御校の留学生の日本国内就職率について調査し把握しておられますか。



※「把握している」を選択された方、就職率をご記入ください。

最高値	最低値	平均値	中央値
100%	15%	75.8%	82.4%

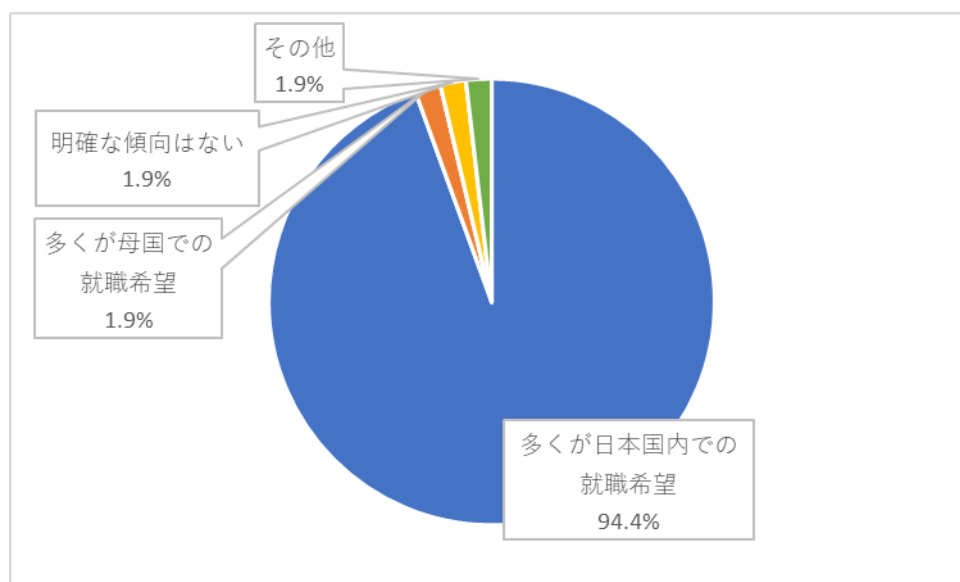
(25) 御校の留学生の御校所在都道府県内就職率について調査し把握しておられますか。



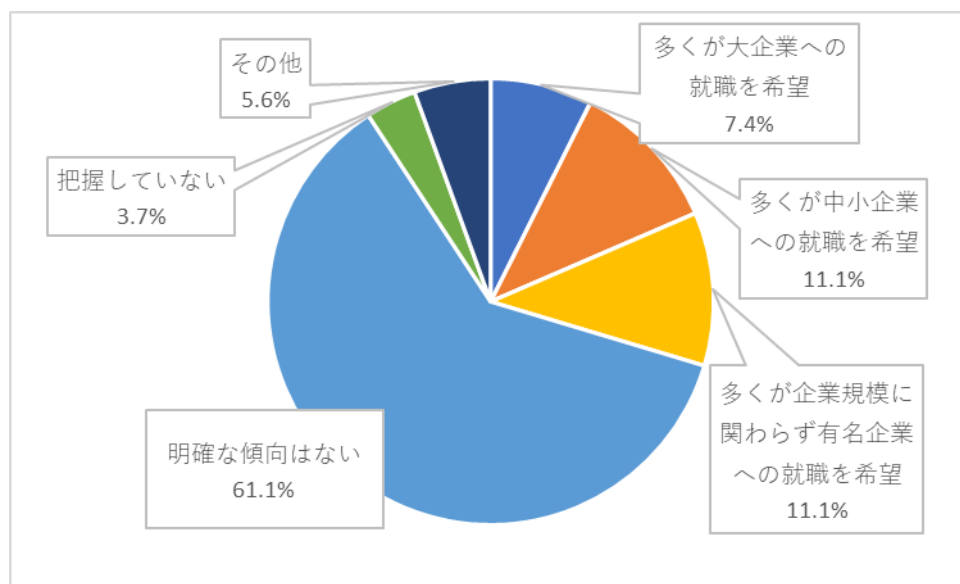
※「把握している」を選択された方、就職率をご記入ください。

最高値	最低値	平均値	中央値
100%	0%	45.1%	50%

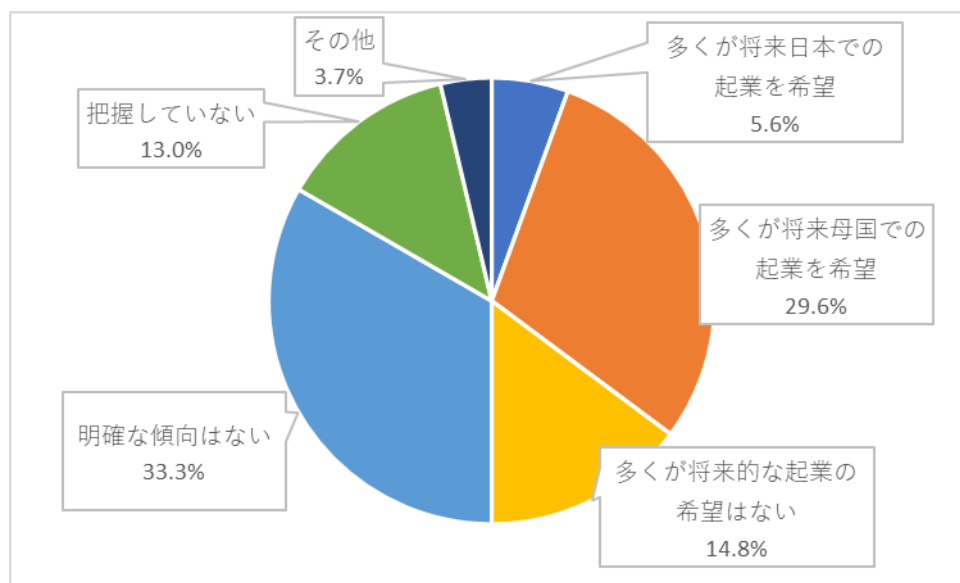
(26) 御校の留学生の就職希望国の傾向について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



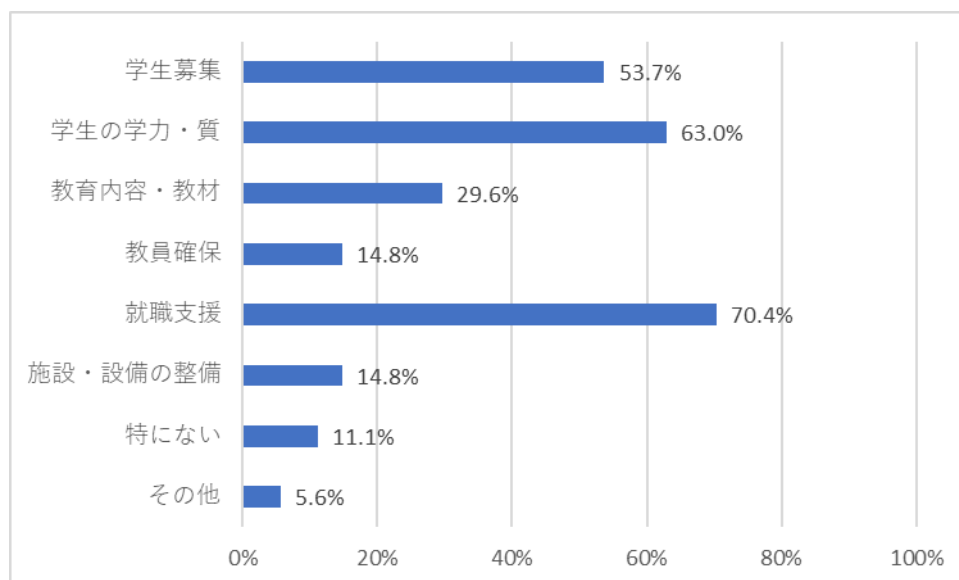
(27) 御校の留学生の就職希望企業の傾向について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



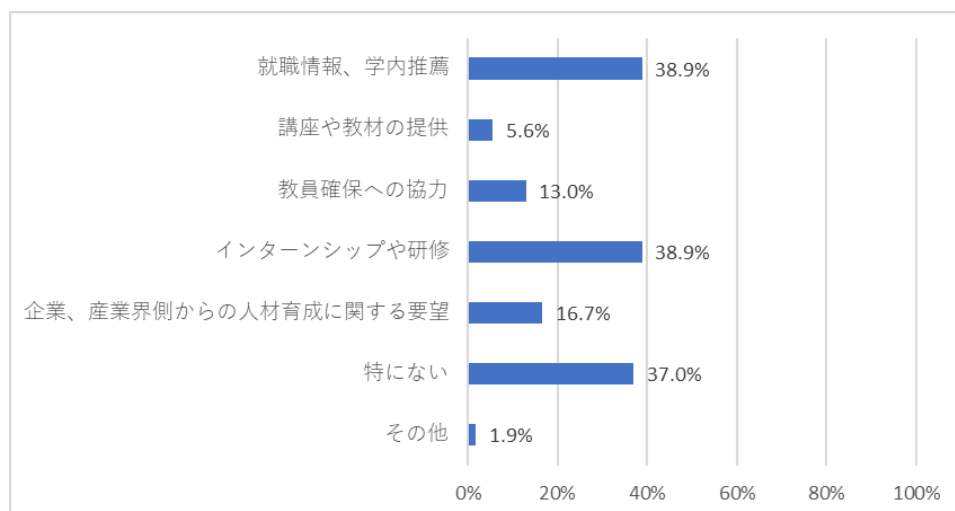
(28) 御校の留学生の起業意欲の傾向について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



(29) 御校の留学生への教育について、課題と感じていることはありますか。次の選択肢の中から該当するものをすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

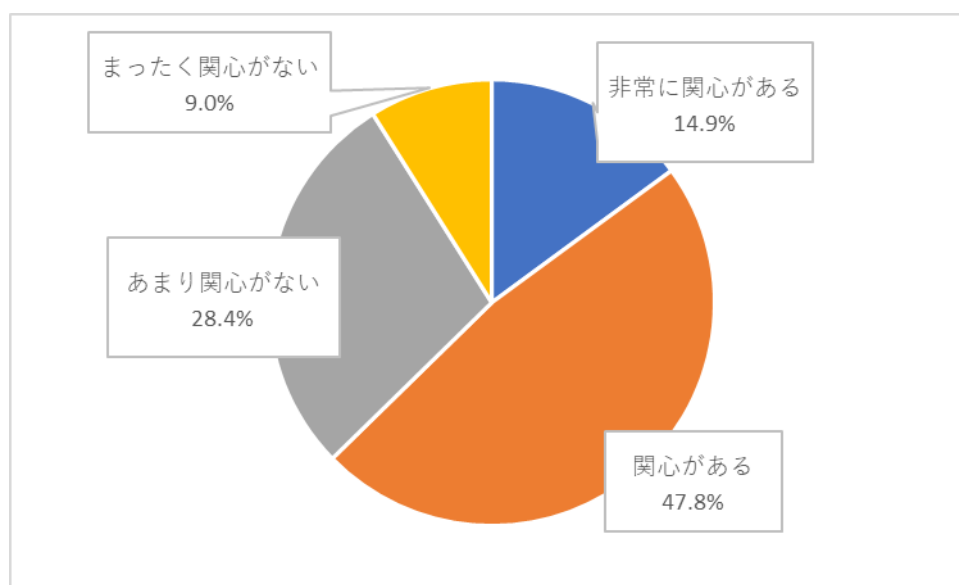


(30) 企業・団体、産業界との連携について、御校が現在課題と感じていることはありますか。次の選択肢の中から該当するものをすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

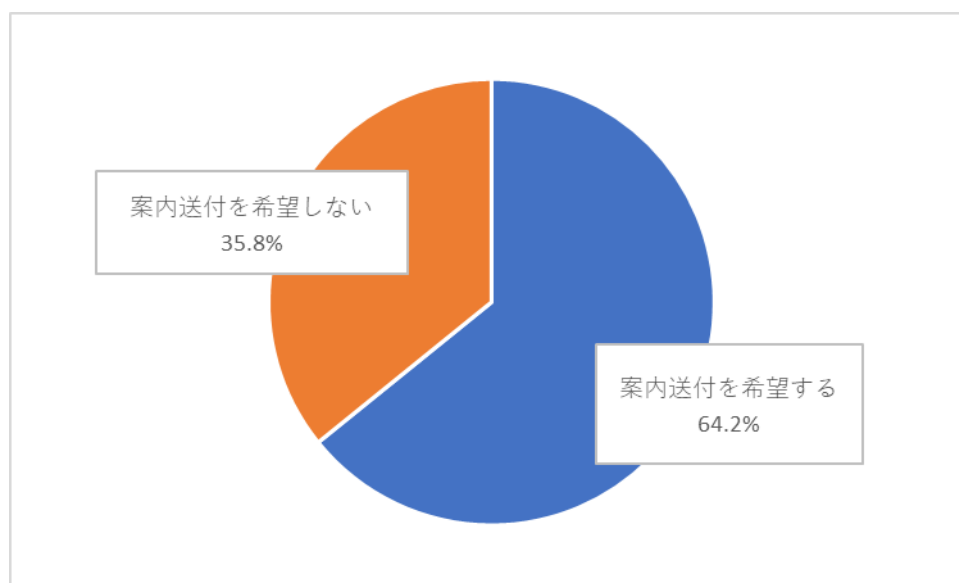


VII. 本事業について

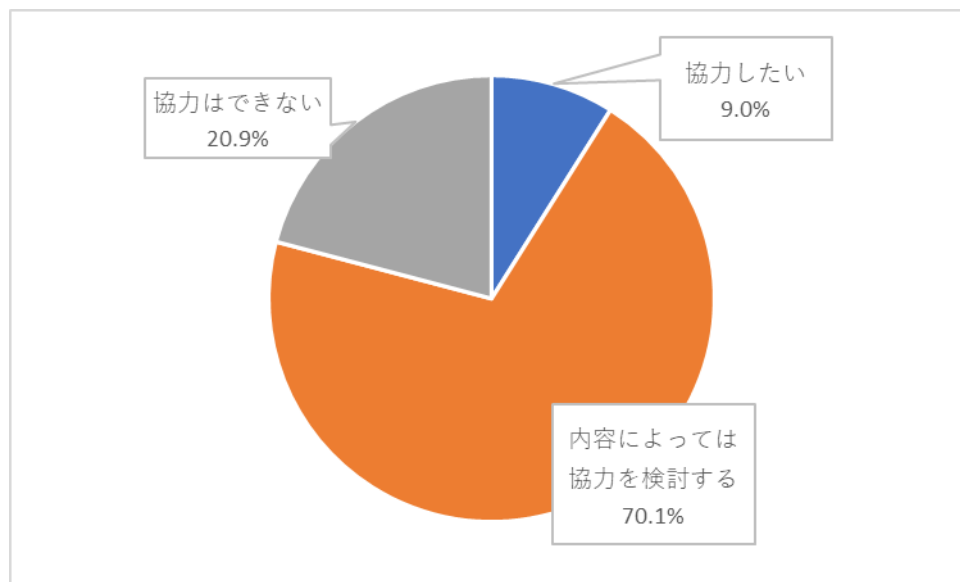
- (31) 当財団は文部科学省委託事業の一環で専門学校や海外の日本語教育機関、企業及び業界団体等との連携のもと、留学生の募集・教育・生活・就職をトータルパッケージで支援する体制整備の事業を推進しています。本プログラムにご関心はございますか。次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。



- (32) 今後、IT・情報系分野の専門学校様に向けて、上記の支援体制構築の進捗や事業活動成果の報告、人材育成などの情報提供活動を行っていきたいと考えております。御校にもこのような活動のご案内をお送りしてもよろしいでしょうか。次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。



(33) 上記の留学生支援体制整備に際して、さらなる調査や教材開発、実証、成果普及などを企画・実施します。その際には、IT・情報系分野の専門学校の皆様へ実施協力を依頼する予定です。御校の協力のご意向について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。



(34) 本事業における IT・情報系分野の留学生の募集・教育・生活・就職に関する取り組みに関して、ご意見・ご要望があれば、ご記入ください。

- ・ 漢字能力が劣っているからと言って留学生の知的能力が低いわけではない。特に IT・情報分野ではこの視点が必要であると思う。漢字にふりがなを付けた教材や資格検定試験を希望する。
- ・ 本校では過去 15 年ほど前に何年か継続して留学生を受け入れたことがあり、その後受け入れを取りやめました。（本校規模では、負担が大きすぎるため）
- ・ Word Excel レベルで就職できるように、政府が基準を緩くしてほしい。
- ・ 地元の IT 系、情報系の企業様に留学生（外国人材）の受け入れを行っていただけるような取り組みがあるとありがたいです。
- ・ 留学を希望する外国人の現在の入国状況などを把握されていらしたら、情報提供いただけるとありがたいです。
- ・ 留学生は IT 業界への興味は持っているが、実際の仕事内容はあまり理解しておらず、単に「IT」という言葉だけで判断している傾向がある。そのうえで、IT 業界で就職を目指す留学生に向けた意識付けや動機付けができるセミナーの実施があると留学生に紹介したい。また、IT 業界でも高いコミュニケーション能力を問われることが多様にあり、特に IT スキルはあるのに、就職面接や募集要項で「N1」を求められると、非漢字圏の留学生には就職のハードルが高いように思われ

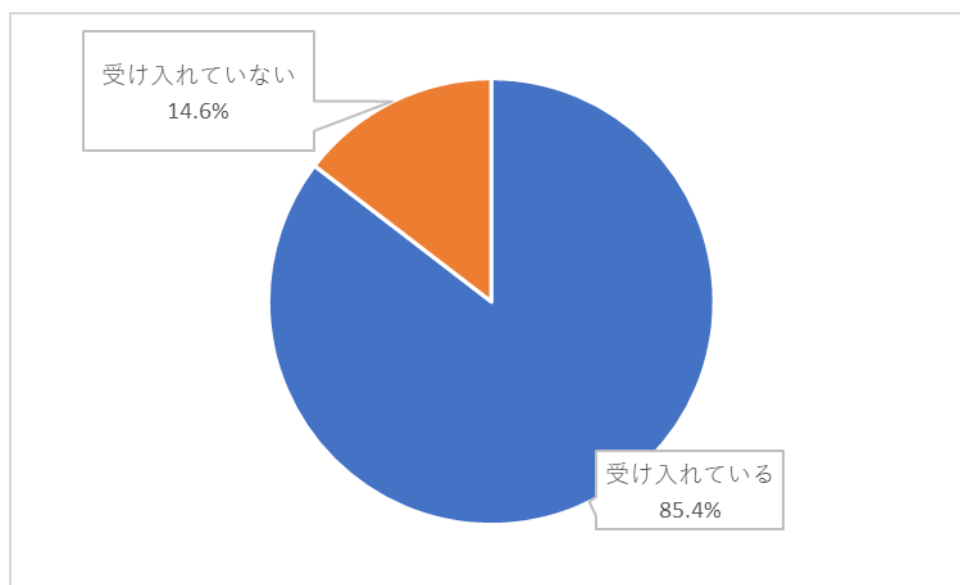
る。そこで、「N1」の日本語能力を求めるのではなく、日本語力の敷居を少し下げて、まずは、面接で会話をしてから判断していただける企業が増えると、IT 業界への就職も活発になるのではと考える。

・技・人・国での就職が難しいのでアドバイス等頂きたい。

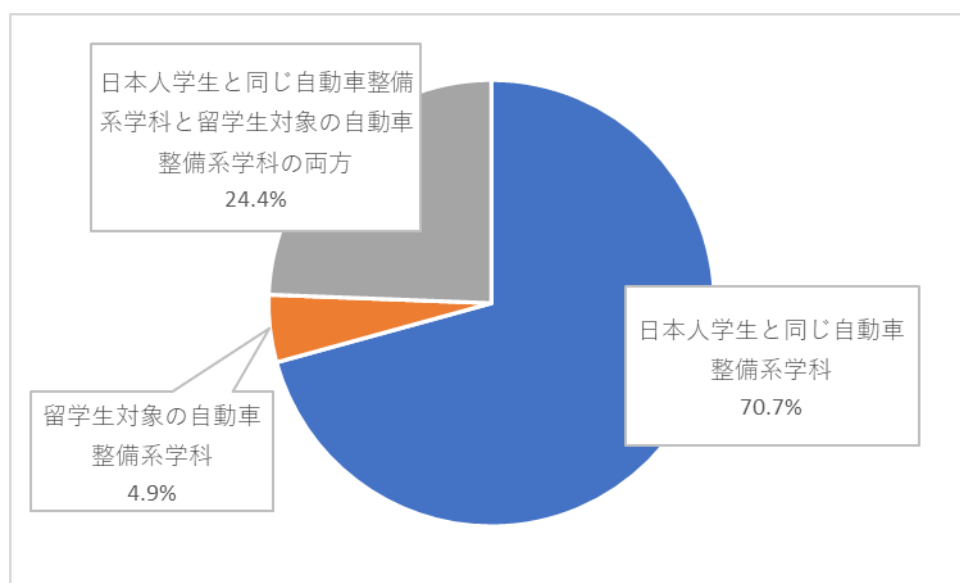
2.1.3. 自動車整備系専門学校アンケート調査結果

I. 留学生の受入について

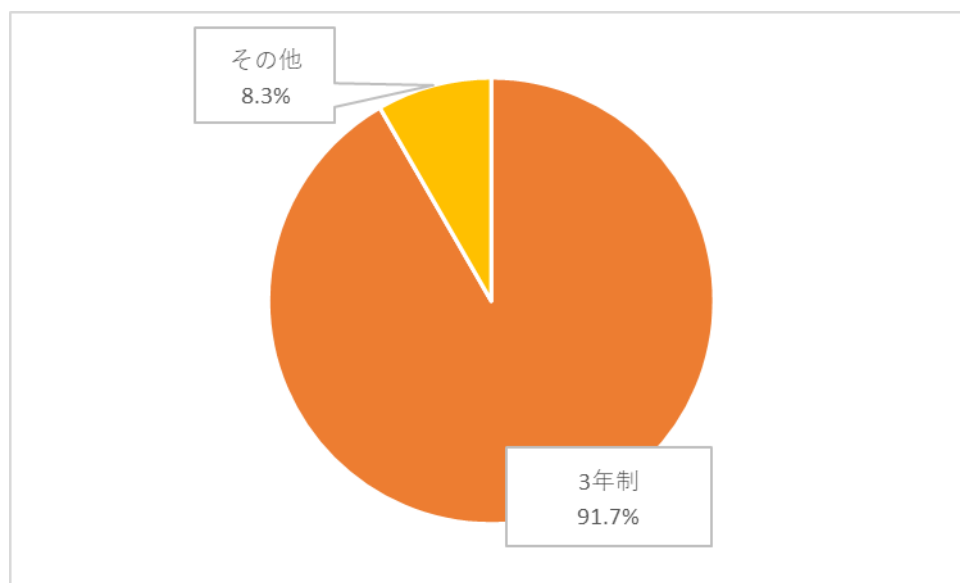
- (1) 御校では留学生の受け入れを行っていますか。当てはまる選択肢を1つ選んでください。



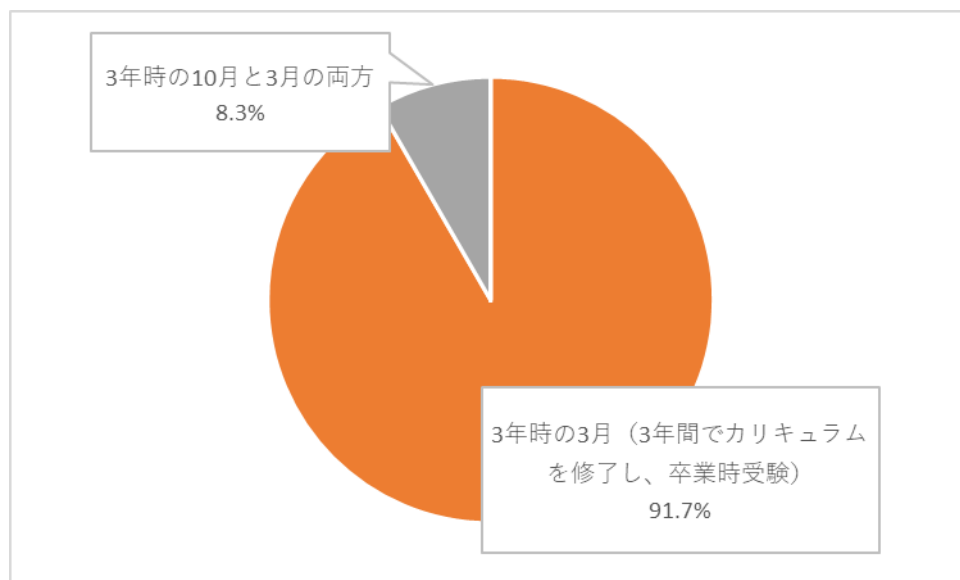
- (2) 御校はどのような学科で留学生受け入れを行っていますか。当てはまる選択肢を1つ選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



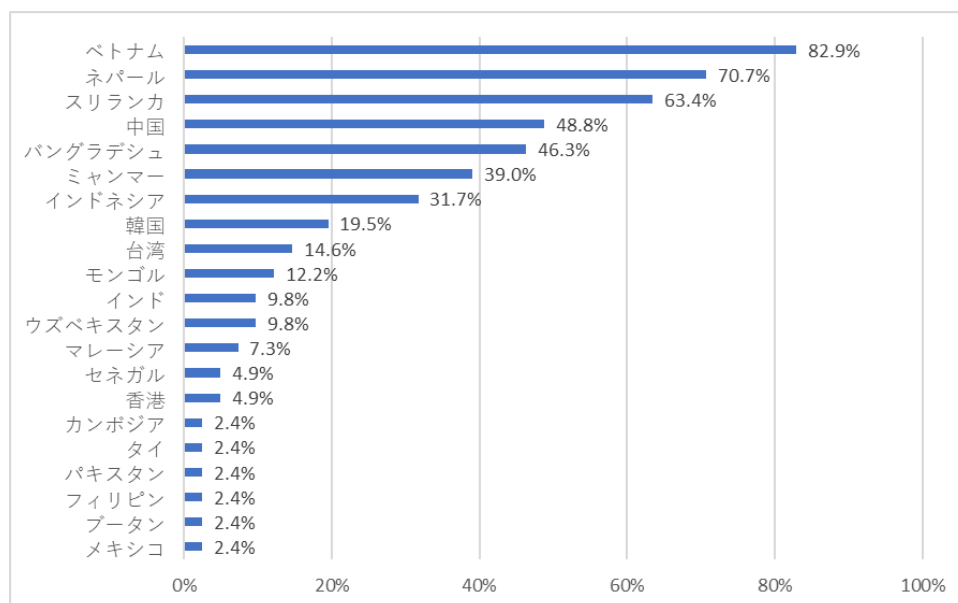
※留学生対象の自動車整備系学科をお持ちの学校様、何年制の学科としていますか。当てはまる選択肢を1つ選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



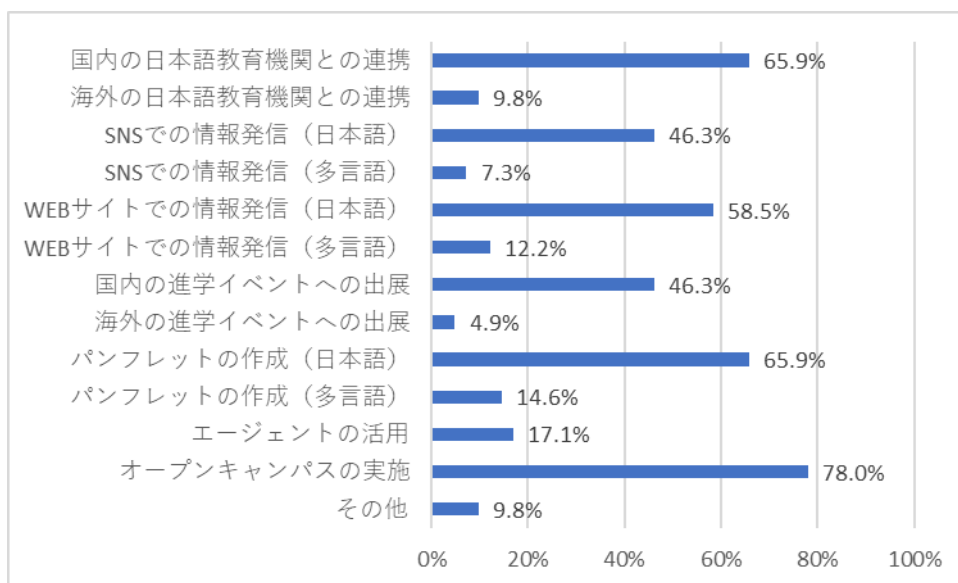
※「3 年制課程」とご回答の学校様、留学生が国家試験を受験する時期はいつに設定していますか。当てはまる選択肢を1つ選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



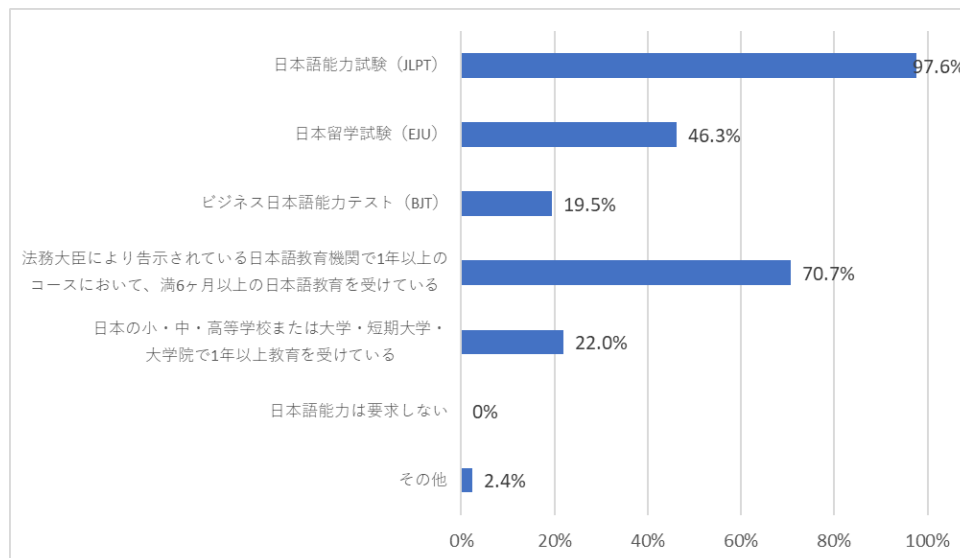
(3) 御校で受け入れている留学生の出身国をご記入ください。



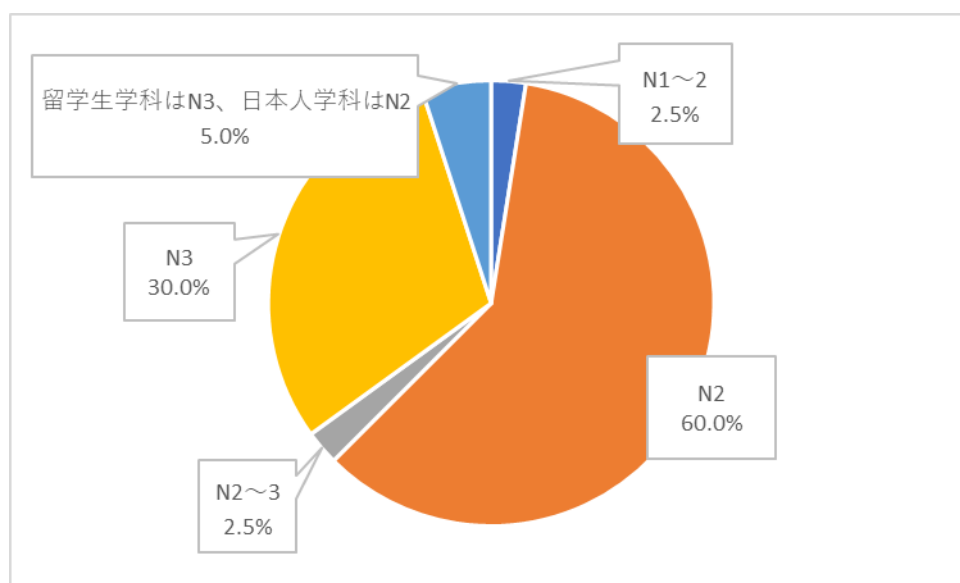
(4) 留学生の募集にあたり御校ではどのような取り組みを行っていますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



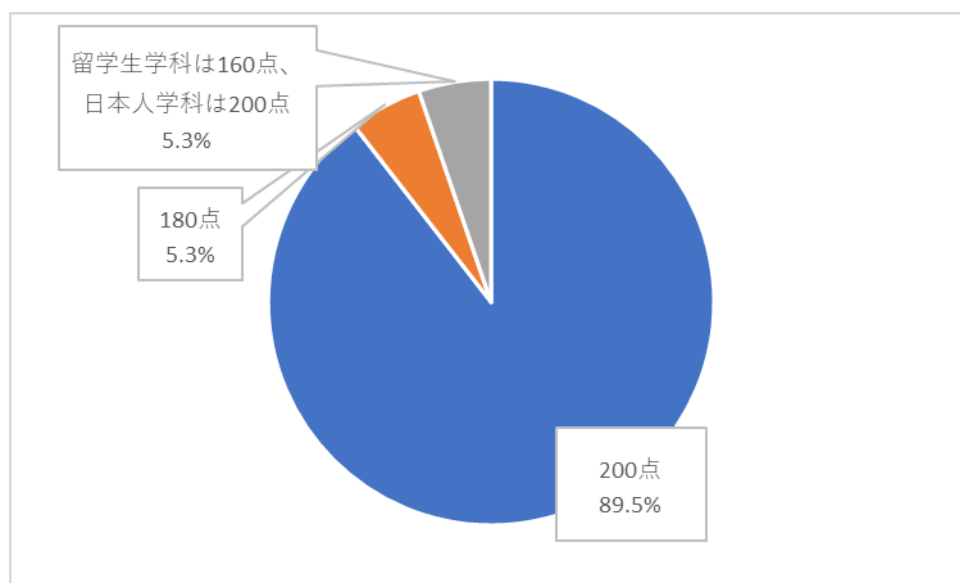
- (5) 御校の留学生の入学資格として、どの程度の日本語能力を基準としていますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。また、基準となる試験等のレベル、点数等を具体的にご記入ください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



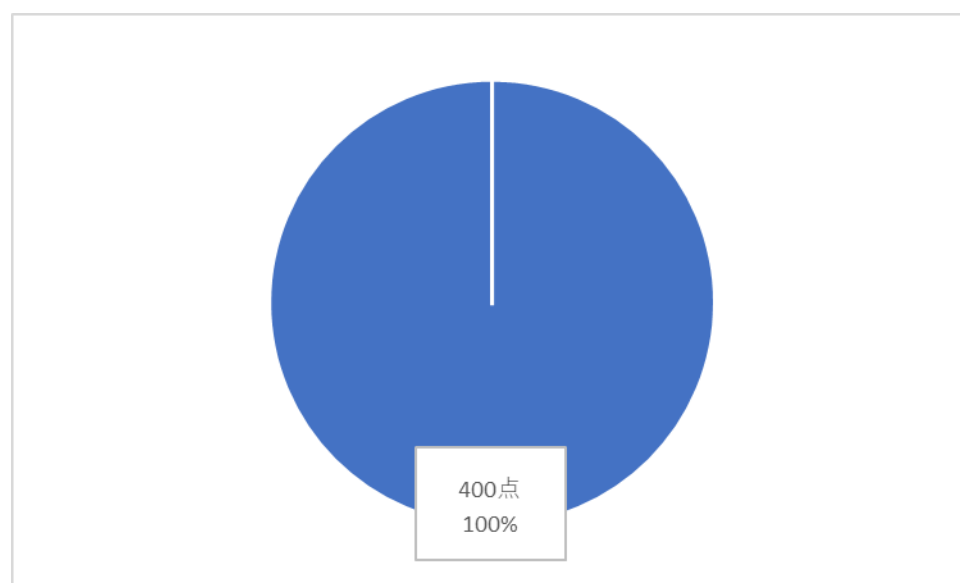
※「日本語能力試験 (JLPT)」を選択された方、基準となるレベルをご記入ください。



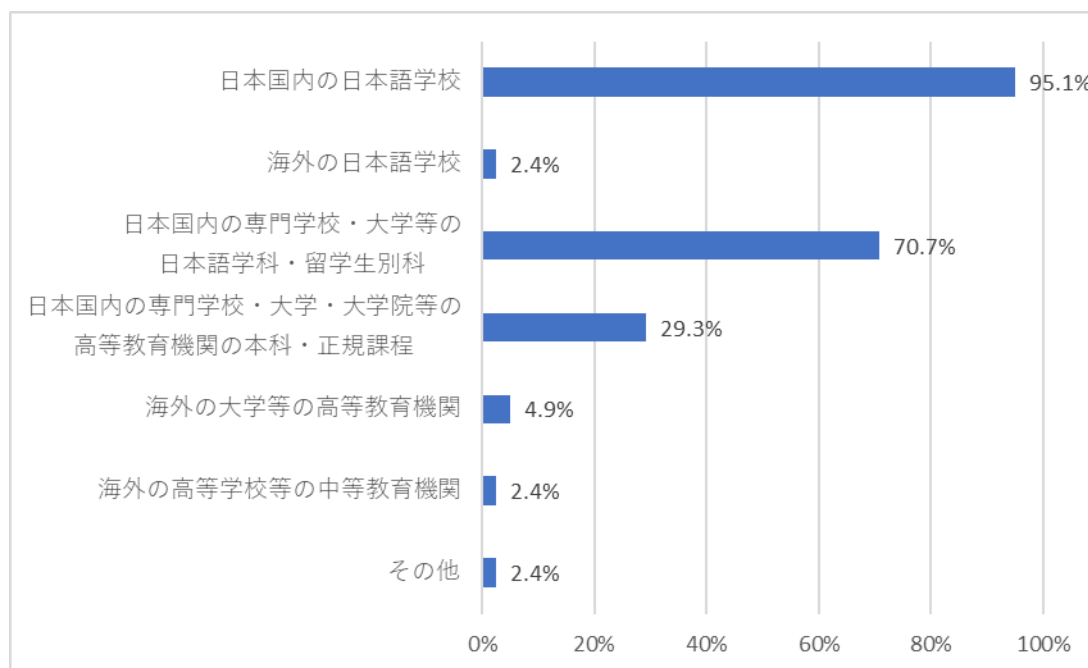
※「日本留学試験（EJU）」を選択された方、基準となるレベルをご記入ください。



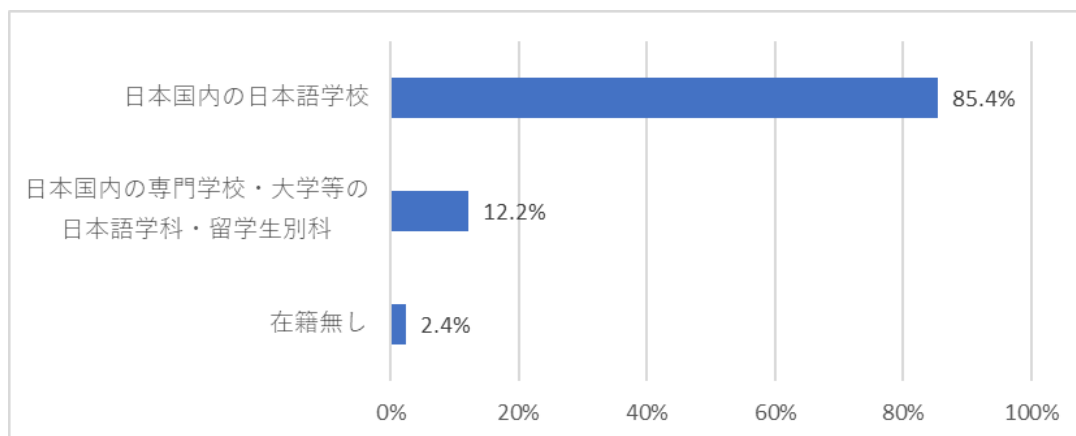
※「ビジネス日本語能力テスト（BJT）」を選択された方、基準となるレベルをご記入ください。



- (6) 御校の留学生は、どのような教育機関から進学・入学されていますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

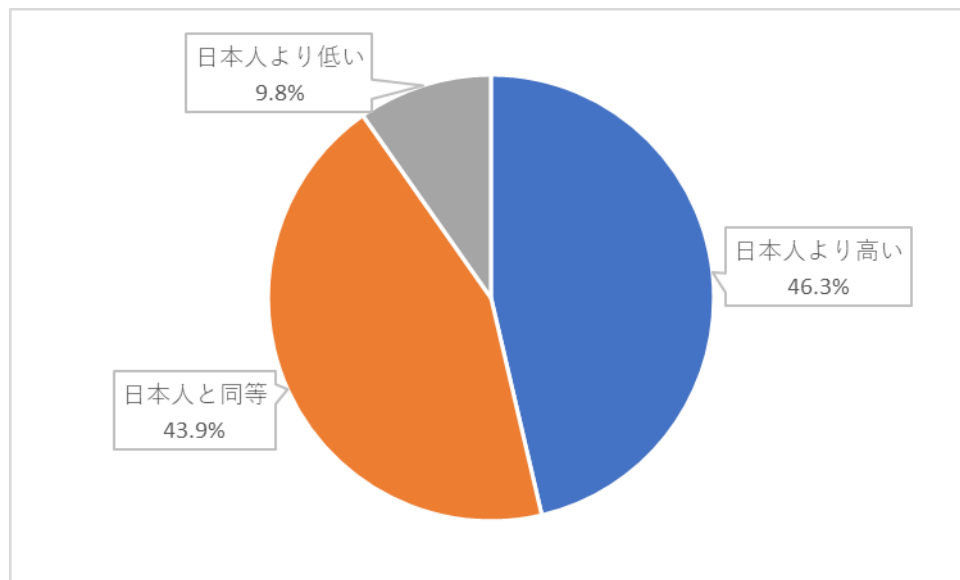


- (7) 上記質問項目(6)の中で、どの教育機関からの留学生が最も多いですか。具体的にご記入ください。

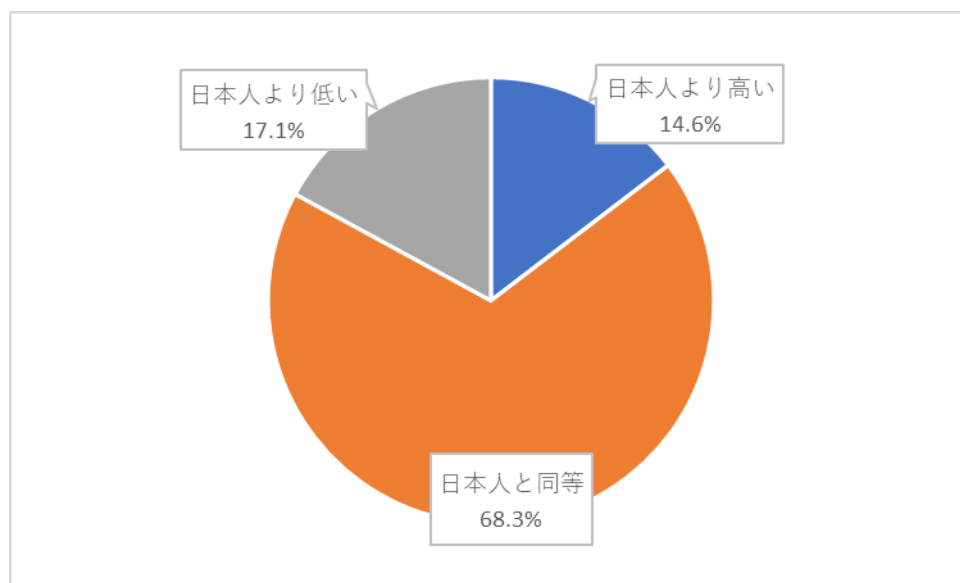


(8) 御校で留学生教育を行う中で、日本人学生と比較して、留学生全般にどのような特性
があると感じますか。当てはまる選択肢を1つずつ選んでください。

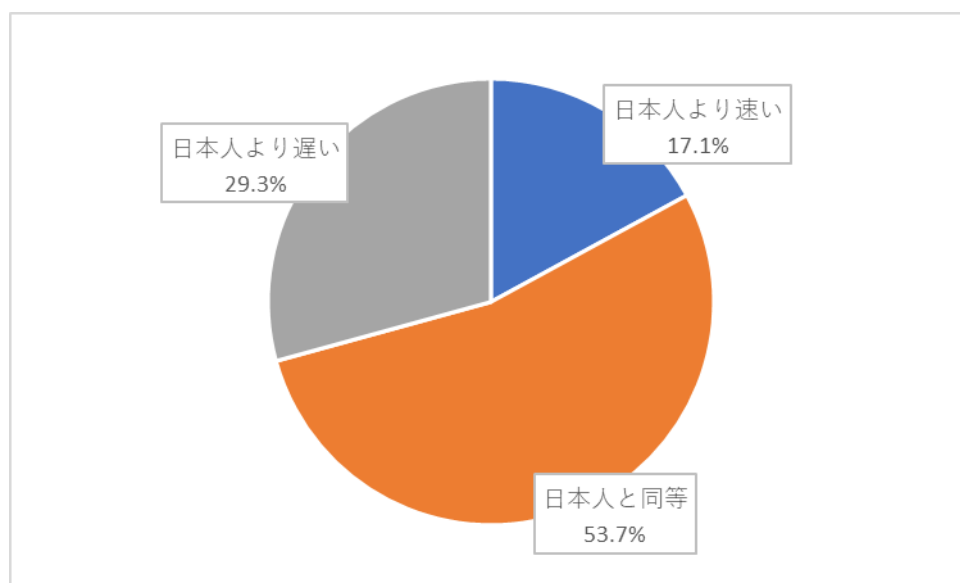
① 学習へのモチベーション



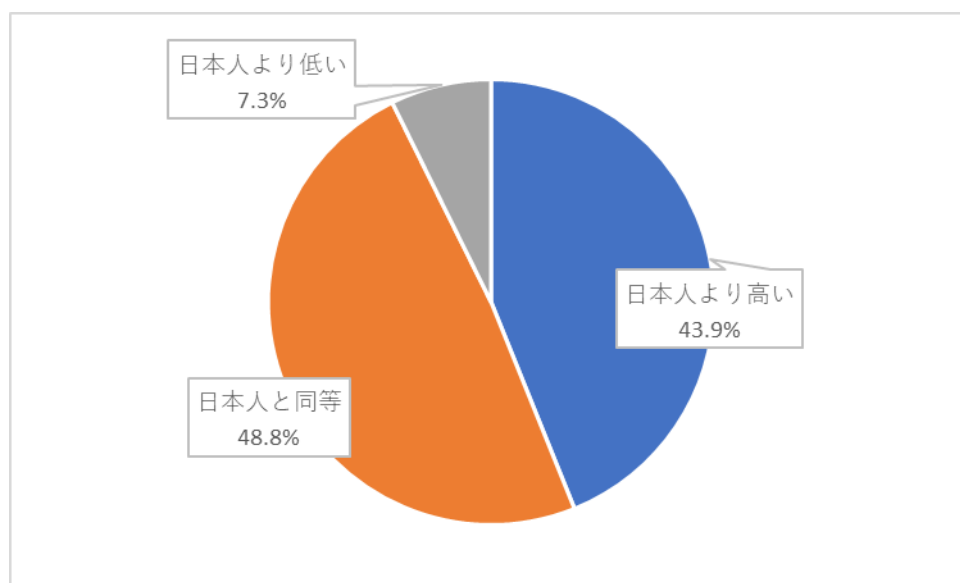
② 基礎学力



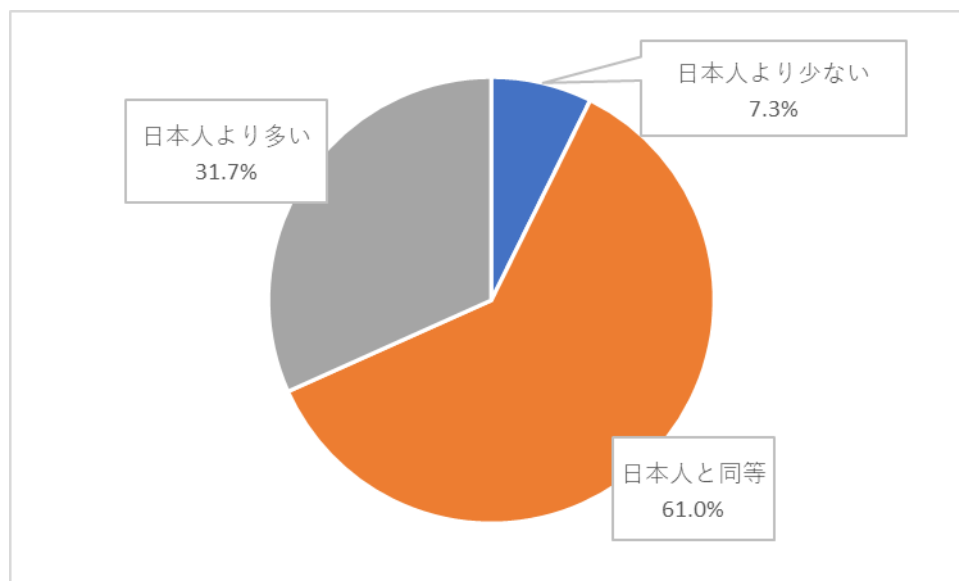
③ 専門知識・技術の習得



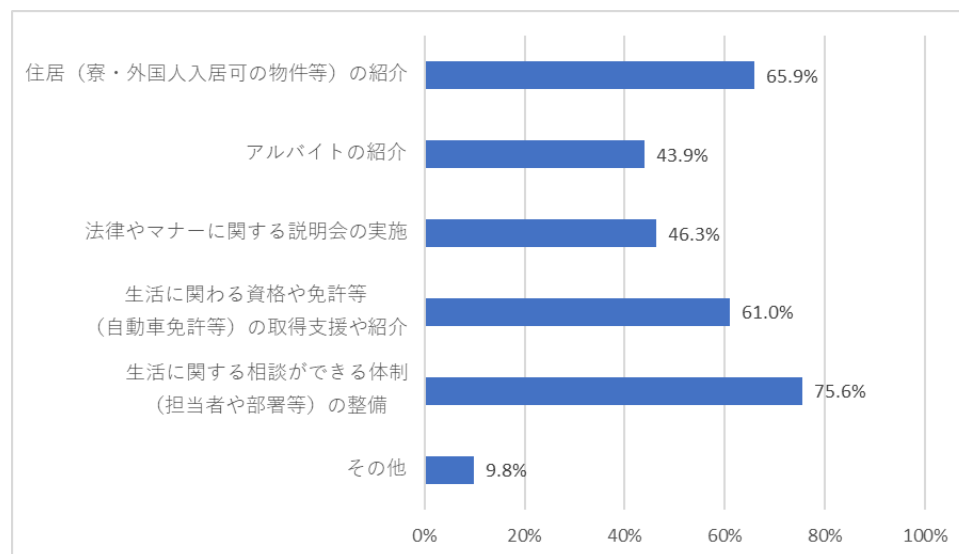
④ 自身のキャリアに対する意識



⑤ 就職に苦勞する学生

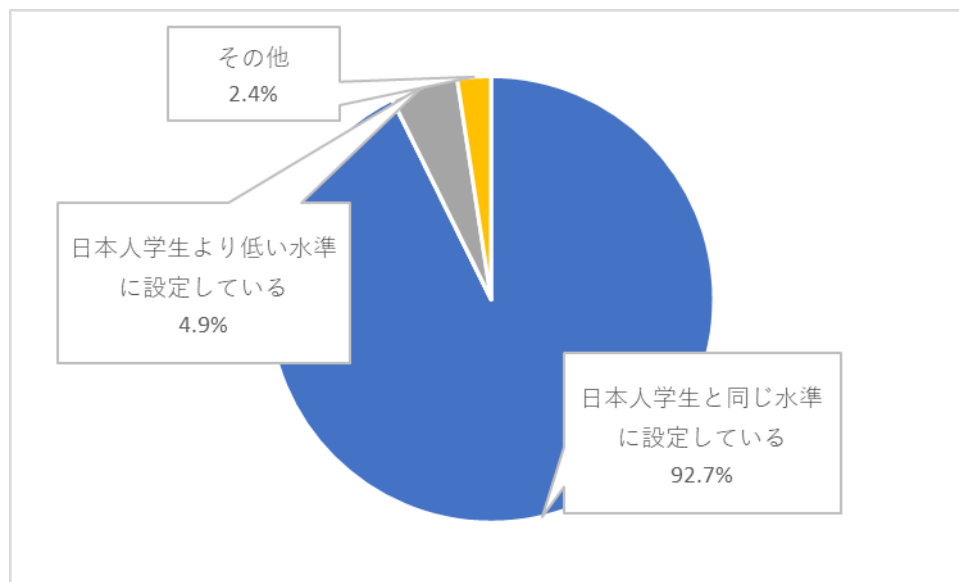


(9) 御校が留学生を受け入れるにあたり、生活面でどのような支援を行っていますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

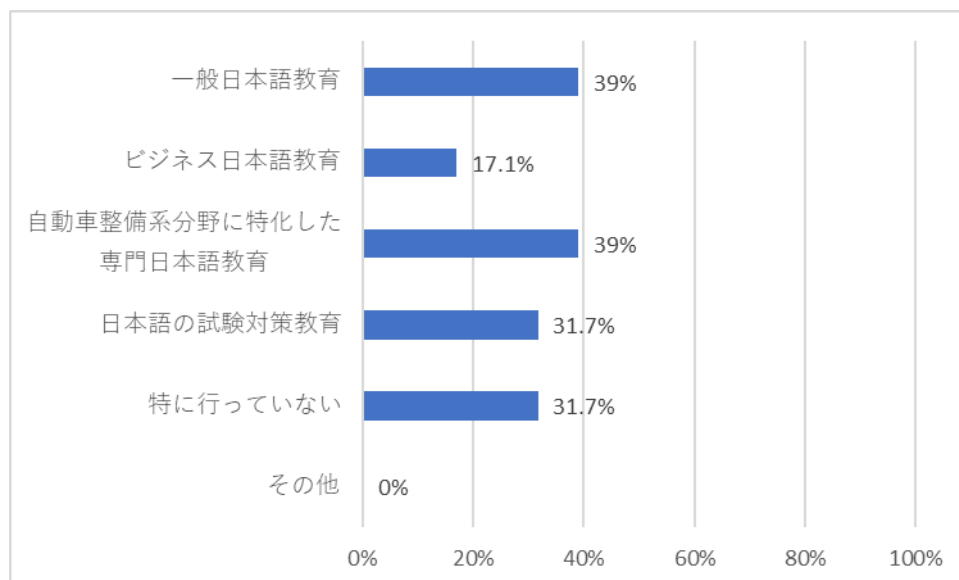


II. 留学生への教育内容について

- (10) 御校で自動車整備系専門学科の留学生への専門教育の内容をどの水準に設定していますか。当てはまる選択肢を1つ選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



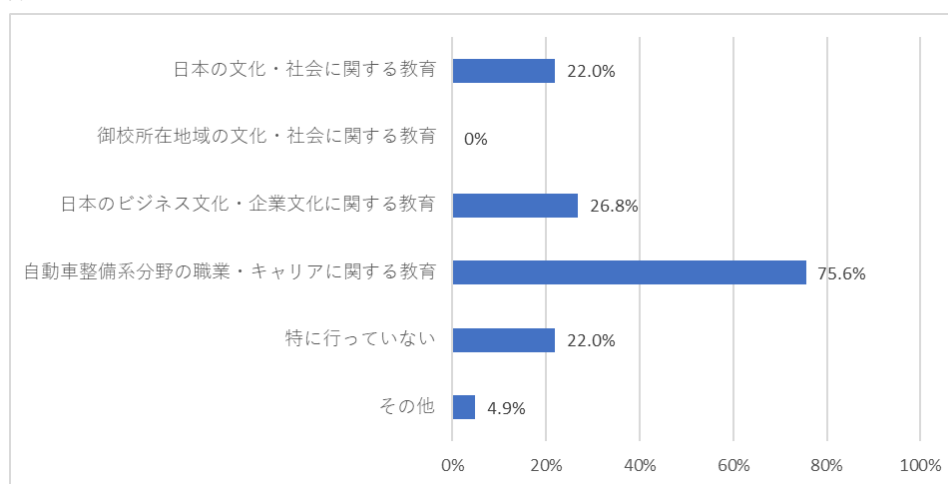
- (11) 御校ではどのような日本語教育を行っていますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



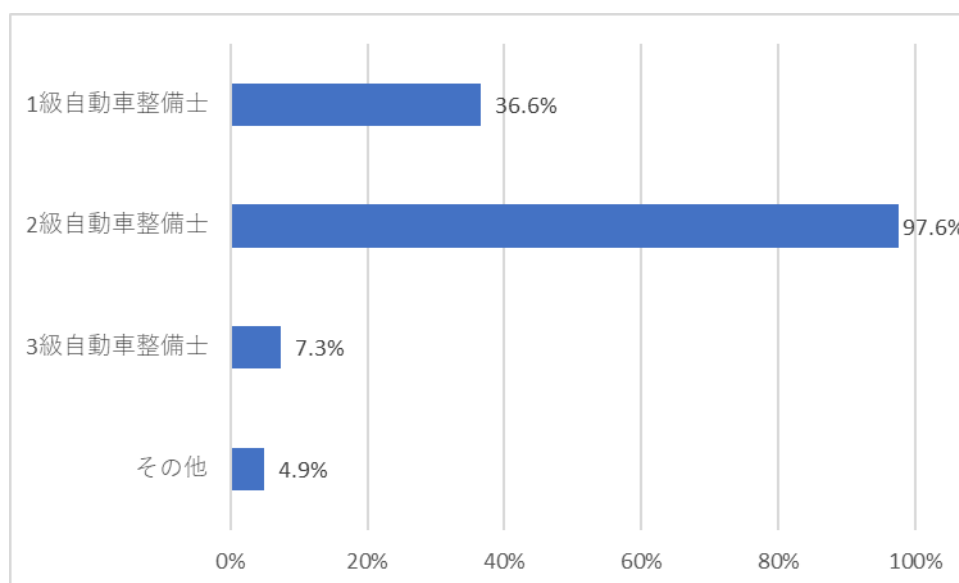
- (12) 御校では留学生に対して年間何時間程度日本語教育の授業を提供していますか。具体的に記入ください。

最高値	最低値	平均値	中央値
600 時間	0 時間	80.7 時間	33 時間

- (13) 御校では自動車整備系分野の専門科目や日本語教育の他にどのような教育を行っていますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的に記入ください。



- (14) 御校のカリキュラムでは、留学生がどのような国家資格に合格することを目指していますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的に記入ください。

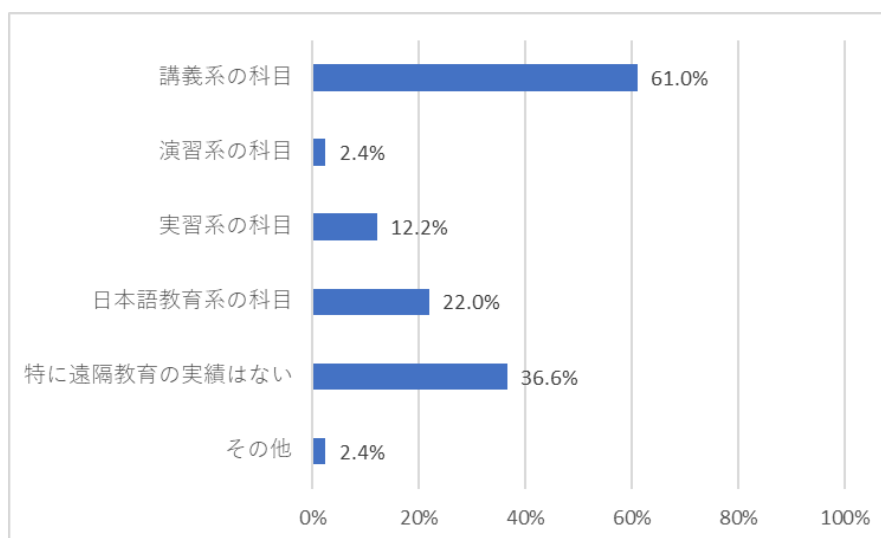


(15) 御校の留学生の国家資格合格率について具体的にご記入ください。

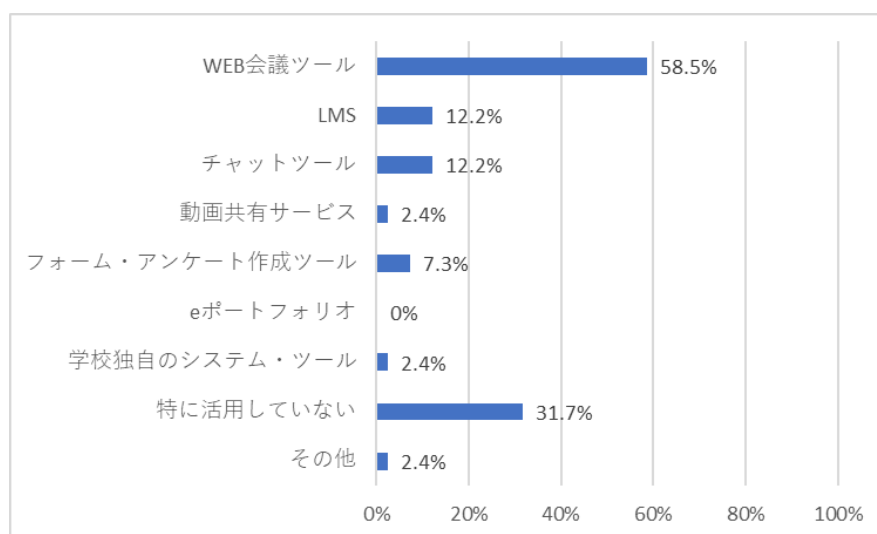
最高値	最低値	平均値	中央値
100%	30%	91.3%	100%

III. 留学生に対する遠隔教育の実績について

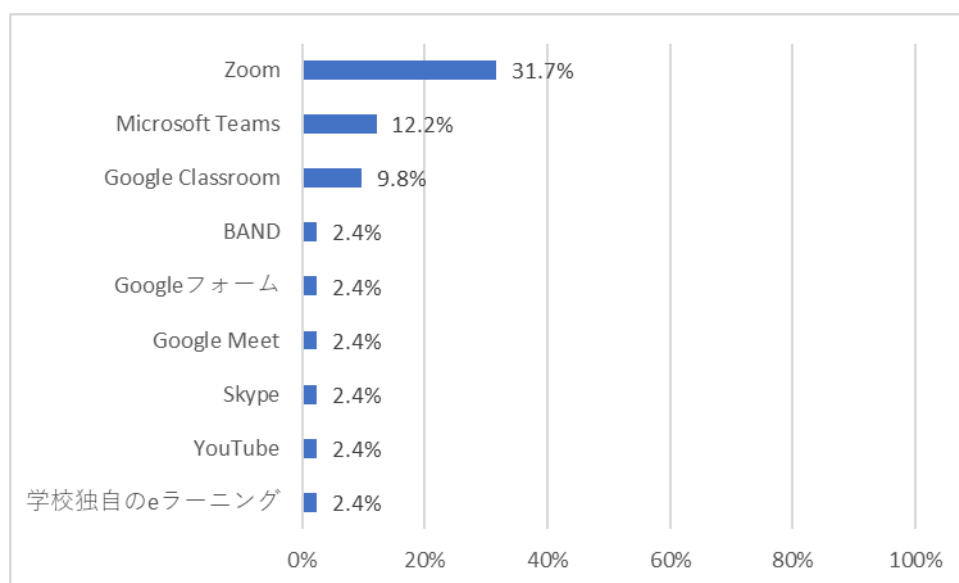
(16) 御校では留学生に対してどのような科目で遠隔教育・遠隔授業の実績がありますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



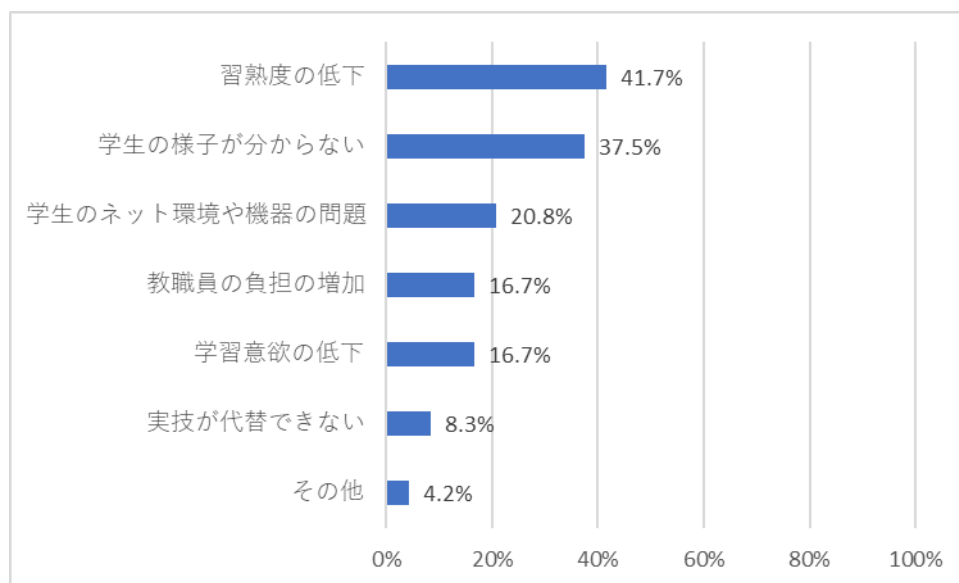
(17) 御校では留学生に対する遠隔教育・遠隔授業の際、どのようなシステム・ツールを活用しましたか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



(18) 御校では留学生に対する遠隔教育・遠隔授業の際に活用したシステム・ツールを具体的に記入ください。

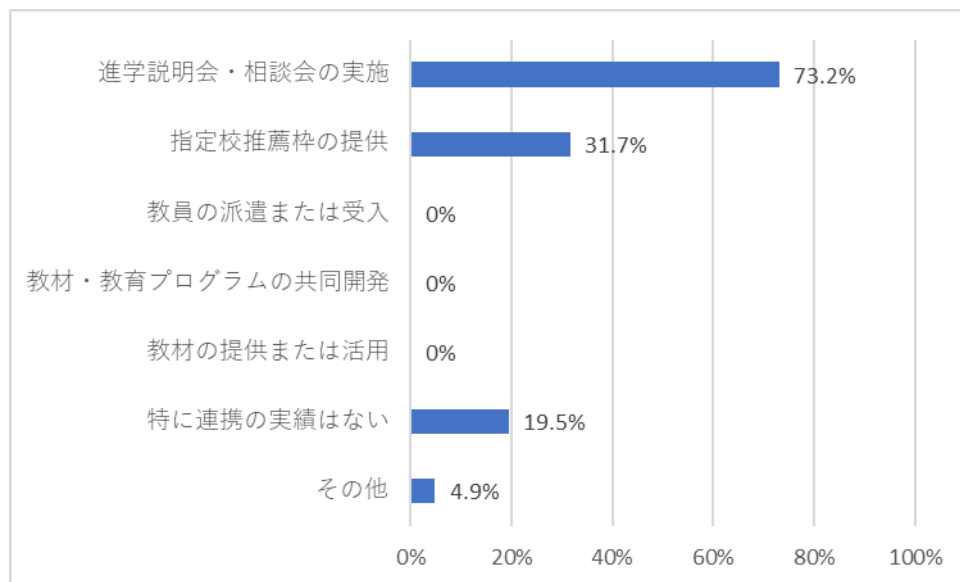


(19) 御校が行っている／行った留学生に対する遠隔教育・遠隔授業において、課題や問題点ございましたらご記入ください。

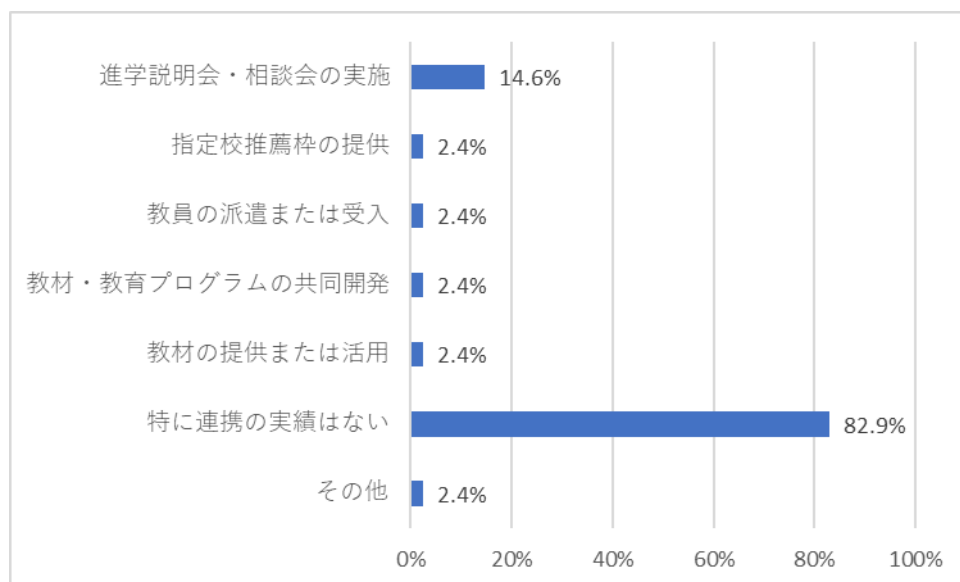


IV. 日本語教育機関や企業・団体等との連携の実績について

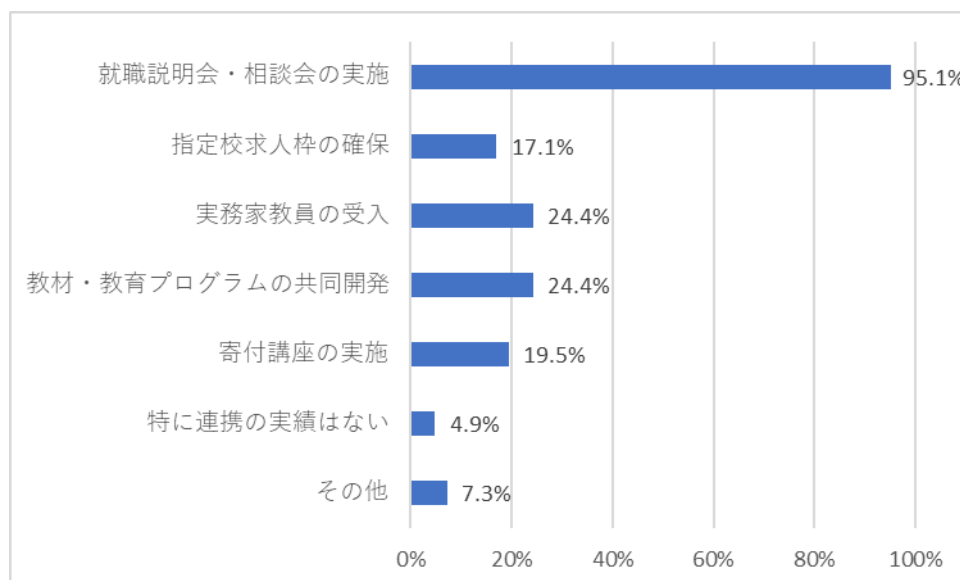
(20) 御校は日本国内の日本語教育機関とどのような連携の実績がありますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



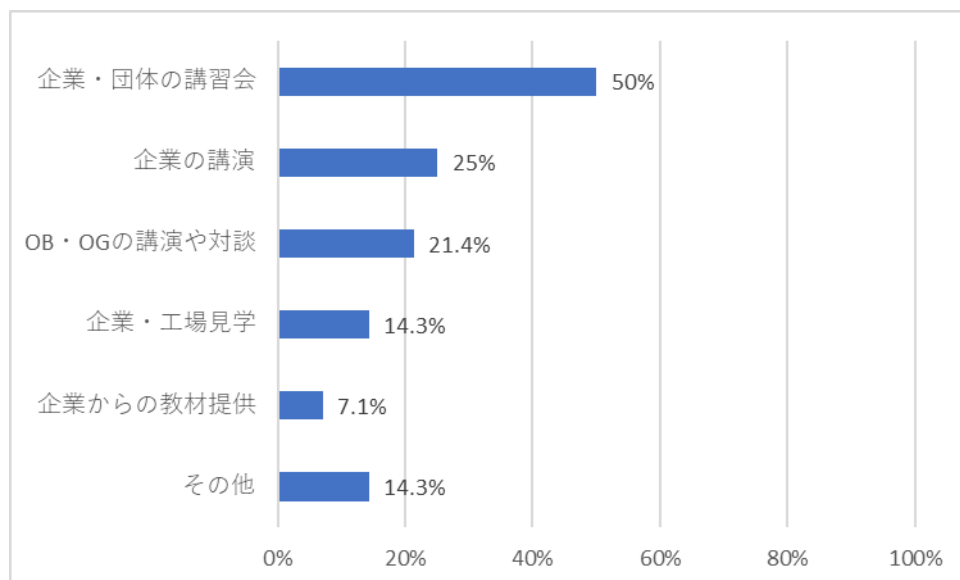
(21) 御校は海外の日本語教育機関とどのような連携の実績がありますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



(22) 御校は自動車関連企業・工場・団体とどのような連携の実績がありますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

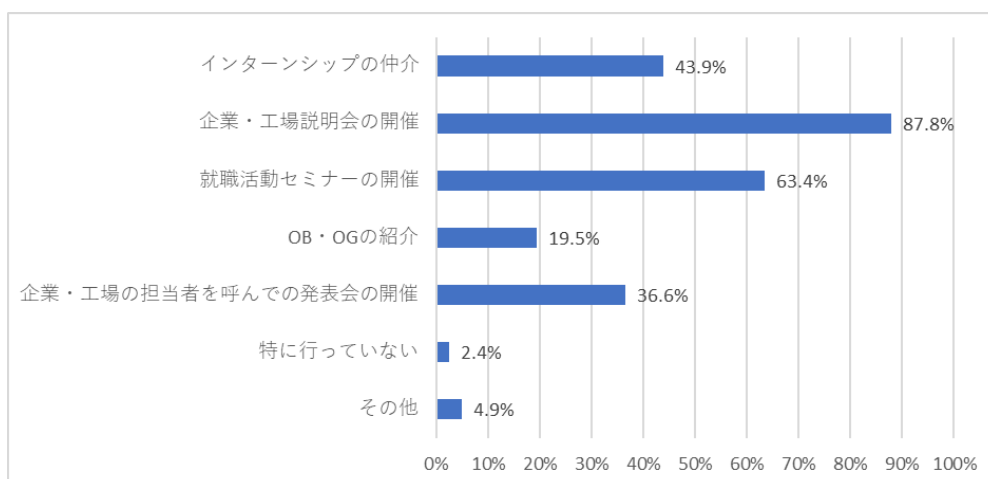


(23) その他にも御校が教育を行う上で、連携・協力関係にある外部組織や個人等がございましたら、連携・協力内容も含めて可能な範囲でご記入ください。

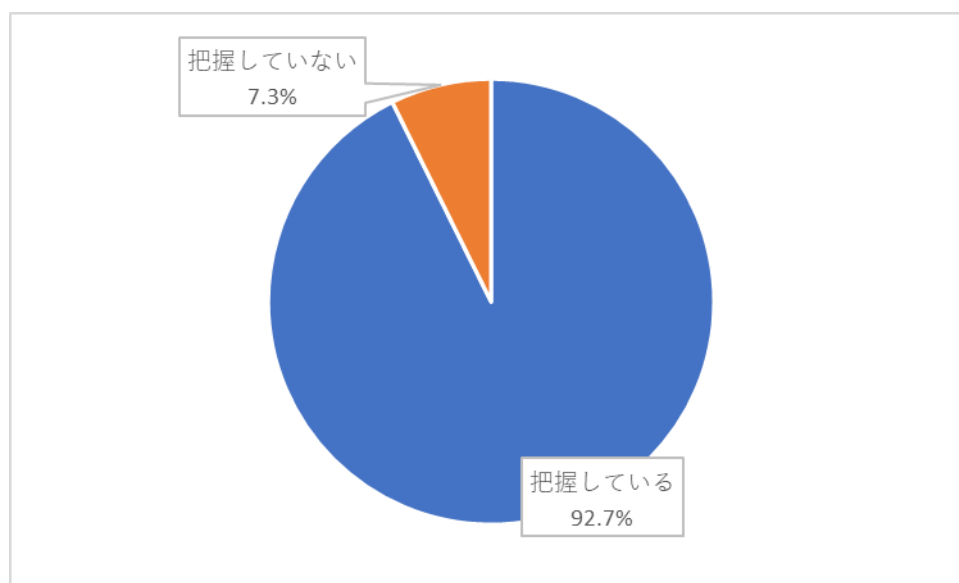


V. 留学生の就職について

(24) 留学生に対する日本での就職の支援として、御校ではどのような取り組みを行っていますか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



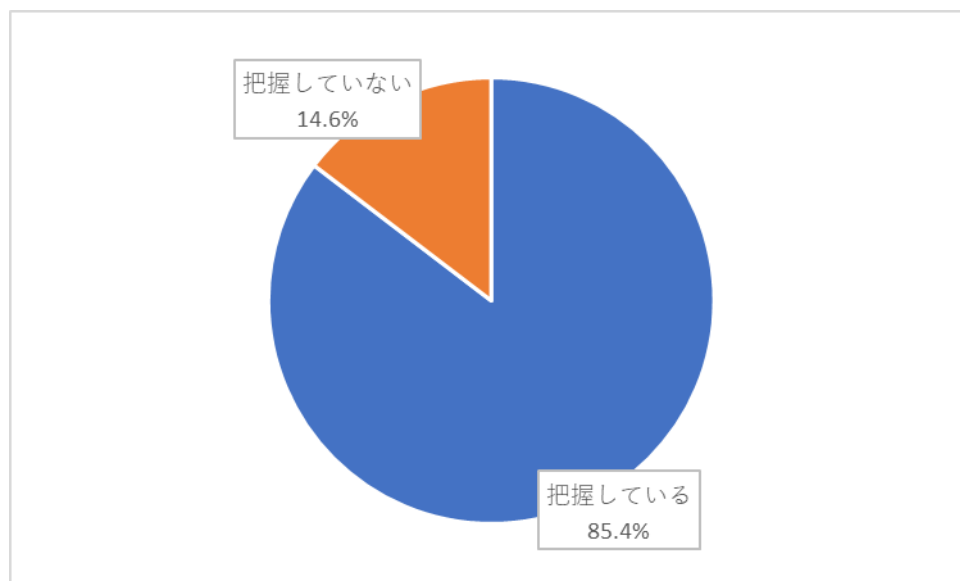
(25) 御校の留学生の日本国内就職率について調査し把握しておられますか。



※「把握している」を選択された方、就職率をご記入ください。

最高値	最低値	平均値	中央値
100%	60%	96.6%	100%

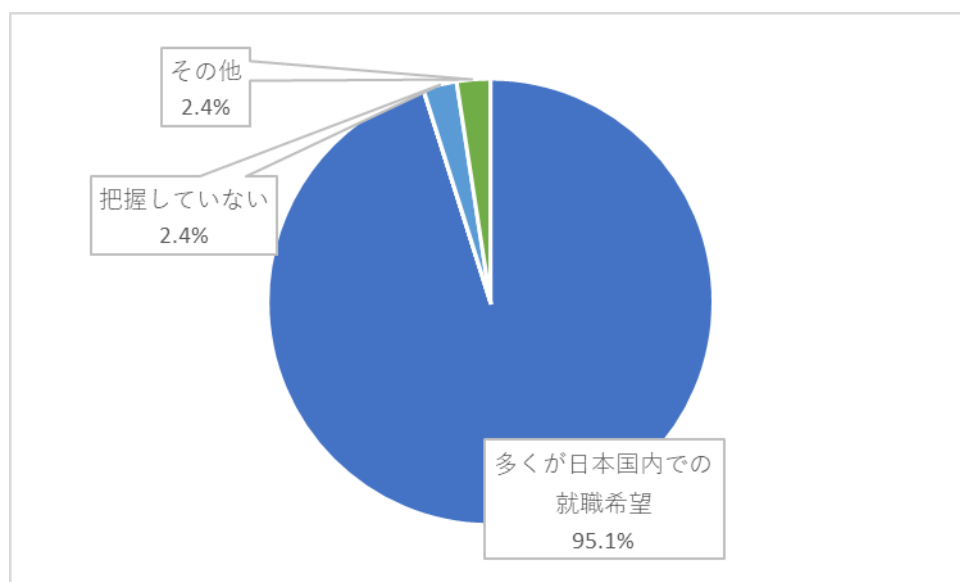
(26) 御校の留学生の御校所在都道府県内就職率について調査し把握しておられますか。



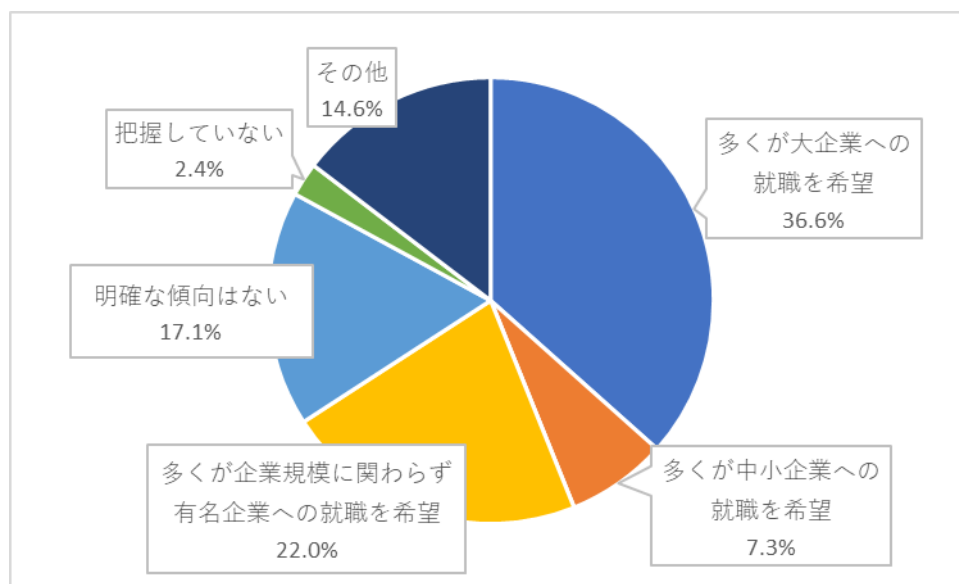
※「把握している」を選択された方、就職率をご記入ください。

最高値	最低値	平均値	中央値
100%	0%	59.3%	60%

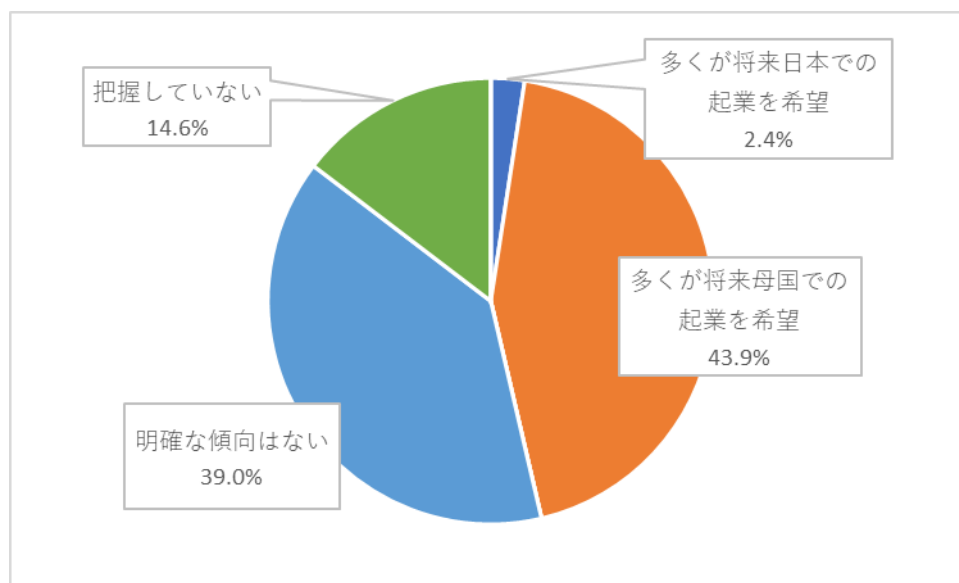
(27) 御校の留学生の就職希望国の傾向について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。



(28) 御校の留学生の就職希望企業の傾向について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

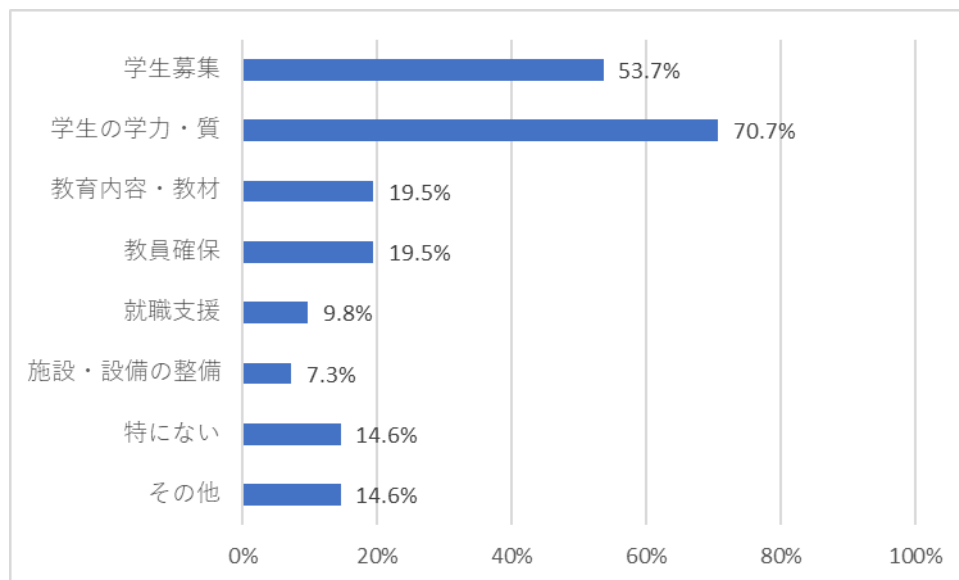


(29) 御校の留学生の起業意欲の傾向について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

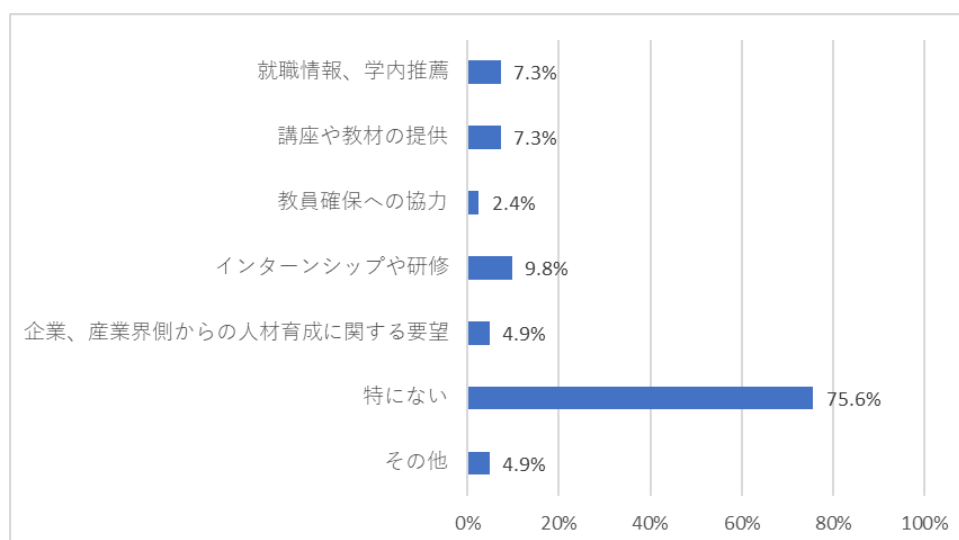


VI. 留学生教育における課題等について

(30) 御校の留学生への教育について、課題と感じていることはありますか。次の選択肢の中から該当するものをすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

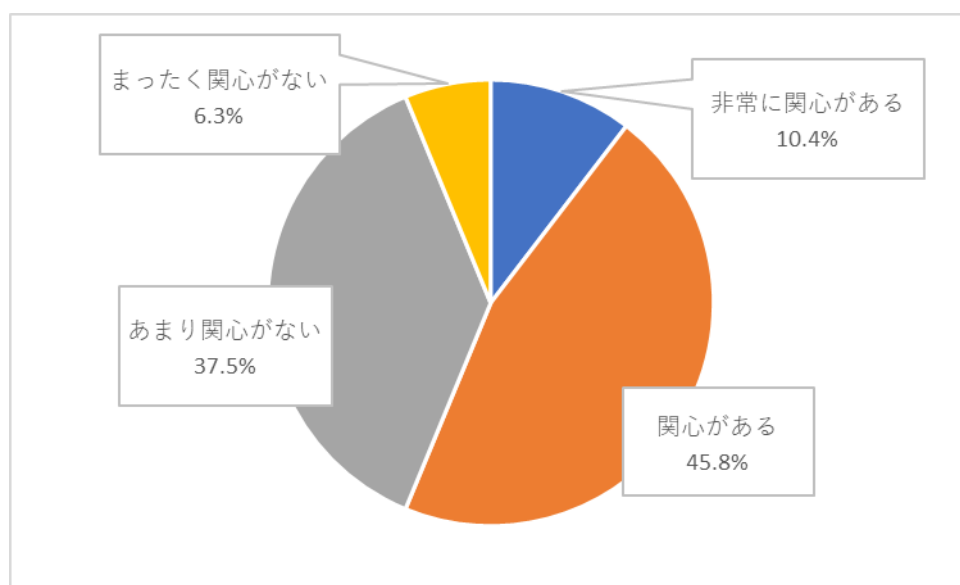


(31) 企業・団体、産業界との連携について、御校が現在課題と感じていることはありますか。次の選択肢の中から該当するものをすべて選んでください。「その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

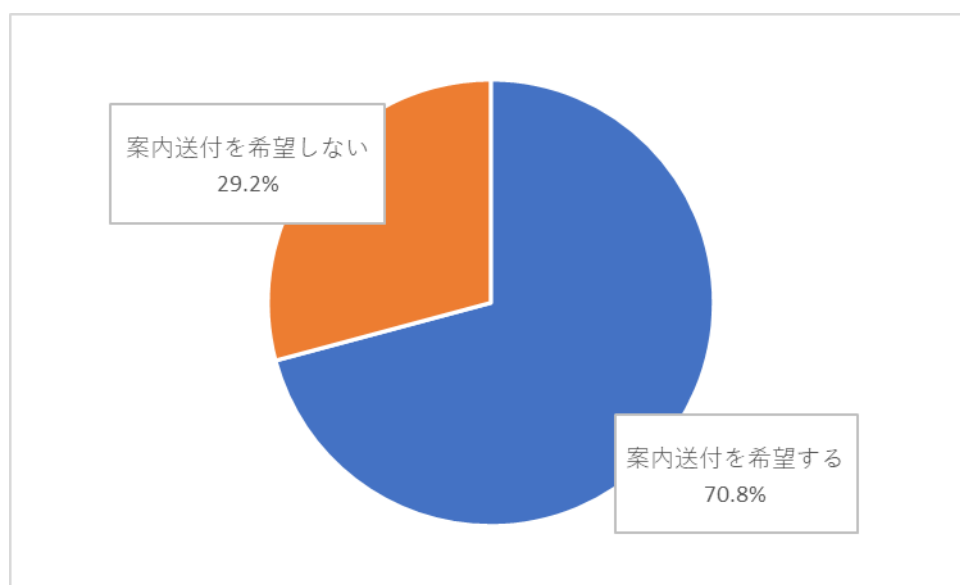


VII. 本事業について

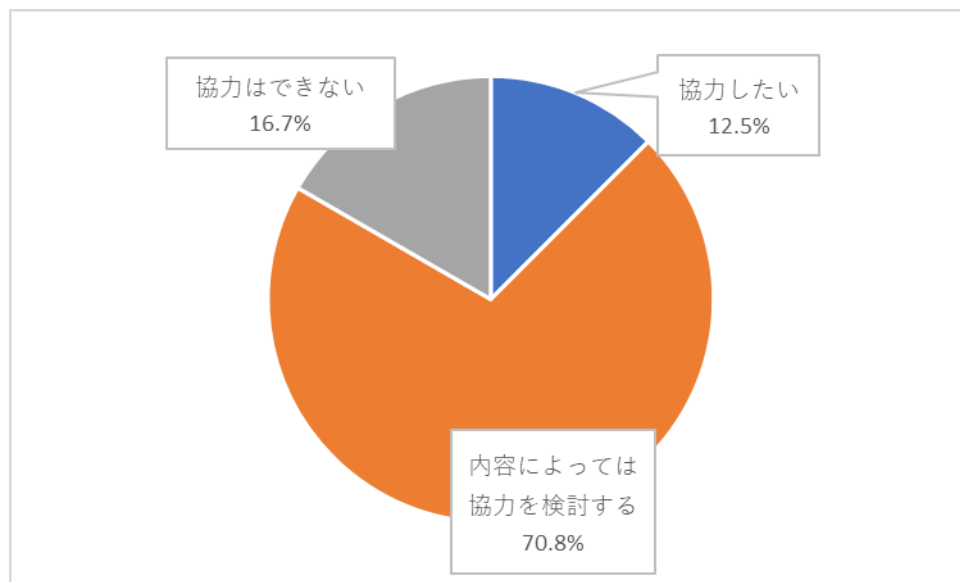
- (32) 当財団は文部科学省委託事業の一環で専門学校や海外の日本語教育機関、企業及び業界団体等との連携のもと、留学生の募集・教育・生活・就職をトータルパッケージで支援する体制整備の事業を推進しています。本プログラムにご関心はございますか。次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。



- (33) 今後、自動車整備系分野の専門学校様に向けて、上記の支援体制構築の進捗や事業活動成果の報告、人材育成などの情報提供活動を行っていきたいと考えております。御校にもこのような活動のご案内をお送りしてもよろしいでしょうか。次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。



(34) 上記の留学生支援体制整備に際して、さらなる調査や教材開発、実証、成果普及などを企画・実施します。その際には、自動車整備系分野の専門学校の皆様の実施協力を依頼する予定です。御校の協力のご意向について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。



(35) 本事業における自動車整備系分野の留学生の募集・教育・生活・就職に関する取り組みに関して、ご意見・ご要望があれば、ご記入ください。

- ・オンラインだけで、日本の文化、風習を身に着けることが可能か懸念しています。特に日本で就職希望の場合、後々本人が困る。オンラインのカリキュラムを明確に教えてほしい。
- ・専門学校で入国手続きの対応が必要だと負担が大きい。(在留資格の申請や空港送迎、生活に関する手続等)
- ・日本での入試に来日できるか。N2があっても合格保証はできない。
- ・各国エージェントが“人数集め”として事業を使用しないか不安
- ・大企業に留学生の受入幅を広げてほしい。
- ・現状の周知、教育、受入。
- ・各機関が留学生に対する認識を改めて取り組んでいくことが、自動車整備士不足の解消につながると思います。
- ・留学生を対象とした企業奨学金等の際に必要な保証人に関する制度
- ・日本語能力の向上と学費未納の対策
- ・産学連携による活動の推進を更に要望します。
- ・留学を希望する外国人の、現在の入国の状況などを把握されていच्छゃれば、情報提供していただけるとありがたいです。

- ・留学生の生活水準安定のための支援につて、何か良いアドバイスや情報が有りましたら、お願いします。
- ・留学生に対する教育支援、学習継続のための奨学金
- ・就労ビザ有効期間 5 年取得できる企業と、1 年の企業がカテゴリー別になっております。
- ・本校では学生数確保のために留学生を募集していない。従って志望動機が明確でモチベーションの高い留学生のみを入学させており、留学生数が 0 の年度も存在する。

2.1.4. 結果のまとめ

今回実施した専門学校アンケートの調査結果について、調査項目を構成する大項目ごとに特に注目すべき点のまとめを行う。

I. 留学生の受入について

この項目では、IT・情報系及び自動車整備系の専門学校における留学生の受入状況、留学生の属性・特徴、留学生への生活支援状況等について尋ねている。回答のあった専門学校に関していえば、両分野とも留学生を受け入れている学校の割合が 8 割を超えていた。アンケートを送った全専門学校が回答しているわけではないため、この数字が直ちに当該分野の全専門学校の実態と一致するとは言い切れない。しかし、傾向として IT・情報系及び自動車整備系の分野は、比較的留学生を受け入れている傾向があることが予想される。受け入れている学科という面で見ると、多くの学校が日本人と同じ学科で受け入れており、留学生のみ対象の学科を設置している学校は少なかった。

留学生の出身を見ると、両分野に違いが見られる。IT・情報系の分野では、東アジア・東南アジア・南アジアを中心としており、少ないながらも北中南米やヨーロッパ、アフリカと世界の様々な地域からの留学生が学んでいる。この割合を見ると、日本にいる全分野の留学生の割合と似た分布になっており、IT・情報系の分野は様々な国・地域の出身者から志望されていることが分かる。一方で、自動車整備分野は東南アジアと南アジアが突出して多く、そこに東アジアが続くという分布になっている。それ以外の地域からの留学生はあまりおらず、少なくとも今回の調査の回答校には北米やヨーロッパからの留学生はいない。

留学生の入学を認めるための日本語能力の基準として最も多く挙げたのは、「日本語能力試験（JLPT）」であり、両分野とも N2 レベルまたはそれ以上を求めている学校が多かった。これは、日本人と同じ学科で学ぶ際に必要となる日本語能力の基準として広く考えられているためである。ただし、自動車整備系専門学校には N3 相当のレベルから留学生を受け入れている学校も一定数あった。特に留学生対象の 3 年制学科の場合は、日本語を学習する時間を多くとることができるため、入学時 N3 相当であっても卒業時に日本語能力と整備技術をしっかりと身につけた人材の養成が可能になっていると思われる。

留学生はどの教育機関から専門学校に進学するのかという点では、「日本国内の日本語学校」や「日本国内の専門学校・大学等の日本語学科・留学生別科」が圧倒的に多く、専門学校の留学生の大半は日本国内の日本語教育機関から進学してきていることが分かる。

日本人と比較した留学生の特性について「学習へのモチベーション」「基礎学力」「専門知識・技術の習得」「自身のキャリアに対する意識」「就職に苦勞する学生」という 5 つの観点から尋ねた。この中では、「専門知識・技術の習得」と「就職に苦勞する学生」に関して、分野で違いが表れた。IT・情報分野では「専門知識・技術の習得」が日本人よりも

遅いという回答が4割以上であるが、自動車整備分野では3割に満たない。さらに、「就職に苦勞する学生」が日本人より多いという回答は自動車整備分野では3割程度であるのに対し、IT・情報分野では約7割に達している。

留学生に対する生活支援の面では、両分野の多くの専門学校において「生活に関する相談ができる体制（担当者や部署等）の整備」や「住居（寮・外国人入居可の物件等）の紹介」に関する取り組みが行われている。なお、自動車整備という分野の特徴からか、「生活に関わる資格や免許等（自動車免許等）の取得支援や紹介」の取り組みはIT・情報分野に比べ2倍程度の割合となった。

II. 留学生への教育内容について

まず目を引く結果となったのが、留学生への専門教育の内容の水準である。自動車整備系専門学校では日本人と同等という回答が9割を超えており、低い水準だという回答は5%に満たない。しかし、IT・情報系専門学校の回答を見ると、低い水準の授業を提供している学校が20%を超えている。この授業水準の違いが、就職の苦勞に関係している可能性がある。

専門学校における日本語教育という面では、実施していない学校が両分野で3割程度であった。一般日本語やビジネス日本語、日本語の試験対策の授業に関してはIT・情報系専門学校の方が手厚い状況が見えるが、分野に特化した専門日本語教育に関しては、自動車整備系専門学校の方が高い実施率を見せている。

専門科目や日本語の科目以外では、キャリア教育が両分野において比較的多くの専門学校が実施しており、IT・情報分野では3分の2、自動車整備分野では4分の3ほどの学校によって行われている。学校所在地の地域に関する教育はほとんどの学校で行われていないことが分かる。

留学生にカリキュラムで合格・取得を目指させている資格という点では、両分野で異なる。仕事において必須となる国家資格が存在する自動車整備分野では、ほぼすべての学校において「2級自動車整備士」の合格を目指している。一方、IT・情報分野では最も多い「ITパスポート」でも6割程度であり、ビザ取得に有利に働く「基本情報技術者試験」は半数を切っている。

III. 留学生に対する遠隔教育の実績について

ここでは、本事業で想定している来日前後におけるネットワーク支援型教育提供の参考とするために、留学生への遠隔教育実績について伺った。

遠隔教育実績という面では両分野で差がついており、自動車整備系専門学校での導入が少ない。これは、実技に関して国交省から遠隔での代替が認められていない点や実際に実習者が工具を使わないと理解が深まらないことが要因であろう。遠隔教育に使用したツールとしてはWEB会議ツールが最も使用されており、具体的にはZoomがよく選ばれている。

た。遠隔教育の課題点としては、意欲・集中度・習熟度の低下が両分野の多くの学校から挙げられている。また、インターネット環境や接続するデバイスに関する問題も多く挙げた。

IV. 日本語教育機関や企業・団体等との連携の実績について

ここでは、IT・情報系及び自動車整備系専門学校がどのような機関と連携を行い、留学生への受入・教育・就職支援を行っているのかについて尋ねている。まず、日本国内の日本語教育機関との連携としては、両分野の専門学校で同じ傾向が見られ、「進学説明会・相談会の実施」が7割以上となっている。また、3割以上の学校が指定校推薦枠を設けていることが分かった。そして、その他の連携に関する取り組みは少なかった。海外の日本語学校との連携という面では、両分野とも「特に連携の実績はない」という回答が圧倒的に多く、IT・情報分野では7割、自動車整備分野では8割を超えている。これは、専門学校の多くが主に日本国内の日本語教育機関から留学生を受け入れていることが要因だと思われる。ただし、IT・情報分野では、海外の日本語教育機関にも「進学説明会・相談会の実施」をしている専門学校が3割近くあり、自動車整備分野の2倍以上の割合となっていた。

企業・団体等との連携という面では、「就職説明会・相談会の実施」が両分野とも最も多くなっているが、IT・情報分野では65%程度であるのに対し、自動車整備分野ではほぼすべての専門学校が実施していた。また大きな違いとしては、自動車整備分野では企業・団体等と「特に連携の実績はない」という学校が5%未満であったのに対し、IT・情報分野では約30%であった。この点もIT・情報分野の留学生が就職に苦労している状況の一因かもしれない。

V. 留学生の就職について

留学生の就職支援の取り組みとしては、両分野で「企業説明会の開催」と「就職活動セミナーの開催」を実施している学校が多い。「特に行っていない」という学校は両分野で非常に少ないことから、専門学校は留学生の就職支援に比較的熱心に取り組んでいることが分かる。

留学生の国内就職率では両分野間で差が出ており、自動車整備分野では中央値が100%となるほど非常に高い状況となっている。一方で、学校所在都道府県内就職率という点ではそれほど大きな差はない。両分野とも、大都市では高く、地方では県内就職率が低くなりやすい傾向がある。これは、留学生が大都市での就職を希望している、外国人材の受入が地方の企業では進んでいないといった複合的な理由が考慮される。留学生の実際の就職希望国としては、「多くが日本国内での就職希望」という回答が両分野で約95%となっている。したがって、やはりIT・情報系及び自動車整備系専門学校で学ぶ留学生の日本での就職意欲は高いことが分かる。

VI. 留学生教育における課題等について

留学生教育に関する課題としては、両分野において「学生の学力・質」が多く挙げられている。具体的には、日本語能力、専門用語の理解、専門科目を学ぶための学力等が低い状況が挙げられている。また、「学生募集」も両分野において半数以上の専門学校が課題としており、主にコロナ禍による留学生の減少が挙げられる。なお、自動車整備分野では就職率が非常に高いためか「就職支援」を課題として挙げている専門学校は少ないが、IT・情報分野では 70%を超えている。したがって、これは同分野の留学生が就職に苦労している実情を示すデータとなっている。

企業・団体、産業界との連携における課題としては、自動車整備分野では「特にない」という回答が 4 分の 3 の専門学校から挙がるなど、比較的自動車業界との連携が取れている現状が見られる。一方、IT・情報分野での「特にない」の回答は半分ほどの 37%であり、「就職情報、学内推薦」及び「インターンシップや研修」といった形の連携を課題と感じている専門学校が約 4 割であった。

VII. 本事業について

本事業のプログラムへの関心という点では、両分野の専門学校ともに半数以上の約 6 割が「非常に関心がある」または「関心がある」と回答している。ここでは留学生受入実績の有無に関わらず回答をいただいております、受入を行っていない学校のほぼすべてが「あまり関心がない」「まったく関心がない」と回答している状況を考慮すると、留学生の受入を行っている専門学校からの関心はかなり高いことが分かった。

また、プログラムには「あまり関心がない」が成果報告や情報提供の案内を希望すると回答している専門学校が一定数おり、この調査の全体的な結果等に対して関心があると思われる。さらに、今後の協力可能性については両分野で約 8 割の専門学校が「協力したい」または「内容によっては協力を検討する」と回答している。本事業における留学生の受入から就職までのトータルパッケージでの支援モデルの普及という目的においても、情報提供に関心を持っていただいております協力可能性のある専門学校に対して本事業の成果を発信していくことが必要だと考える。

2.2. 企業ヒアリング調査

2.2.1. 調査概要

(1) 調査目的

本事業では、九州・沖縄地域内の IT・情報通信系企業及び自動車整備系企業・工場に対しヒアリング調査を実施した。本調査では、外国人材雇用に関する情報（雇用実績、雇用した人材の出身・経歴、採用経緯、採用条件、求めている資質・能力、課題など）を調査する。ここで得た情報は、教育プログラムを検討する際の基礎資料とすると共に、事業活動の周知と事業活動への協力可能性を把握することを目的とした。

(2) 調査対象

本調査では、九州・沖縄地域内に本社または拠点がある企業等を対象とした。そこで IT・情報通信系企業等としては、鹿児島県から 7 社、沖縄県から 3 社で計 10 社にヒアリング調査を行った。また、自動車整備系企業・工場には計 10 社のヒアリングを行っており、所在地は熊本県が 7 社、福岡県が 2 社、鹿児島県が 1 社となっている。

(3) 調査手法

ヒアリング調査方法は Zoom を活用した WEB 会議形式を採用した。あらかじめ対象企業には調査項目を記載したヒアリングシートを送付しておくことで、当日の質問と回答がスムーズに行えるように準備を行った。当日はヒアリングシートの項目にもとづいて質問を行い、回答を記録した。また、より深掘りしたい関連情報があった場合にはヒアリングシートの項目以外に関しても質問を行い、回答をいただいた。

次頁以降、本ヒアリング調査結果を掲載する。

2.2.2. IT・情報通信系企業等ヒアリング調査結果

企業等（１）

①外国人材雇用に関する実績と意向 ・雇用実績 （雇用実績の有無、国籍、学歴、雇用に至った経緯 など） 7名のベトナム人を雇用している。全員母国の大学卒であり、IT専攻であった。雇用に至った経緯としては、新卒者採用において優秀な大学を卒業するITに特化した専攻の人材を採用する方法を検討したことだった。同業他社がベトナムのレベルの高い大学のIT系学科出身者を採用した際の効果を聞き、自社でも同様の人材確保を目指した。その結果、ベトナムの現地での面接を行って、採用することができた。 ・雇用に関する意向 （例：「今後も採用したい」「これから採用を始めていきたい」 など） 未定である。採用決定後にコロナ禍が始まってしまったため、来日することができていない。そのため、現状母国での在宅勤務という状態になっており彼らを採用した効果を正確に判定できていないことが理由である。採用した人材に関する今後の予定としては、来日できるようになればこちらで働いてもらい、そこで優秀な人材を見極める。そして、彼らをブリッジSEとして育成し、現地の人材をさらに募集し、より競争力の高い工数・単価で開発できるような状況としていきたいと考えている。
②外国人材を採用する条件 （雇用形態、給与体系、昇進機会、業務内容 など） 雇用形態は正社員であり、給与体系も当社規定で日本時と同じである。昇進機会も日本人と同様になる。
③外国人材に求める資質・能力など （例：ITスキル、協調性、日本や企業文化への理解 など） 日本語能力としてはN3以上を求めており、特にリスニングの能力が高いことが望ましい。優秀な大学を出ていてITスキルがあることは前提である。また、業務を行う際に個人で動いてしまわず、指示に従って動くことができる人材であることが求められる。
④外国人材雇用に関する課題や意見など 同じアジアの国ではあるが、文化的な違いは大きいと感じる。合わない部分もあるため意思疎通が難しい時がある。来日して何年か経てば、このような文化的な違いや

コミュニケーションの難しさも変わってくるであろうと予想している。しかし、採用した人材は当時新卒であり、社会人になりたてであったため、日本語でのコミュニケーションの難しさも重なって、理解しあうのが難しいと感じる場面は多々あった。

生活面では、県内において外国人の入居が可能な不動産を探すことに苦労したことが挙げられる。見つけることはできたが、コロナ化が収束せず来日できない期間が2年近く続いている。近い将来の来日を期待しているため解約するわけにもいかず、金銭的な負担がかかっている。

企業等（2）

①外国人材雇用に関する実績と意向

・雇用実績

（雇用実績の有無、国籍、学歴、雇用に至った経緯 など）

外国人の雇用実績はこれまでにない。

・雇用に関する意向

（例：「今後も採用したい」「これから採用を始めていきたい」 など）

今後も外国人や留学生の採用を行う予定は、現時点ではない。

②外国人材を採用する条件

（雇用形態、給与体系、昇進機会、業務内容 など）

今後の採用予定が現時点ではないため、何も検討していない。

③外国人材に求める資質・能力など

（例：IT スキル、協調性、日本や企業文化への理解 など）

日本語能力、日本や企業文化への理解がまず挙げられる。日本人と同じように評価をするとしたら、IT スキルも一定程度求めることになるだろう。

④外国人材雇用に関する課題や意見など

やはり同じ職場で働くにはコミュニケーションが取れなければならない。そういった意味で高い日本語能力がないと外国人や留学生の就職は難しいのではないか。また、外国人が日本の企業で働くという場合には、外国人側が日本の企業文化を理解しているだけでなく、日本人や企業側も外国人の方の特性を理解しておく必要があると思われる。なぜ外国人を雇うのか、外国人の方を受け入れる意義等について日本人社員にもしっかりと共有し、理解させなければならぬ。双方の理解が重要であると考えている。

企業等（３）

①外国人材雇用に関する実績と意向 ・雇用実績 （雇用実績の有無、国籍、学歴、雇用に至った経緯 など） エンジニアの雇用経験はない。ただし、自社で行っている別事業において 7 人の技能実習及び 2 人の特定技能を受け入れた経験はある。エンジニアの募集に対して、過去にインドの方が応募してきたことがある。九州の他県の学校の留学生であった。スキルがマッチしないと判断したため、残念ながら採用には至らなかった。 ・雇用に関する意向 （例：「今後も採用したい」「これから採用を始めていきたい」 など） 外国人は募集していないということはないので、今後雇用に足る可能性は十分にある。スキルが自社の事業にマッチするかどうかで判断する。
②外国人材を採用する条件 （雇用形態、給与体系、昇進機会、業務内容 など） 雇用形態や待遇、業務内容は日本人と同じになるだろう。
③外国人材に求める資質・能力など （例：IT スキル、協調性、日本や企業文化への理解 など） まずは日本語能力ということになる。どの程度のレベルが必要になるかはケースバイケースだろうが、ひとまず日常会話ができればというところだろう。IT スキルに関しては、判断が難しいところである。IT では学校で習ったことがそのままの仕事になるわけではないので、まずは基本となる下地ができているかが重要となる。また、日本の企業文化についても知っていてほしいと思う。
④外国人材雇用に関する課題や意見など 別事業での話になるが、働き方の感覚が違うように感じた。日本人は比較的同僚と協力して働くことができる傾向がある。しかし、外国人は個人で働いているという意識が強く、チームで協力するという意識が低いように感じた。そこに仕事におけるコミュニケーションの難しさがあった。ただし、国籍による違いがあるのかもしれない。技能実習と特定技能で採用したのは中国人、インド人、モンゴル人であった。しかし、アルバイトで採用したベトナム人 6 人は非常に一生懸命でまじめなだけでなく、協力しながら働くことが得意なように見えた。 卒業前に学校において雇用保険や社会保険、住民税等について教えておいていただけるとありがたい。特に給料の総支給＝手取りではないということは理解しておいて

ほしい。総支給満額出ないことに不信感を持ったり、東京では保険料が引かれないという変な噂を耳にしたりと想像していないトラブルがあった。このような労働上の制度についても、一般常識として知っておいていただけると良いと思う。

企業等（４）

①外国人材雇用に関する実績と意向

・雇用実績

（雇用実績の有無、国籍、学歴、雇用に至った経緯 など）

現在２名の外国人を雇用している。韓国１名と中国１名である。両名とも日本の大学を卒業している。５年ほど前に就職難にある方々を支援し雇用を促進するという市の事業があり、そこで日本人も含めて人材を採用した。両名とも配偶者が日本人で日本語能力に問題はなく、技術力も基準を満たしていたため採用に至った。

・雇用に関する意向

（例：「今後も採用したい」「これから採用を始めていきたい」 など）

日本人と同じ選考基準で見て、それを満たしていれば採用するつもりである。

②外国人材を採用する条件

（雇用形態、給与体系、昇進機会、業務内容 など）

雇用形態や待遇、業務内容は日本人と同じである。

③外国人材に求める資質・能力など

（例：IT スキル、協調性、日本や企業文化への理解 など）

日本語はある程度できないと採用は難しい。まずはコミュニケーションが取ればよいと考えている。全く話せないというのは NG だ。エンジニアであれば日常会話程度でいいが、営業をするのならビジネスレベルの能力がほしい。IT スキルに関してはそれほど重要視していない。IT 未経験、IT 以外の専攻、高校生の採用も行っているので問題ない。本人のやる気と IT 分野への興味が大切だと感じている。ただし、選考で同じようなレベルの方がいた場合には、IT・情報系専攻者が有利にはなるだろう。

④外国人材雇用に関する課題や意見など

自社としては、人材に中長期的に働いてもらいたいと考えている。外国人の定着という面では日本の文化や企業文化に慣れることができるかがポイントになると思われる。自社で雇用している２名は、配偶者が日本人であるため、日本的な環境になれているからか問題は起こっていない。

外国人の方が優先して見につけるべきは、まず日本だと思う。これができれば、自

社のように一から研修するので IT スキルは問わないという地方の IT 企業における雇用につながるのではないか。

企業等（５）

①外国人材雇用に関する実績と意向

・雇用実績

（雇用実績の有無、国籍、学歴、雇用に至った経緯 など）

雇用実績はない。応募は 10 年ほど前に 1 名いたが、未経験の中途ということで採用に至らなかった。

・雇用に関する意向

（例：「今後も採用したい」「これから採用を始めていきたい」 など）

可能性がないということはない。ただ、自社は国内の仕事のみであることもあって、日本語が大丈夫であるという条件は付く。

②外国人材を採用する条件

（雇用形態、給与体系、昇進機会、業務内容 など）

雇用実績がないので想定であるが、同じ条件になるだろう。

③外国人材に求める資質・能力など

（例：IT スキル、協調性、日本や企業文化への理解 など）

日本語ができるということが前提となる。それ以外では外国人だからという基準で特別求める資質や能力はない。日本人と同様に、頑張って働く意欲があるか、論理的思考力を備えているかを基準として見ることになる。なお、自社では IT 以外の専攻でも新卒は受け入れているので、IT スキルは前提としない。論理的思考力とやる気があれば、IT スキルは身につけられる。

④外国人材雇用に関する課題や意見など

コミュニケーションのギャップは大きな問題になり得る。たとえ日本語ができたとしても、外国人が日本で働くということは大変だと思う。どのようにサポートしていくかが重要になるが、外国人側もサポートされるだけの人材的価値を示さなければならない。

IT 外国人材という意味では、東京のような大都市の方が進んでいるだろう。外国人側としてもより多く稼ぎたいなら地方よりも大都市の方がいい。地方で働いてほしいなら、地方で働くメリットを示さなければならない。ベトナム側の事情もよく知っていて、現地の IT 専攻の大学生のレベルも知っている。彼らを見ると、東京で働きたい

という人はいても、九州のような地方には来ないのではないか。

地方は単純労働のワーカーが少ない状況もあり、特定技能に期待も大きい。ただ、このような仕事は日本人がやりたがらない種類の仕事だ。IT は付加価値が高い系統の仕事であり、人材が足りないから誰でもいいので入ってくれというタイプの仕事ではない。特に、日本は IT 教育の面ではレベルが高くない国だ。わざわざそんな日本で IT を学んでいる外国人にはどんな強みがあるのかをしっかりとアピールできないと、就職は難しいのではないか。自社としても単なる人手不足を補うだけの人員ではなく、中長期的に働いて他の社員を引っ張っていけるような人材を獲得・養成したいと思っている。言葉は悪いが、母国で学力が足りず IT を学ぶことができなかったような層の留学生をいくら入れても意味がない。受け入れる留学生の質についても吟味しなければならいと思う。

企業等（6）

①外国人材雇用に関する実績と意向

・雇用実績

（雇用実績の有無、国籍、学歴、雇用に至った経緯 など）

雇用実績としては、エンジニアを2名雇用したことがある。1名はアメリカ、もう1名はネパールの出身だ。アメリカ人の方は母国の大学卒、ネパールの方は母国の大学卒業を県内の国立大学の院に在籍していた。自社では採用において国籍に制限はない。アメリカの方は、英語の専門学校から IT スキルを持った方がいるとの紹介を受け、採用に至った。ネパールの方は大学院の留学生で短期のアルバイトとして働いていただいた。

・雇用に関する意向

（例：「今後も採用したい」「これから採用を始めていきたい」 など）

今は外国人の在籍者はいないが、機会があればまた雇用したいと思っている。

②外国人材を採用する条件

（雇用形態、給与体系、昇進機会、業務内容 など）

通常エンジニアのアルバイトは雇用していないが、紹介があったので特別に雇用した。正社員であれば日本人と同じ雇用条件になる。業務内容はほとんど同じだが、アメリカの方には仕様書を読むのが難しかったので、なるべくこちらの指示を聞いてもらう業務にした。

③外国人材に求める資質・能力など

（例：IT スキル、協調性、日本や企業文化への理解 など）

日本語能力は、ペラペラじゃなくても日常会話ができれば問題ない。どうしても伝わらないときは一部英語で何とか出来た。コミュニケーション能力は大切だと思う。仕事内外で理解しあえるようにすることができれば、働きやすくなるだろう。もちろん IT スキルも重視して見ている。また、日本文化への理解も求めたい。「郷に入っては郷に従え」ではないが、殊更自国の文化や価値観を主張する方とのコミュニケーションは難しい。

④外国人材雇用に関する課題や意見など

外国の方を雇用するのであれば、ある程度は国民性や感覚の違いを理解しなければならないとは感じている。お互いに違っていることに対応する能力が必要だと思う。どちらかがもう一方に合わせるだけでは、長く続かないだろう。

実際にあったトラブルの例なるが、実はアメリカの方は急に退職してしまった。休暇中に海外に行った際に何か思うことがあったようで、そのまま帰ってこなかった。そのときには入管とのやり年が大変であった。

九州という地域で就職・定着してもらうには、食べ物や生活習慣だけでなく、そこで働くための知識も含めた地域のこと・文化を知ってもらう必要があると思う。

企業等（7）

①外国人材雇用に関する実績と意向

・雇用実績

（雇用実績の有無、国籍、学歴、雇用に至った経緯 など）

正社員の雇用経験はない。一度派遣でスリランカの方を 1 名受け入れたことがある。人員が足りない際、派遣や同業から人材を紹介してもらったりするが、その際に受け入れた。その方は当時の人員が必要な案件の期間であった 3 ヶ月で終了した。過去に県内国立大学の中国人留学生から応募があったが、内定には至らなかった。

・雇用に関する意向

（例：「今後も採用したい」「これから採用を始めていきたい」 など）

今のところ具体的の方針や予定はない。しかし、人材不足の現状はあるのでいずれは受け入れていくことができればと思う。

②外国人材を採用する条件

（雇用形態、給与体系、昇進機会、業務内容 など）

日本人と同じ条件になる。

③外国人材に求める資質・能力など

(例：IT スキル、協調性、日本や企業文化への理解 など)

日本語能力としては、話せるだけでなく仕様書を読むことができる能力を求めたい。自社は大手の案件を短い期間で作るような仕事が多い。英語を話せる人材はいるが、日本語能力が低い人材についてフォローしていると、2 人で 2 人分の仕事量というわけにはいかず効率的でない。

定着ということを考えると一般的な日本文化になじめることも重要だと思う。IT スキルは前提としない。他の専攻だった方や未経験でも、採用時 IT に向いているか、センスがあるかをある程度見極めている。

また、1 人でやる仕事ではないため、チームで働く力やチームになじむ力が必要である。

④外国人材雇用に関する課題や意見など

派遣の方の時にはコミュニケーションの問題があった。報連相の習慣がなく、おとなしい性格の方であったため、業務で困っているかどうかや何に困っているのかがすぐに把握できなかった。

日本人に対しても同様だが、自社としては長く働いていただきたいと考えているし、そういった企業は地方には多い。その際、近い将来帰国するキャリアプランを持っている留学生の存在は課題になり得る。内定に至らなかった留学生の方に関しては、面接時に数年で帰国する計画であると述べたことが不採用の大きな理由である。

国が違えば習慣も違う。例えば祈りの時間があり、業務時間中に確実に働けない時間帯があるような方の採用も難しい。また、中国のように春節・旧正月に長期間休みたい方に関しても対応ができるかといえば現実的には難しい。

学校では日本語教育の一環として、短い言葉で的確に内容を伝える練習を行っていただけるといいかもしれない。現在メールではなくチャットでの業務連絡が増えている。在宅勤務も多くなった今、チャットツールを使いこなして必要な情報や助けを求めることができるようになってきていることが必要だと思う。

企業等（8）

①外国人材雇用に関する実績と意向

・雇用実績

(雇用実績の有無、国籍、学歴、雇用に至った経緯 など)

雇用実績はない。外国人や留学生からの応募はあるが、ほとんどが書類の段階で不採用になっている。原因は2つあり、1つ目には IT に関するスキルの不足。そして、2つ目が日本語能力の不足である。

・雇用に関する意向

(例：「今後も採用したい」「これから採用を始めていきたい」 など) 外国人や留学生の雇用意向という面では、現状特にない。
②外国人材を採用する条件 (雇用形態、給与体系、昇進機会、業務内容 など) 前例がないので現段階では確定的な回答はできない。
③外国人材に求める資質・能力など (例：IT スキル、協調性、日本や企業文化への理解 など) まずは日本語でのコミュニケーションスキルが要求される。日本人のみの企業で、日本語仕事をする土壌が出来上がっているためである。また、入社後の位置からの研修等はやっておらず即戦力を求めている。そのためIT スキルも前提となるし、採用の際の判断材料となる。
④外国人材雇用に関する課題や意見など 自社は社員だけでなく、クライアントもほぼすべてが日本である。したがって日本語でのコミュニケーションができなければ仕事ができず、必須だと言える。大都市以外では IT 系企業であっても同様の企業が多いのではないかと思う。IT スキルが重要なのは当然であるが、日本の企業で働く以上、日本語が必要になってくる。留学生ということであれば、日本人と同じスキルを持っていたとしても、日本語能力が低い場合には自社としても採用はできない。新卒就職という面で考えるなら、専門学校においてかなり高いレベルの日本語能力まで伸ばしてあげることが、就職への近道なのではないかと考える。

企業等（9）

①外国人材雇用に関する実績と意向 ・雇用実績 (雇用実績の有無、国籍、学歴、雇用に至った経緯 など) これまで外国人を雇用したことはない。応募も特に来ていない。 ・雇用に関する意向 (例：「今後も採用したい」「これから採用を始めていきたい」 など) 特別外国人に限った雇用に関する意向は検討していない。特に日本人・外国人に関係なく今現在は募集を行っていない。今後人員を増やす際にも国籍は関係ないので、将来的に雇用する可能性はもちろんある。

②外国人材を採用する条件 (雇用形態、給与体系、昇進機会、業務内容 など) 雇用の条件は日本人と同じになると思われる。業務内容も基本的に同じだろうが、外国語ができるため、外国とのやり取りが生じた際に翻訳や通訳を引き受けてもらえないか依頼する可能性はあるかもしれない。
③外国人材に求める資質・能力など (例：IT スキル、協調性、日本や企業文化への理解 など) ある程度即戦力となれる IT スキルがあることが望ましい。日本語能力は、日常コミュニケーションに問題がないことと、開発に関わるやり取りが可能であれば大丈夫だろう。ネイティブレベルやビジネスレベルは求めない。
④外国人材雇用に関する課題や意見など 自社での雇用実績がないため、実体験としての課題は感じていない。 日本全体で IT 人材が不足している状況ではあるが、やる気やマインドがあればだれでも OK という業界ではないことは確かだろう。留学生は就職あたって正しく自身の能力をアピールする必要があると思う。そして、それは客観的である必要がある。もちろん、資格試験や検定への合格も重要だろうが、例えば WEB 業界ならこれまでの成果物一覧やポートフォリオなどを作っておくことが採用におけるアピールになる。 日本で活躍したいという留学生を応援したい気持ちはあるので、ぜひ頑張ってほしいと思っている。

企業等（10）

①外国人材雇用に関する実績と意向 ・雇用実績 (雇用実績の有無、国籍、学歴、雇用に至った経緯 など) 現在は在籍していないが、これまでに 6 名の雇用経験がある。ただし、2 名は短期の派遣だった。全員ベトナム人で 1 名がアメリカの大学卒業後に日本の大学院に入学した留学生だった。残りの方は日本国内の大学のへの留学生だった。雇用に至った経緯としては、ベトナム関連の継続的な仕事があり、先方とスムーズにやり取りをするために採用したいと考えた。日本語能力が高くコミュニケーションに問題がないだけでなく、英語もかなりできる方が多かった。 ・雇用に関する意向 (例：「今後も採用したい」「これから採用を始めていきたい」 など) 今後に関しては検討中である。
--

②外国人材を採用する条件 （雇用形態、給与体系、昇進機会、業務内容 など） 日本時と同じ条件で働いてもらっていた。
③外国人材に求める資質・能力など （例：IT スキル、協調性、日本や企業文化への理解 など） 業務では日本語でのコミュニケーションが通常なので、日本語能力は高い方がいい。特に基準は設定していなかったが、全員 N2 は合格していた。スキルもあるに越したことはない。また、報連相のようなビジネスコミュニケーションに関する知識や態度も求めたい。ただし、これは就職後でも教えれば比較的すぐに身につく類の能力ではあると思う。
④外国人材雇用に関する課題や意見など 業界的にスキルアップ・待遇アップを求めている方が多い。したがって、日本人であろうと外国人であろうと、長いスパンで働いてもらうことは採用の前提としていない。過去に採用した方々で言えば、短期派遣の以外の方のうち 3 名は非常に優秀で頼りになったが 1 年～1 年半で転職していった。特に問題があったわけでもなく、送別会も行った。コロナ前の時期では、辞めた後も飲み会に参加したり、単発で業務委託を受けてくれたりする方もいる。 文化の違いは感じたが大きな問題はない。業務中にもものすごくお菓子やフルーツを食べているのには驚いた。 1 名が 1 か月で急に退職してしまったときには少々大変だった。プロジェクトの途中で後任も決まっていなかったが、結婚が決まったので帰国することだった。 課題としては、求めているスキルを持った外国人材をうまく募集できなかったということだ。外国人の就職・転職紹介会社に依頼したり、既に働いている社員の知人を紹介したりしてもらった結果、優秀な人材を採用することができた。 留学生が身につけるべきスキルは入社する企業の性質によって変わると思われる。入社後の研修が充実しており、IT 以外を専攻した方や未経験者も採用している企業はまず日本語能力を見るのではないか。地方にはそういった企業が多いように思う。即戦力が必要な企業は IT のスキルを重視するだろう。このような企業は新卒を採用していないかもしれない。いずれにせよ、留学生という時点である程度の日本語能力は期待されるだろう。カリキュラム外でも良いので日本語のフォローをしっかりと行い、IT の専門スキルも日本人学生の平均かそれ以上であれば、就職はしやすくなるのではないか。

2.2.3. 自動車整備系企業・工場調査結果

企業・工場①

①外国人材雇用に関する実績と意向

・雇用実績

(雇用実績の有無、国籍、学歴、雇用に至った経緯 など)

今年度初めて採用した。国籍はネパールで、日本語学校から専門学校に進学後、就職した。

外国人の採用は 3~4 年前から検討していたが、採用には至っていなかった。しかし、日本人の自動車整備士の志望者は減少傾向にあり、業界全体で人手不足の状態が続いている。そのような中で、昨年学校説明会で面談を行い、就職活動でも面接した留学生の方を採用するに至った。N2 を取得しており、日本語とあまり変わらないレベルで会話ができる。履歴書もしっかりと書かれており、日本語能力に問題はない。スキル・専門知識は日本人の同期よりも高いように感じており、研修での態度も熱心でモチベーションが高いという印象を受けている。

・雇用に関する意向

(例：「今後も採用したい」「これから採用を始めていきたい」 など)

これからも採用を続々と増やしていきたいという意向はまだない。まずは今年度採用した彼の今後の状況を見て、先々の方針について判断していきたいという意向である。その場合、専門学校様とお話をしていきたい。また、親会社としても外国人整備士の養成・採用に関心があり、注力を始めている。将来的には親会社系列の専門学校からの採用も行う可能性がある。

②外国人材を採用する条件

(雇用形態、給与体系、昇進機会、業務内容 など)

日本人とまったく同じ条件で雇用している。正社員として契約しており、今後の給与体系やキャリアパス、業務内容について日本人と同等の予定である。整備士の中には年齢を重ね体力が落ちてくると営業への移動を希望する者もいるが、彼がそのような希望を出した場合も日本人と同様に扱われることになる。

③外国人材に求める資質・能力など

(例：整備技術、協調性、日本の労働文化への理解 など)

整備スキルに関しては、自社の研修・教育制度が充実しているため、2 級整備士を取得できるレベルにあればよいと考えている。スキル以外には、お客様に対して様々な提案を行っていくことが整備士の業務に含まれる。そういった意味ではお客様を

「もてなす能力」やコミュニケーション能力、話を調整していく協調性が必要になる。
④外国人材雇用に関する課題や意見など お客様の中には外国人整備士に抵抗がある方もいらっしゃる可能性があることが課題となり得る。また、外国人は住居を探す際にも、入居可の物件が見つからなかったり、保証人が求められたりする等の難しさがある。そこを会社としてフォローしていくことも必要である。 特定技能の外国人整備士はこれから増えていく可能性があるが、現行の制度では日本で働ける年数が限られる。しかし、技術を学び一人前になるには5年程度必要であると考えている。留学生の場合就職後は毎年申請をすればビザがあり、10年すれば永住権も認められる。長く働いてもらうことを考えれば、特定技能の受け入れよりも留学生を採用していきたいと考えている。 自動車業界は今100年に一度の大改革の時代に来ている。これまで学校では次世代自動車に関する教育内容は行われていなかったと思う。今後はEV車、ハイブリッドカー、カーボンニュートラルといった内容についても、知識面をある程度事前学習のような形で教育していただけると良いと思う。

企業・工場②

①外国人材雇用に関する実績と意向 ・雇用実績 （雇用実績の有無、国籍、学歴、雇用に至った経緯 など） 4年前から採用をはじめ、ネパール人4名とベトナム人1名の採用実績がある。いずれも母国での整備士経験はなく、専門学校で学んだ留学生である。採用を始めた経緯としては、日本人の採用状況が芳しくなかったためである。 ・雇用に関する意向 （例：「今後も採用したい」「これから採用を始めていきたい」 など） 整備士が不足している状況であり、日本人学生や高卒新卒者の採用機会も少ないなら、継続して留学生を採用していく。
②外国人材を採用する条件 （雇用形態、給与体系、昇進機会、業務内容 など） 雇用形態は日本人と同じ正社員で、給与体系・昇進機会も同様である。
③外国人材に求める資質・能力など

(例：整備技術、協調性、日本の労働文化への理解 など)

日本語能力としては、意思疎通ができれば問題ないと考えている。専門学校の前に日本語学校を出ているとのことなので、大丈夫だと感じている。日本語での意思疎通だけでなく、会話で補えない部分もコミュニケーション能力があればなんとかなる。そのような能力や積極性を求めている。また、労働文化の違いも知っていてほしい。例えば休み取り方として、前日に言ってくるのではなく、事前に報告をするということが必要である。

④外国人材雇用に関する課題や意見など

母国へ帰省する際、休みの日数が1か月程度になる。有休が足りない場合に欠勤にするのはかわいそうでもあるので、制度を考えたい。在留期間に関しては、できるだけ長い方が望ましいが、1年ずつしか取れていない。本人たちはローンが組めなかったり車を買えなかったりするなど不便な点がある。働き方の面では、仕送りのために時間外労働を増やして多く稼ぎたいという元留学生もいる。これは近年の働き方改革と相反することであり、本人の希望とのギャップとどうすり合わせるかが課題である。

特定技能に関しては、並行して採用していきたいと考えている。現状、留学生と技能実習生との間に実感するような違いはない。今後特定技能も採用していくことになると思う。

今のところ、自動車専門学校からのみ留学生採用の実績がある。みな礼儀正しくお客様の前に出しても問題ない。今後ほかの学校からとるとすれば、ビジネスマナーやコミュニケーション能力を身につけてきてほしい。

企業・工場③

①外国人材雇用に関する実績と意向

・雇用実績

(雇用実績の有無、国籍、学歴、雇用に至った経緯 など)

30名ほどの採用実績がある。国籍は中国、ベトナム、スリランカ、ネパール。全員母国での経験はなく、来日後専門学校で学びN2と2級自動車整備士を持っている。10年前から採用を開始したので10年目の社員もいる。きっかけは、外国人にも採用の門戸を開くことを検討していた時、に専門学校から紹介があったこと。当時は中国人が多かった。受入体制整備のため専門家にアドバイスを受け、N2やビザをとれることを条件とし、採用試験を準備した。約3ヶ月で整えた。

・雇用に関する意向

(例：「今後も採用したい」「これから採用を始めていきたい」 など)

これまで通っていていきたい。しかし、現在はコロナ禍で留学生数が減っている。採用数を例年見込んでいたため困っているところである。来年以降はさらに少なくなってしまう。

②外国人材を採用する条件

(雇用形態、給与体系、昇進機会、業務内容 など)

雇用形態・給与体系・昇進・異動などは日本人と同じである。仕事内容も同じで、元留学生の中には現場リーダーもいる。接客も行えており、全く問題はない。

③外国人材に求める資質・能力など

(例：整備技術、協調性、日本の労働文化への理解 など)

コミュニケーション能力と日本語での読み書きや会話能力を一定程度求めている。今のところ採用に至る十分な資質を持っている留学生が来ている。留学生の方がやる気・モチベーションが高く、覚悟も違う。日本人が逆に教わっている場面もあるくらいだ。

④外国人材雇用に関する課題や意見など

1 年ごとにビザ更新ということで時間がとられるのは望ましくない。また、中長期的に見ると、どこかのタイミングで退社する可能性がある。スキルもコミュニケーション能力も問題のない頼りになる人材が急にいなくなるというリスクがある。ただ、日本人も急にやめる可能性があるという点では同じかもしれない。最近母国で起業するために帰国する方が出てきた。また、東京に行きたいと退社した方もいる。

技能実習生・特定技能は受け入れる予定はない。当社の他エリアは入れているようだ。

学校には日本語でコミュニケーションできる能力を N2 程度まで上げてほしい。近年留学生の学力面での質が落ちてきていると感じている。

本事業には、留学生の生活支援の面で取り組みを行うことを期待したい。

企業・工場④

①外国人材雇用に関する実績と意向

・雇用実績

(雇用実績の有無、国籍、学歴、雇用に至った経緯 など)

今年 1 年目のスリランカ人を雇用している。専門学校を卒業し、新卒として入社した。本人の親が母国で車の販売業を行っており、少し整備の経験があったようだ。これまでも募集はしていたがなかなか応募がなかった。何年か専門学校の説明かに通い、今回採用に至った。いずれ当社は車の輸出も行いたいと考えているため、人材の

半数を外国人にしても良いと思っている。日本人よりもまじめで勤勉で熱心に働いている印象である。

・雇用に関する意向

(例:「今後も採用したい」「これから採用を始めていきたい」 など)

今後も積極的に採用したい。もし帰国し起業するということの場合にも、援助を行っていききたい。

②外国人材を採用する条件

(雇用形態、給与体系、昇進機会、業務内容 など)

基本的に日本人と同じ条件で雇用している。給与体系でいえば、就業規則により支払う補助が理由で、外国人の方が多くなっている。

③外国人材に求める資質・能力など

(例:整備技術、協調性、日本の労働文化への理解 など)

勤勉さを求めているが、既に備わっているように思える。これは日本人には欠けている資質だと思う。日本人が逆に学ぶ必要がある。

挨拶や返事をしっかりすることといった働く姿勢も重要だと考えるが、これは会社に入ってからでも十分身につけられることではある。

④外国人材雇用に関する課題や意見など

今雇用している人材の場合は住居もすぐ見つかった。生活のことも相談に乗っており、車の購入、保険、住民税等問題も起こっていない。今後も日本で生活するうえで必要なことや、家族等と呼び寄せる場合等にも協力したいと考えている。

特定技能に関しては認識しているが、留学生を特に重視して雇用していきたい。現在説明会等に参加させてもらっている専門学校から引き続き留学生を採用していきたい。

企業・工場⑤

①外国人材雇用に関する実績と意向

・雇用実績

(雇用実績の有無、国籍、学歴、雇用に至った経緯 など)

ベトナム、ネパール、バングラデシュ出身者で現在25名ほど雇用している。このうち半数はベトナム人である。次の4月にスリランカと中国出身者が15名ほど入社する予定。全員来日後日本語学校から専門学校に進学し、新卒として入社している。母国で自動車関連の経験がある者はごくわずかだ。約5年前から国籍に関係なく採用を行

うようになり、4 年前に初めて外国人を採用した。日本人整備士と自動車整備を学ぶ学生の不足が背景としてある。

・雇用に関する意向

(例:「今後も採用したい」「これから採用を始めていきたい」 など)

今後も採用していく予定である。

②外国人材を採用する条件

(雇用形態、給与体系、昇進機会、業務内容 など)

雇用形態、給与体系、昇進機会、業務内容すべて日本人と同じである。

③外国人材に求める資質・能力など

(例:整備技術、協調性、日本の労働文化への理解 など)

トラック整備はお客様と接する機会が少ない。したがって、日本語能力は職場のコミュニケーションができればよい。それでも N2 は求めたいと思っている。

整備技術は入社後に伸ばすことができる。専門学校を卒業して、2 級自動車整備士取得レベルの知識・技術があることが想定されるので、問題ない。2 級自動車整備士は採用の前提とはしていないが、合格していることが望ましい。もし、不合格でも入社後次の合格に向けたサポートはしている。専門的なことは大丈夫なので、あとは日本語ができればというところである。スキルで言えば日本人の方ができないということも多い。留学生はまじめで勤勉な方が多いので、日本人よりできる方もたくさんいる。

重要視しているのは、ある程度長くここで働きたいという意欲だ。採用の面接の段階でどのくらい日本で働くつもりがあるのかは聞いている。

④外国人材雇用に関する課題や意見など

制度の面で言うと、在留資格の年数が入管によってかなり異なってくる。同じような経歴の人材でも 1 年の場合もあれば 5 年の場合もある。どのくらいの年数が下りるか読み切れないのが課題である。住居に関しても課題がある。サポートはしているが、入居不可となる場合も多い。いい住居が見つからないという話は聞いている。

特定技能や技能実習も受け入れているが、言葉の問題は大きい。基本的に日本語はほぼできない状態で入ってくるため、コミュニケーションの問題がある。長く働いてもらいたいという意向から、留学生の方が採用したい人材としての特性はマッチしている。

今後も日本で技術を学びたいという要望に応えていきたいと考えている。たとえ母国に帰ったとしても、身につけた技術を活かしていけるような教育の体制づくりを進めたい。

企業・工場⑥

①外国人材雇用に関する実績と意向

・雇用実績

(雇用実績の有無、国籍、学歴、雇用に至った経緯 など)

現在正社員として2名バングラデシュ人を雇用している。2年目と1年目の人材で、日本の専門学校卒業後入社した。母国での整備経験はないと聞いている。他に2名技能実習生を受け入れている。実はさらにもう2名来る予定であったが、コロナ禍の影響で入国できなかった。その他にさらにもう2名これから来ていただく予定である。技能実習生はインドネシア国籍である。

留学生の効用を開始した経緯としては、やはり日本人整備士の不足からくる人員確保のためである。技能実習生がとてもまじめであることから、留学生の採用も始めようということになった。そこで2年前に正式に募集開始をした。その前に1名応募があったが役員判断により採用には至らなかった。

・雇用に関する意向

(例:「今後も採用したい」「これから採用を始めていきたい」 など)

来年度入社の留学生はいない。一度留学生採用をやめることとなった。

②外国人材を採用する条件

(雇用形態、給与体系、昇進機会、業務内容 など)

雇用形態、給与体系は日本人と同じである。業務内容としては、接客をさせていないというところの違いがある。異動や昇進に関してはまだ決まっていない。その他制度としての帰国休暇に関して検討中である。

③外国人材に求める資質・能力など

(例:整備技術、協調性、日本の労働文化への理解 など)

業務上求めることとしては、まず日本語能力がある。コミュニケーションが取れるレベルの日本語を身につけておいてもらう必要がある。業務以外の面では、休みの取り方に関して理解を求めたい。急に長期の休暇をもらおうとすることがあり、この点は難しいことを伝えた。

また、ビジネス上の協調性のようなものも求めたい。9:30始業なのに9:30に出社する等仕事に関する日本的常識と乖離している部分があるが、日本人に合わせてほしいと思っている。これさえできれば先輩日本人整備士ともうまくやっていけると思う。

2級自動車整備士に関しては100%取得してほしいと考えている。

④外国人材雇用に関する課題や意見など

これまで留学生からの応募はそれほど多くなく、2～3名であるため日本語能力を基準に採用した。もし、10名を超える応募があった場合どのように評価すべきかがまだ定まっていない。筆記試験では判断しにくく、面接でも日本語能力は様々かもしれない。評価基準を定めるべきであった。

一度採用をやめた理由とも関連するが、留学生のためのキャリアパスが準備できていない。工場長への昇進や営業への異動等をできるようにするべきか、本人たちの希望が分からない。もし、昇進や異動を希望しないとしたら、日本人と同じ待遇でいいのか、検討が続いている。

企業・工場⑦

①外国人材雇用に関する実績と意向

・雇用実績

(雇用実績の有無、国籍、学歴、雇用に至った経緯 など)

現在雇用している外国人はいない。これまでも雇用の実績はない。学校での説明会では2名半紙をしたことがある。

・雇用に関する意向

(例：「今後も採用したい」「これから採用を始めていきたい」 など)

留学生を募集の対象としようと検討している。おそらく来年度から門戸を開くと思う。日本人の人員が不足していることが理由である。離職者が多く、若い人材もいない。中心から離れた営業所では人材確保ができないでいる。ハローワークや専門学校にも出向いているところである。以前は人気のある分野であったが、今は学生数も少なくなっている印象だ。留学生数は多くなっているようなので目を向けることになった。まず本社に入ってもらい、そこから各営業所でも採用していくことになると思われる。

②外国人材を採用する条件

(雇用形態、給与体系、昇進機会、業務内容 など)

雇用条件や機会はグループ全体で同じとしており、留学生も適用することになる。

③外国人材に求める資質・能力など

(例：整備技術、協調性、日本の労働文化への理解 など)

やはり、日本語が通じないと採用はできない。お互い話していることが理解できるようであればよい。技術面に関しては、専門学校卒業者の平均的なレベルを求めたい。やる気があればさらに良い。2級自動車整備士は取れているに越したことはない

が、入社後でも構わない。

礼儀はある程度身につけておいてほしいと考えている。今の日本人には少し足りないと感じる。きいたところによると、留学生の方がより礼儀正しいとのことだった。

そして、意欲・仕事を頑張りたいという気持ちを求めたい。

④外国人材雇用に関する課題や意見など

住居に関しては問題となりそうである。自社の寮はなく、住む場所が見つからないというような状況があると問題だ。ビザの更新に関しても何年かに 1 度あると聞いている。こちらについても会社として知っておかなければならない。

会社としては長く勤めてほしいという気持ちがある。留学生は帰国してしまう可能性があるというところは課題となり得そうだ。

技能実習や特定技能は受け入れていなく、検討もしていない。まずは留学生を重視して採用したい。

企業・工場⑧

①外国人材雇用に関する実績と意向

・雇用実績

（雇用実績の有無、国籍、学歴、雇用に至った経緯 など）

現在ミャンマー人を 1 名雇用している。日本語を 3 年学んだあと専門学校に進学し、新卒として入社した。母国での整備経験はない。自動車整備士が不足している状況の中、専門学校からの紹介で面談を行い、採用に至った。

・雇用に関する意向

（例：「今後も採用したい」「これから採用を始めていきたい」 など）

これからも採用・雇用を続けたいと思っている。今雇用している人材は非常にいい。勤務態度も真面目で向上心がある。明るい性格で好かれているようだ。

②外国人材を採用する条件

（雇用形態、給与体系、昇進機会、業務内容 など）

雇用条件や機会は日本人とまったく同じである。ただ給料に関しては、住宅手当を上乗せしているので日本人より良くなっている。業務内容も同じである。自社の業務内容では接客はほばない。

③外国人材に求める資質・能力など

（例：整備技術、協調性、日本の労働文化への理解 など）

2 級整備士をとれるレベルの学力・日本語能力・専門知識は要求したい。また、コ

コミュニケーションをとることができる日本語能力もほしい。今雇用している方に関しては、専門学校からお墨付きをもらっており、作文も読んで判断したので全く問題はない。

挨拶や報連相のようなビジネスの基本的マナーは身につけているとなおよい。

④外国人材雇用に関する課題や意見など

我々管理部門は現場部門と常井に一緒にいるわけではない。したがって、本人に不満はないか、モチベーションを保っているか、メンタルヘルスは大丈夫か等をいかに把握していくかが課題となる。母国が不安定だということで不安そうな部分もある。現状定期的な面談での聞き取りを行っており、工具手当がほしいという要望があった。

技能実習や特定技能についても認識はしているが、留学生の方が良いと考えている。専門学校とコミュニケーションをとりながら人材を採用できるという点はメリットであるし、中長期的に働いていただける可能性も高い。

企業・工場⑨

①外国人材雇用に関する実績と意向

・雇用実績

(雇用実績の有無、国籍、学歴、雇用に至った経緯 など)

留学生雇用の実績はない。

・雇用に関する意向

(例：「今後も採用したい」「これから採用を始めていきたい」 など)

現在1～2年後の留学生採用開始を検討している。最大の理由は人材不足。日本人学生が少なく、留学生や高校生を検討し始めている。技能実習や特定技能は入っていない。今後検討していくが、留学生とは属性が同じ外国人でも属性が違うのではないかと考えている。

②外国人材を採用する条件

(雇用形態、給与体系、昇進機会、業務内容 など)

日本人と同様に正社員で、同じ待遇になる。

③外国人材に求める資質・能力など

(例：整備技術、協調性、日本の労働文化への理解 など)

まずは日本語の会話能力が必要である。特に接客のことばができればよい。言語力・コミュニケーション能力は重視したい。また、日本で長く働く意欲があるかも注

目することになる。会社としては中長期的に働いてもらうことが望ましい。

技術レベルは日本人と同等になってほしい。また、理想を言えば 2 級自動車整備士に合格しておいていただきたい。

④外国人材雇用に関する課題や意見など

外国人雇用のノウハウがまだない。必要な手続きがまだ分かっておらず、失敗してしまうと外国人の方々に迷惑がかかる。制度の理解についてはしっかりと考えていかなければならない。

これまで専門学校での説明会で留学生と話をしたことがあるが、日本の労働環境・労働習慣に慣れてもらえるのかには不安がある。賃金に関するストレートな質問や長期の休みに関する要望が多く外国の文化との違いを感じている。

企業・工場⑩

①外国人材雇用に関する実績と意向

・雇用実績

(雇用実績の有無、国籍、学歴、雇用に至った経緯 など)

九州の支社だけでなく全国で言えば 180 名ほど雇用している。国籍はスリランカ、ネパール、ベトナム、バングラデシュ、中国等。日本語学校卒業後専門学校に進学し新卒として入社している。母国での整備経験がある者も少数居るが、大半は未経験。4 年前から少しずつ毎年新卒採用を増やしていき、今年初めて中途も採用した。年々日本人の志望者が減っている中、留学生が増えており、自然と採用を開始した。

留学生たちは働く意欲が日本人より高く、暇を嫌がる傾向にある。スキルも日本人と変わらない。しいて言えば「おもてなしの気配り」が足りないという印象。

・雇用に関する意向

(例:「今後も採用したい」「これから採用を始めていきたい」 など)

これまで通り採用を続けていきたい。今年度は 100 人ほど採用した。今後全国に店舗をさらに広げていきたいと考えているため、採用は拡大していくと思う。

②外国人材を採用する条件

(雇用形態、給与体系、昇進機会、業務内容 など)

条件は日本人とまったく同じである。研修プログラムも日本人と一緒にだが、教科書や資料にルビを振っている。

③外国人材に求める資質・能力など

(例:整備技術、協調性、日本の労働文化への理解 など)

2 級自動車整備士は入社後でもいいので合格が必須。そうでなければ在留資格が下りない。日本語能力は面接で理解力・会話を最も重要視して見ている。以前は筆記テストを行っていたが、あまり参考にならなかった。

業務においては接客を行うので、身だしなみを整える意識と日本語の会話力・コミュニケーション能力は必須。ただし、日本語が上手すぎると思ったことをすべて言うことができしまい、日本人にはストレートな表現過ぎてトラブルになることもある。

学力に関してはそれほど重視していない。スポーツを長くやっていたというように、何かに打ち込んだ経験がある方は、高評価になり得る。

④外国人材雇用に関する課題や意見など

自社では、全国転勤ありと地域内で異動のみの2種類の働き方がある。全国転勤の場合には法人契約のアパートがあるが、部屋の使い方が日本人と違い、退去時原状復帰に80万円もかかったことがあった。また、スパイスを多用する文化圏の方の場合、において近隣住民から苦情が寄せられることもあった。

これまでのところ急にやめた方はいないが、2 級自動車整備士に合格できず帰国することになった方はいた。2 級に合格できなかった方には特定技能に進んでもらい、合格後に在留資格を取るという方法も行っている。

今後は特定技能も検討してくことになると思う。母国で専門技術と一定レベルの日本語は身につけているはずであると聞く。しかし、能力やコスト面を考えても留学生の方を優先した。コロナ禍の影響もあるが、今後どのくらい留学生が来るのかは注目している。争奪戦になるのではないかと危惧している。

留学生の学力の面では、日本語をしっかりと理解して読む力が課題だと考える。2 級の勉強をする際、設問を理解して考えるのではなく、見て覚えようとしている方がいる。その場合、「当てはまるもの／当てはまらないもの」や「該当するもの／該当しないもの」が変わると簡単に間違えてします。結局意味が分かっておらずスマホで調べながら読んでいる方もいる。そこで合否が湧けれているような印象を受けている。傾向から言えば、3 年課程で日本語もしっかり学ぶ時間があつた方の方が、良い人材になっている。

2.2.4. 結果のまとめ

ここでは企業ヒアリング調査結果について、2つの分野を比較する観点から注目すべき点のまとめを行う。

まず、ヒアリングを行った企業等の所在地としては、IT・情報通信系企業等では鹿児島県が7社と沖縄県が3社であった。自動車整備系企業・工場では熊本県が7社、福岡県が2社、鹿児島県が1社である。両分野とも10社ずつで計20の九州・沖縄地域に所在する企業等が対象であった。雇用実績では、IT・情報通信系では5社がエンジニア雇用実績あり、1社がエンジニア以外での雇用実績あり、4社が雇用実績なしだった。自動車整備系では8社が実績ありで2社が実績なしである。

採用した外国人材の国籍は、IT・情報通信系ではベトナム2社、韓国・中国・アメリカ・ネパール・スリランカが1社ずつであり、応募だけで見るとインドからもあったようだ。一方、自動車整備系ではネパール5社、ベトナム4社、スリランカ・バングラデシュ3社、中国2社、インドネシア・ミャンマー1社となっている。国籍を比較するとそれほど地域的な差はなく、IT・情報通信系でアメリカ人がいるが、多くは東南アジア・東アジア・南アジアの出身である。

外国人の採用に至った理由としては両分野で大きく異なっている。IT・情報通信系は紹介や派遣、本人からの応募等理由は様々だが、そもそももとから国籍で判断している企業が少なくといった印象である。一方で、自動車整備系では日本人整備士の不足から近年外国人に対して採用の門戸を開いたという経緯が多い。したがって、今後の意向に関して自動車整備系では「雇用を続けたい」「採用開始を検討中」といった具体的な回答だが、IT・情報通信系では「機会があれば採用したい」「具体的な方針はない」のように外国人材に対する特別の雇用意向や計画はないことが多かった。

雇用条件という面では、両分野で実績のある多くの企業が日本人と同一だと回答している。業務内容は日本語の能力が理由で異なっている場合はあるが、今回ヒアリングを行った企業では、外国人には低い条件で働かせているという状況はなかった。

求める資質・能力の項目では、両分野で全社から日本語能力が挙げられている。最も多い回答は「コミュニケーションが取れば大丈夫」であるという回答であった。しかし、高い日本語能力を求めている企業もあり、その際基準はN2となっていた。日本語能力以外では2つの分野で異なった傾向が見える。IT・情報通信系はITスキルを求める企業と求めない企業に分かれている。これは、IT以外の専攻からも採用を行い、入社後にITスキルを身につけさせていくタイプの企業と、即戦力を求めている企業の違いである。IT・情報通信系からは、日本語能力とITスキル以外の能力等に関する要求は少なかった。一方、自動車整備系では「コミュニケーション能力」「ビジネスマナー」「働く意欲」「真面目さ・勤勉さ」「国家試験合格程度の学力」等のように様々な能力が複数の企業から回答として挙げられている。なお、自動車整備のスキルに関しては入社後の研修で伸ばすことがで

きるため平均レベルあればいいと全社が考えており、高い技術力が求められているわけではなかった。

課題として、住居の問題が両分野の企業から挙がっていた。やはり、外国人の入居が不可能な物件がまだ多い日本の現状を示している。また、帰省も含めた休暇の制度についても複数の企業から回答があった。IT・情報通信系企業からは上がらなかった問題であるが、自動車整備系の企業からは在留資格に関する難しさに関する意見もあった。

なお、自動車整備分野における外国人材としては、留学生だけでなく技能実習や特定技能という選択肢もある。特定技能等を並行して受け入れている企業もあったが、今回ヒアリングを行った企業では10社中8社が受け入れていなかった。そのうち5社が留学生を重視して採用したいという意見であった。理由としては、中長期的に働くことができる可能性や日本語能力等である。

2.3. 遠隔教育、ネットワーク支援学習環境事例調査

2.3.1. 調査概要

(1) 調査目的

本事業では、遠隔教育、ネットワーク支援学習環境事例調査を実施した。本調査では、主に海外や遠隔地の教育機関や学生に教育を提供する事例を収集する。その際、ネットワークの活用方法や利用したシステム・ツールに関して情報収集する。ここで得た情報は、母国の日本語教育機関で学ぶ留学希望者への教育方法を検討する際の基礎資料とすることを目的とした。

(2) 調査対象

本調査では、実際に国内外で行われたオンラインでの語学教育・留学生教育の事例に関する論文・書籍・報告等を対象にインターネット上の情報を収取することで調査を実施した。また、一部ヒアリングを行った。

以下に情報収集対象とした事例の一覧を掲載する。各事例の情報収集結果は巻末付録に掲載する。

●インターネット上での論文・書籍・報告等

- ①日本、ベトナム、タイ、インドネシア大学間研修における Teams の使用
- ②ベトナム・ダナン大学における遠隔日本語授業
- ③日独・日墺におけるドイツ語を用いた遠隔交流授業
- ④日中における双方向遠隔授業
- ⑤日米における遠隔日本語授業
- ⑥九州国際大学における遠隔英語授業
- ⑦日韓における SNS を用いた遠隔交流授業
- ⑧日米における日本短期研修後の遠隔日本語授業
- ⑨日韓における対面教育と遠隔教育を統合した授業（SNS を利用した日本語作文授業）
- ⑩日中における遠隔交流授業
- ⑪日越における連携授業「その場で IPPO～ベトナム編～」
- ⑫金沢大学ロシア文化交流プログラムにおけるオンデマンド方式の初級日本語研修
- ⑬日伊間の日本語教育における遠隔交流

- ⑭ブラジル人学校と大学を結んだ遠隔日本語教育
- ⑮YouTube を使った動画配信型会話能力試験の試み
- ⑯動画配信サービス及び SNS を活用した「見る！日本語の教え方」プロジェクト実践
- ⑰日仏における遠隔フランス語学習
- ⑱日本の大学と日本語学校との遠隔合同授業
- ⑲オンライン日本語コースにおける初級日本語学習者向けの遠隔チュートリアル

●ヒアリング

- ①コロナ禍における専門学校での多国籍遠隔日本語授業
- ②WEB 会議ツールを活用した留学生への PBL 授業
- ③e ラーニングによる沖縄の文化動画教材個人学習

2.3.2. 事例調査結果からの分析

語学教育・留学生教育における遠隔授業の事例において最も活用されていたのは WEB 会議ツールである。これは、教室という同じ場に集合していなかったとしても同期型の授業を行うことができるため、通常の集合学習の代替手段として選択しやすいからであろう。事例において実際に使われたツールとして最も多く挙がっていたのは Zoom であったが、同様に Skype も活用されていた。この 2 つのツールの間にある大きな違いは、事例の年代である。2010 年代半ばまでは Skype の事例が大半であるが、この 5 年ほどの事例はほとんど Zoom になっており、他にはわずかに Microsoft Teams の事例が確認される程度だ。したがって、WEB 会議ツールで使用するツールは Skype から Zoom に置き換わってきたと考えられる。

その理由としては、まず Zoom の利用しやすさによるところが大きいと思われる。Skype で授業を行う場合には、離れている両者がともに Skype のアカウントを所持していなければならなかった。参加している学生が同じ場に集合していない場合には全員がアカウントを所持していなければならなかった。現在はアカウント無しでも利用できるようになったが、これはコロナ禍が始まった後のことである。それ以前からビジネス場面を中心に活用が広がり始めていた Zoom は、WEB 会議を設定する側がアカウントを持っていれば、会議相手に URL を送るだけでブラウザ上での WEB 会議を行うことができるようになっていく。これにより、一方はアプリケーションのダウンロードもアカウントの設定も行わずに WEB 会議を実施できるため、コロナ禍における遠隔授業で一気に活用が進んだ。

また、音声やビデオ通話の安定性でも Zoom は Skype を上回っているという印象を受ける。収集した事例でも Skype を使用していた授業の課題として接続の悪さ、音声の悪さによる授業の中断や学生の出席断念が多く挙がっているが、Zoom についてはそのような課

題を指摘する意見は少なかった。Zoom における課題として挙げられるのは、WEB 会議ツール全般に当てはまることであるが、カメラを OFF にしている学生の存在や画面共有によって他の学生や教員の顔が見えなくなってしまう仕様によって、やはり場を共有しているという意識が持ちにくい場合があることだ。それは、コミュニケーション多くを伴う語学教育や留学生教育においては大きなデメリットになり得る。また、Zoom 自体の音声やビデオの質が高くても、参加者のインターネット環境が悪い場合には同期型の授業を実施することはできない。

収集した事例の中で WEB 会議ツールの次の多かったのは非同期型の授業を行うオンデマンド式の授業である。この場合には動画が使用される。以前であればビデオや DVD のような記録媒体を配布してすることによって学生は授業を閲覧することになっていたが、LMS や e ラーニングの活用によりネットワーク環境下での受講が可能になった。そして、収集した事例にもあったように YouTube をオンデマンド教育のツールとして活用することも進んでいる。YouTube は LMS や e ラーニングとは違い、動画コンテンツの追加や削除を頻繁に簡単に行うことができる。限定公開にしても URL が流失すれば誰にでも閲覧できてしまうという欠点はあるが、オンデマンド授業の動画を蓄積していくには教師側にも学生側にも利用しやすいツールであるといえる。ただし、どの学生がいつどの授業動画を閲覧したのかを管理する必要があるのなら、LMS や e ラーニングシステムが必要になってくるだろう。これらを活用すれば、授業に参加している学生以外には授業動画が公開されにくいというメリットもある。

次に注目したいのがチャットツールの活用である。LINE を中心としたこの種のツールのメリットは連絡が簡単にできることである。学生にとっても普段から使い慣れているチャットツールを使つての連絡の方が、確認もしやすく便利である可能性が高い。課題となるのは、自身のプライベート用のアカウントを授業において使用したいかということである。他の学生や教師も参加するチャットのグループに参加することは、全員と SNS でつながることを意味している。そのことに抵抗感を持つものも決して少なくはないだろう。授業に参加するための別アカウントを作ることができれば良いかもしれないが、それでは普段使いのチャットツールと同程度に連絡を確認しない可能性もあるほか、原則として 1 端末 1 アカウントのツールであれば別アカウントの作成は難しい。そして、アカウントを持たなくても利用できる Zoom 等の WEB 会議ツールや YouTube とは異なり、チャットツールはアカウントを持っていなければ利用できない。もし、授業内でチャットツールを使う場合に、そのツールを使用していない学生がいたとしたら、アカウントの登録を強制するのかという問題が起こる。以上のことから、チャットツールの活用はオプションとすることが無難であり、その場合にもツールを活用していない学生がコミュニケーションから疎外されないよう別の連絡方法も並行して使用しなければならない。これはチャットツールだけでなく、Facebook のようなコミュニティを作る SNS の活用に際しても同様である。

同期型の授業において活用が期待されるのは、Google スライドや Google ドキュメント

のようなオンラインで編集可能な WEB ベースのプログラムである。WEB 会議ツールを活用してリアルタイムで授業を行ったとしても、グループで作業するような演習において協力しながらひとつの成果物を作成することは難しい。しかし、上記のようなツールを使用すればグループメンバーが同時に同じファイルをオンライン上で編集することができるため、場を共有していなくてもグループワークが容易になる。また、教師も同じファイルを閲覧すれば進捗度を簡単に把握することができるため、双方にとってメリットがある。PBL やケーススタディのようなディスカッションとドキュメント作成をグループで行う形式の授業を遠隔で行う際には、ぜひ利用したいツールである。さらに、これと並行して Google ドライブや OneDrive のようなストレージを使用すれば、遠隔での提出物についても管理がしやすくなる。ファイルの削除や移動等の権限の設定を間違えなければ、メール等での提出より確実性が高いだろう。

最後にアンケートフォームの活用である。Google フォームに代表されるこの種のツールは簡単にアンケートを作成することができるため、教師が学生からフィードバックを集めたい場合には非常に便利である。また、簡単な設定の変更で CBT のような試験を作成することもできる。これも、相手に対して URL を伝えるだけで使用することができ、回答する側はアカウントの登録やアプリケーションのダウンロードの必要もないため、利用しやすい。

以上のことから、本事業でベトナムの教育機関に対して教育支援を行う場合、以下のようなツールを活用することが現実的である。

目的	ツール
リアルタイム授業	Zoom
オンデマンド授業	YouTube（公開可能） e ラーニングシステム（内部限定）
連絡（必要があれば）	LINE、Messenger、Zalo
グループでの成果物作成	Google ドキュメント Google スライド
ストレージ	Google ドライブ
アンケート、小テスト	Google フォーム

上記はなるべく学生や教師、学校に設定やコスト面の負担をかけにくいものを選択した。連絡用のチャットツールとしては、日本でのデファクトスタンダードともいえる LINE の他、Facebook 利用者が多いベトナムでは Messenger が選択肢として挙がる。また、ベトナム国内で利用者が多い Zalo も考えられる。

3. 開発

- 3.1. 学習者評価指標
- 3.2. 「日本の文化と産業」試作教材
- 3.3. 「キャリア学習」試作教材
- 3.4. 「プロジェクト演習」試作教材
- 3.5. 専門学校紹介コンテンツ
- 3.6. Facebook ページと WEB サイト
- 3.7. e ラーニングシステム

3.1. 学習者評価指標

3.1.1. 概要

本事業で開発する学習者評価指標は、来日前後における専門学校進学前の留学希望者・留學生の習熟度や意識を評価するための指標である。今年度は、学習者評価指標の構成を検討し、大項目にあたる領域からより個別的なコンピテンシーを選定したうえで、学習者評価指標のプロトタイプを作成する。

3.1.2. 学習者評価指標の構成

今年度は、前掲した専門学校アンケート調査の結果や留學生教育・職業教育における学習者評価に関する研究・文献を基礎資料とし、どのような項目の習熟度や意識を評価対象とするかを検討した。その結果、大項目として「日本語能力」「日本への留学」「専攻」「専門学校への進学」「キャリア形成」「日本に関する知識」を設定した。そして、評価をS（最上位層）からC（下位層）の4段階に分類するルーブリック型の評価指標とした。また、習熟度の問題や留学等に関する意欲・意識が十分に喚起されていないといった理由から上記4段階に分類することができない留学希望者等の状態にあたる「評価不能」Fも設定した。4段階の評価においては、B（中間層）が現状の専門学校に進学していく留學生として一般的であると思われる状態を記載している。

今回のプロトタイプでは、大項目「日本語能力」に関しては追加の余地を残している。これは、専門課程で学ぶために必要となる専門語彙以外の日本語能力、つまり講義を聞き理解する・ノートやメモを取る・レポートや資料を作成するといった能力（ここではあえて「アカデミック・ジャパニーズ」という用語は使用しない）の項目についても検討する必要があるからである。また、「ビジネス日本語能力テスト（BJT）」を入学時の日本語能力判定基準として活用している専門学校があることから、「ビジネス日本語」に関する項目を作るべきか、PBL 学習等に必要となる日本語を使った課題発見・解決能力を含めるべきかについても検討が必要である。そして、IT・情報分野と自動車整備分野では授業の形式も求められる日本語能力も異なっている可能性がある。したがって、分野に合わせた評価指標の開発が必要だろう。次年度は上記のような懸案事項をさらに検討したうえで、学習者評価指標の完成版を作成することとする。

なお、この学習者評価指標は専門学校進学前の留学希望者・留學生の現状を判定するためのツールであり、これをもって留学の可否や進学試験の可否を決定するものではない。

学習者評価指標プロトタイプの全容は巻末付録に掲載する。

3.2. 「日本の文化と産業」試作教材

3.2.1. 科目群の概要

本事業では、来日前に母国の日本語教育機関等において留学希望者を対象とした科目群として「日本の文化と産業」を提供する。本科目群においては、来日前に知っておくべき日本の文化や生活様式、社会、産業に関する知識を身につける。さらに、この科目群の内容は以下に示す3つの科目から構成されている。

第1の科目は「KIẾN THỨC CƠ BẢN VỀ NHẬT BẢN（日本の基礎知識）」である。ここでは、日本に関してまだよく知らない留学希望者のために、日本という国にまつわる基本的な情報を提供する。第2の科目は「VĂN HÓA KYUSHU / OKINAWA（九州・沖縄の文化）」である。ここでは、本事業の拠点となる九州・沖縄地域を留学希望者に認知してもらうための内容を提供する。第3の科目は「SO SÁNH VĂN HÓA NHẬT BẢN VÀ VIỆT NAM（日本とベトナムの文化比較）」である。この科目では、日本とベトナムの国民性や日常生活におけるルールの違いについて取り扱っている。

今年度は、上記の3科目についてそれぞれ教材の試作を行った。以下から各科目の試作教材について説明する。なお、以降は見やすさの観点から科目名を日本語表記に統一する。

3.2.2. 「日本の基礎知識」試作教材の概要

来日前の留学希望者の多くは、日本に関して自身の興味のある分野のことしか知らない場合が多い。しかし留学を見据えた場合、日本がどのような国なのかという基礎的な知識を身につけていることが望ましい。そこで、日本の文化や産業について学ぶ導入として「日本の基礎知識」という科目を提供することとし、そのための教材を試作した。

今年度試作教材のテーマとしては、「季節」「信仰・精神」「地理」を選定した。本教材は講義形式の授業での活用を想定し、PowerPointのスライド及びノートによって構成されている。スライドには、テーマにもとづいた簡潔な内容と参考となる画像が掲載されている。ノートには、スライドの内容に関する詳しい説明を記載しており、教師はこれを用いて講義を行うことができるようになっている。なお、この科目を学ぶ留学希望者は日本語能力が高くないことが予想される。そこで、本教材は全編ベトナム語で執筆することとした。これにより、日本語能力が低い初級者でも内容を理解し、日本の基本的な情報について知識を深めることができるようにしている。

« 「日本の基礎知識」教材例 1 季節（夏②） »

KIẾN THỨC CƠ BẢN VỀ NHẬT BẢN

～MÙA～

- Mùa Hạ ② -

- Nhiều lễ hội khác nhau được tổ chức ở nhiều nơi khác nhau trên khắp đất nước vào mùa Hạ.
- có rất nhiều lễ hội mùa hạ nổi tiếng như **Aomori Nebuta, Tanabata Sendai, Kyoto Gion...** rất nổi tiếng.**ca**
- Lễ hội của Nhật Bản có liên quan sâu sắc đến các đền thờ, và có ý nghĩa cung kính các vị thần của mỗi ngôi đền, lắng nghe lời nguyện cầu của mọi người.



Lễ hội Aomori Nebuta



Lễ hội Gion

« 「日本の基礎知識」教材例 2 地理（自然環境②） »

KIẾN THỨC CƠ BẢN VỀ NHẬT BẢN

～ ĐỊA LÝ ~

- Môi Trường Tự Nhiên ② -

- Ở Nhật Bản **con sông dài nhất là sông Shinano.**
- Ở Nhật Bản **sông rộng nhất là sông Tone.**
- Đồng bằng Ishikari, Echigo và Tsukushi là **khu vực trồng lúa rất phát triển.**
- Đồng bằng lớn nhất Nhật Bản là đồng bằng Kanto.



Sông Shinano



Đồng bằng Ishikari

3.2.3. 「九州・沖縄の文化」試作教材の概要

まだそれほど日本についての知識がない留学希望者が知っている日本国内の地域や街と
いえば、東京・大阪といった大都市や京都のような有名観光都市のみであることが予想さ
れる。そして、本事業の拠点である九州・沖縄という地域はほとんど認知されていない可
能性がある。九州・沖縄地域の専門学校への留学を選択肢として検討してもらうためには、
日本全体だけでなく地域の魅力をアピールすることが必要となる。そこで、九州・沖縄地
域の文化や様子について知ってもらうために「九州・沖縄の文化」という科目を提供する
こととし、そのための教材を試作した。

今年度試作教材ではまず鹿児島県を対象とし、「鹿児島の基本情報」「鹿児島の食文化」
「鹿児島市の街並み」をテーマとして選定した。形式としては動画教材であり、鹿児島県
在住の動画クリエイターが画像・実物・映像等を提示しながら、テーマに関して紹介して
いく内容になっている。なお、この科目を学ぶ留学希望者は「日本の基礎知識」と同様に
日本語能力が高くないことが予想される。そこで、本教材は全編ベトナム語の字幕を付け
ることとした。これにより、日本語能力が低い初級者でも内容を理解し、日本の基本的な
情報について知識を深めることができるようにしている。また、動画内では比較的ゆっく
りとしたスピードで話をしており、日本語能力が初中級程度の日本語学習者にも聞き取り
やすいよう配慮している。このような学習者のためにベトナム語ではなく日本語の字幕に
置き換えた同内容の動画も開発した。

≪「九州・沖縄の文化」教材例1 鹿児島の基本情報（ベトナム語字幕）≫



≪「九州・沖縄の文化」教材例2 鹿児島県の食文化（ベトナム語字幕）≫



≪「九州・沖縄の文化」教材例3 鹿児島市の街並み（日本語字幕）≫



3.2.4. 「日本とベトナムの文化比較」試作教材の概要

距離的に近いアジアの国同士とはいえ、日本とベトナムでは国民性やマナー、社会的なルールが異なっていることが少なくない。それを意識することなく来日したベトナム人留学生は、母国と日本との違いに戸惑う場合もある。来日後に日本での生活にスムーズになじむことができるようにするためにも、日常生活に関わる両国における違いについては来日前にある程度知っておくことが望ましい。そこで、来日前に知っておいてもらいたいベトナムとの違いを学ぶための「日本とベトナムの文化比較」という科目を提供することとし、そのための教材を試作した。

今年度試作教材のテーマとしては、「「私」を強調しない日本人」「ごみの捨て方」「交通について」という日本・ベトナムの国民性やルールに関する内容を選定した。本教材は講読解教材としての活用を想定し、文章と内容理解を確認する簡単な質問によって構成されている。なお、この科目を学ぶ留学希望者は来日前であることから日本語能力が高くないことが予想される。本教材は内容を理解してもらうことを最優先とし、全編ベトナム語で執筆している。一方で、日本語能力が既に高い留学希望者に日本語の読解教材として使用してもらう場面も想定し、同内容の日本語版教材も作成した。

《「日本とベトナムの文化比較」教材例1 「私」を強調しない日本人（ベトナム語）》

< Tư tưởng của người Nhật >
Người Nhật tránh nhấn mạnh về bản thân

Trong giao tiếp hằng ngày, người Nhật rất ít dùng từ “tôi” (đại từ nhân xưng ngôi thứ nhất) trong câu nói khi nói về mình. Không nói chủ ngữ “tôi” nhưng đối phương vẫn hiểu và cũng không bị xem là vô lễ. Ở Việt Nam thì khi nói về mình, đặc biệt khi nói với người lớn tuổi hơn, nếu bạn không dùng đại từ nhân xưng ngôi thứ nhất thì chắc chắn sẽ bị xem là vô lễ.

Thực ra, phần lớn người Nhật có khuynh hướng không thích nhấn mạnh về bản thân. Từ xa xưa, người Nhật đã xem việc khiêm tốn không phô trương bản thân là một giá trị tốt đẹp. Điều đó cũng được thể hiện qua việc là trong tiếng Nhật có kính ngữ, là cách nói hạ thấp bản thân xuống.

Chính vì xem việc hạ thấp bản thân là một điều tốt đẹp, nên người Nhật cũng không thích làm việc gì đó phô trương gây sự chú ý. Trong ngôn ngữ Nhật Bản có câu “Cây đình nhỏ lên thì sẽ bị gồ”, ám chỉ tư tưởng này. Và một trong những biểu hiện của đặc tính này đó là người Nhật rất kỵ việc tạo ra âm thanh lớn ra xung quanh. Ví dụ như xe cộ không bấm còi inh ỏi, không nói to ở nơi công cộng, ngay cả đám tang cũng yên lặng không ồn ào. Người Việt Nam đã quen với tiếng còi xe inh ỏi trên đường, tiếng cười nói không chút e ngại ở chỗ đông người, hay tiếng nhạc và tiếng đọc kinh của đám ma vang khắp xóm thì ắt sẽ ngạc nhiên về sự “yên tĩnh” của ngày thường tại Nhật Bản.

Bạn nên nhớ một điều là khi sang Nhật rồi thì đừng hát karaoke ở trong phòng với âm lượng lớn như ở Việt Nam nhé! Vì nếu làm vậy, người ta sẽ gọi cảnh sát đến can thiệp ngay. Ở Việt Nam, nếu thấy phiên thủ hàng xóm có thể đến phân nản trực tiếp, nhưng ở Nhật thì không phải vậy. Việc “phản nản trực tiếp” là một hành động “tạo sự chú ý cho xung quanh” và người Nhật không thích điều đó. Vì vậy họ sẽ nhờ người thứ ba là cảnh sát can thiệp./.

Câu hỏi kiểm tra:
Hãy tham khảo nội dung đoạn văn trên và đánh dấu ☐ hoặc ☒ cho những câu sau.

Q1. Nội dung bài ở trên là về việc người Nhật thích nhấn mạnh bản thân.
Q2. Người Nhật không thích làm việc gì tạo âm thanh lớn ra xung quanh.
Q3. Phần lớn người Nhật thích phô trương gây sự chú ý.

《「日本とベトナムの文化比較」教材例2 「私」を強調しない日本人（日本語）》

<日本人の思想>

「私」を強調しない日本人

日本人は普段の会話では、「私」という言葉をあえて使わない場合が多い。「食べました?」、「はい、食べました」。「これ、どう思いますか?」、「いいと思います」、そんな具合の会話が殆どです。わざわざ「私」を言わなくても通じますし、失礼にはなりません。ベトナムでは、特に目上の人と話す時は、「私」を言わないと無礼だと判断されます。

実は、日本人は自分を強調することを嫌う傾向があります。昔から日本では自分を控えめにすることが美德とされます。日本語の中の謙譲語と尊敬語という言い方がその表れです。いずれも自分を低くするへりくだった言い方です。

自分を低くすることが美德とされているため、目立ったことを嫌う傾向があるというのも日本人の特徴です。「出る杭は打たれる」という日本語のことわざがあるほどです。その一つの表れとして「大きな音を出さない」ということがあります。具体的に言えば、運転中あまりクラクションを鳴らさない、バスや電車のような公共の場では大きな声で話さない、お葬式で大きな音を出さない等です。ベトナム人にとっては、道路でクラクションが鳴り響くこと、公共の場で大きな声を出して談笑すること、そしてお葬式で音楽や読経の音が周辺に響き渡るほどの大音量で流されていることが日常茶飯事なので、日本の日常の静けさに驚くかもしれません。

日本に来たら、くれぐれもベトナムにいた時と同じように、部屋で大音量でカラオケを歌わないようにしましょう。警察に苦情を言われてしまうのがオチです。ベトナムでは、近所の人が直接に苦情を言ってくれるのですが、日本ではそれは自分が目立ってしまうので、第三者である警察に入ってもらった方がいいというわけです。

以上。

理解度確認テスト

上記文章の内容を参考に○と×を付けて下さい。

- Q1. 上記の文章は、「日本人が自分を強調する嫌いがある」という内容でした。
Q2. 日本人は、大きな音を立てるのがあまり好きではありません。
Q3. 日本人は、目立ちたがり屋が多い。

3.3. 「キャリア学習」試作教材

3.3.1. 科目群の概要

本事業では、来日前に母国の日本語教育機関等において留学希望者を対象とした科目群として「キャリア学習」を提供する。本科目群においては、進路として IT・情報系や自動車整備系分野の専門学校を志望・検討している留学希望者に対して、当該分野の業界やそこで働くために必要な知識について提供している。さらに、この科目群の内容は以下に示す 2 つの科目から構成されている。

第 1 の科目は「NGHỀ THÔNG TIN IT (IT キャリア)」である。ここでは、IT・情報分野に進学を希望していたり、興味を持っていたりする留学希望者のためのキャリア学習用科目である。第 2 の科目は「NGHỀ SỬA CHỮA Ô TÔ (自動車整備キャリア)」である。本科目では、自動車整備分野を志す留学希望者のために当該産業におけるキャリアについて教育するための科目となっている。

今年度は、上記の 2 科目についてそれぞれ教材の試作を行った。以下から各科目の試作教材について説明する。なお、以降は見やすさの観点から科目名を日本語表記に統一する。

3.3.2. 「IT キャリア」試作教材の概要

今年度は、試作教材として PowerPoint を活用したスライド型の動画教材と内容理解を確認するテストを開発した。教材が取り扱う内容は、「IT 分野の職業理解」「IT 分野の職業意識」「IT 分野の職業人コンピテンシー」「IT 分野の職業キャリア形成」の 4 つの大項目に分かれている。そこからさらに学習すべき内容を詳細にまとめた結果、以下のような 18 個のテーマを作成した。

NGHỀ THÔNG TIN IT (IT キャリア)

1. Công việc-vai trò của nhân lực IT
(IT 人材の役割・仕事)
2. Nơi làm việc nhân lực IT
(IT 人材の職場)
3. Động xã hội xoay quanh ngành IT
(IT をめぐる社会の動き)
4. Sự trở mình của ngành IT

(IT 業界の動向)

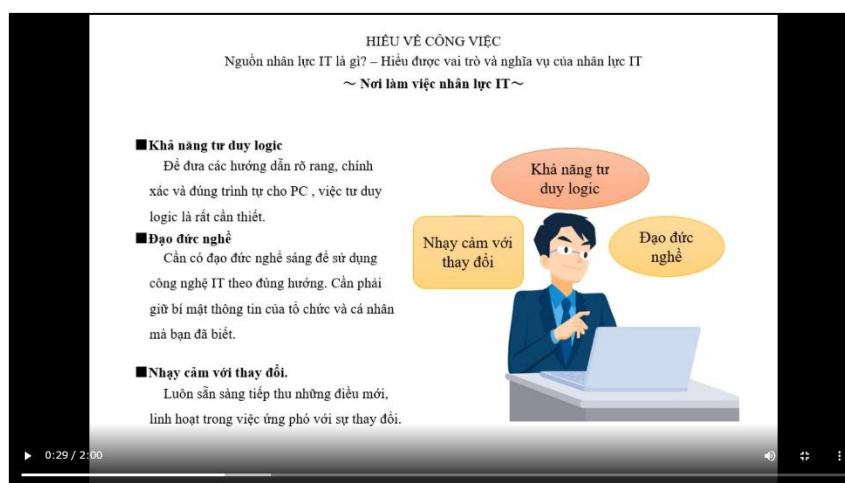
5. Thái độ của nhân lực IT với trách nhiệm xã hội①
(社会的責任を担う IT 人材の心構え①)
6. Thái độ của nhân lực IT với trách nhiệm xã hội②
(社会的責任を担う IT 人材の心構え②)
7. Thái độ của nhân lực IT khi làm việc nhóm
(チームワークにおける IT 人材の心構え)
8. Thái độ của nhân lực IT như chuyên môn nghề
(専門職としての IT 人材の心構え)
9. Thái độ của nhân lực IT như ngành dịch vụ
(サービス業としての IT 人材の心構え)
- 1 0. Liên quan đến việc tự quản lý của nhân lực IT
(IT 人材の自己管理に関する心構え)
- 1 1. Kỹ năng kinh doanh của nhân lực IT
(IT 人材のビジネススキル)
- 1 2. Khả năng đáp ứng để củng cố tinh thần đồng đội
(チームワークを強化する人間対応力)
- 1 3. kỹ năng học tập của nhân lực IT
(IT 人材のラーニングスキル)
- 1 4. Nhìn nhận IT như một ngành dịch vụ
(サービス業としての IT 人材の視点)
- 1 5. Lộ trình nghề nghiệp trở thành nhân lực IT
(IT 人材となるまでのキャリアパス)
- 1 6. Lộ trình nghề nghiệp cho nhân lực IT
(IT 人材のキャリアパス)
- 1 7. Kế hoạch nghề nghiệp của nhân lực IT
(IT 人材のキャリアプラン)
- 1 8. Tầm nhìn nghề nghiệp của nhân lực IT
(IT 人材のキャリアビジョン)

上記のテーマにもとづいた内容のスライド及びノートで構成された教材を作成した。キャリアという非常に高度で難解かつ正しく理解を促すべき内容であることから、教材は全編ベトナム語となっている。これにより、日本語能力が高くない留学希望者であっても、内容を理解することができるようにした。さらに、ノートを読み上げるナレーションを付すことにより、動画教材とした。1 つのテーマ当たり 2 ～ 3 分程度の時間となっており、空いた時間に学習する際にも見やすい長さに設定している。

スライド教材として使用する場合には、集合授業において教師が学生に対してスライド

を提示し、ノート内容を参考に説明を行うことができる。また、動画化したことにより後述する e ラーニングに実装することが可能になり、個人学習が可能になった。その際、動画教材の理解度を確認することができるよう、動画の内容に準拠したテストを付けた。

≪「IT キャリア」教材例 1 2. Nơi làm việc nhân lực IT 動画≫



≪「IT キャリア」教材例 2 2. Nơi làm việc nhân lực IT テスト≫

Nơi làm việc nhân lực IT

(1 / 2)

Trong công việc, đâu là kỹ năng nhân lực IT được kỳ vọng sẽ có?

1	Kỹ năng chiến thắng khi thảo luận
2	Kỹ năng suy nghĩ logic

Hãy chọn 1 đáp án đúng nhất trong số các đáp án dưới đây.

なお、今年度開発した教材のスライド及びテストは巻末付録に掲載する。

3.3.3. 「自動車整備キャリア」試作教材の概要

今年度は、「IT キャリア」と同様に試作教材として PowerPoint を活用したスライド型の動画教材と内容理解を確認するテストを開発した。教材が取り扱う内容は、「自動車整備分野の職業理解」「自動車整備分野の職業意識」「自動車整備分野の職業人コンピテンシー」「自動車整備分野の職業キャリア形成」の 4 つの大項目に分かれている。そこからさらに学習すべき内容を詳細にまとめた結果、以下のような 14 個のテーマを作成した。

NGHỀ SỬA CHỮA Ô TÔ (自動車整備キャリア)

1. Vai trò/công việc của thợ sửa xe ô tô
(自動車整備士の役割・仕事)
2. Nơi làm việc của thợ sửa chữa ô tô
(自動車整備士の職場)
3. Các biến động xã hội xoay quanh việc sửa chữa ô tô
(自動車整備をめぐる社会の動き)
4. Xu hướng của ngành sửa chữa ô tô
(自動車整備業界の動向)
5. Thái độ của một người thợ sửa xe ô tô có trách nhiệm với xã hội①
(社会的責任を担う自動車整備士の心構え①)
6. Thái độ của một người thợ sửa xe ô tô có trách nhiệm với xã hội②
(社会的責任を担う自動車整備士の心構え②)
7. Thái độ của người sửa chữa ô tô với tư cách là nhà chuyên môn
(専門職としての自動車整備士の心構え)
8. Kỹ năng giao tiếp của thợ sửa ô tô
(自動車整備士のコミュニケーション能力)
9. Làm việc theo nhóm đối với thợ sửa ô tô
(自動車整備士におけるチームワーク)
10. Góc nhìn của thợ sửa xe chuyên nghiệp
(専門職としての自動車整備士の視点)
11. Con đường nghề nghiệp của thợ sửa ô tô
(自動車整備士のキャリアパス)
12. Động lực và cảm giác thành tựu/cảm giác sứ mệnh của thợ sửa ô tô
(自動車整備士のやりがいや達成感・使命感)
13. Kế hoạch sự nghiệp với nghề sửa ô tô
(自動車整備士のキャリアプラン)
14. Tầm nhìn nghề nghiệp của một thợ sửa chữa ô tô

(自動車整備士のキャリアビジョン)

上記のテーマにもとづいた内容のスライド及びノートで構成された教材を作成した。「IT キャリア」と同様に高度な教材内容を正しく理解させるため、教材は全編ベトナム語である。また、ノートの説明をナレーションとして2～3分程度の動画教材にしている。

「自動車整備キャリア」集合授業用のスライド教材、個人学習用の動画教材と用途によって使い分けることが可能である。動画教材には理解度確認用のテストを付けている。

≪「自動車整備キャリア」教材例1 8. Kỹ năng giao tiếp của thợ sửa ô tô 動画≫

Năng lực chuyên môn
Năng lực cần có của thợ sửa ô tô ① – Suy nghĩ về năng lực cần có của thợ sửa ô tô khi làm việc theo nhóm –
~ Kỹ năng giao tiếp của thợ sửa ô tô ~

■ Kỹ năng giao tiếp cần thiết với tư cách là kỹ sư/người làm dịch vụ
Khi bảo dưỡng xe sẽ tốn một khoản chi phí. Cần có khả năng truyền đạt tình cần thiết của việc bảo dưỡng xe cho người dùng.

■ Khả năng giao tiếp với xe
Hãy nâng cao khả năng sửa chữa bằng cách tích lũy kinh nghiệm và huấn luyện lặp đi lặp lại.
Hãy nỗ lực để có thể hiểu ngay khi xe có vấn đề bất thường đến mức có thể trò chuyện với xe.

▼ Phân tích và nắm bắt lịch sử sửa chữa xe trong quá khứ
Khi sửa chữa ô tô, bạn có thể biết được ô tô nên được sửa chữa ở đâu bằng cách kiểm tra và phân tích các thông tin như hồ sơ sửa xe. Nếu có hồ sơ bảo dưỡng, hãy kiểm tra cẩn thận.



≪「自動車整備キャリア」教材例2 8. Kỹ năng giao tiếp của thợ sửa ô tô テスト≫

Kỹ năng giao tiếp của thợ
sửa ô tô
(1 / 2)

Thợ sửa chữa ô tô không cần nó khả
năng giao tiếp với người dùng.

1	Đúng
2	Sai

Hãy chọn 1 đáp án đúng nhất trong
số các đáp án dưới đây.

なお、今年度開発した教材のスライド及びテストは巻末付録に掲載する。

3.4. 「プロジェクト演習」試作教材

3.4.1. 科目の概要

本事業では、来日前に母国の日本語教育機関等において留学希望者を対象とした科目として「BÀI TẬP DỰ ÁN（プロジェクト演習）」を提供する。留学希望者にとって興味のあるテーマのプロジェクトを設定し、グループワークを行う。

今年度は、上記の科目について教材の試作を行った。以下から試作教材について説明する。

3.4.2. 「プロジェクト演習」試作教材の概要

「プロジェクト演習」は、情報収集・ディスカッション・成果物の作成・プレゼンテーションをグループで行う PBL（Project Based Learning：課題解決型授業）形式のアクティブラーニング型授業である。ここでは、特に本事業がターゲットにしている IT・情報分野や自動車整備分野を志望している留学希望者の興味をさらに喚起するため、テーマを IT 技術と自動車から設定するとしている。受講者たちは数人のチームを組み、IT 技術や自動車に関連して自分たちが興味・関心を持っているモノ・コト（例：AI 自動翻訳、EV 車等）をテーマとして選択する。そして、テーマについて概要を説明し、それに関連する代表的な日本企業や商品について情報収集をし、結果紹介するシートを作成する。最後にそれらをプレゼンテーション資料としてまとめ、チーム発表を行う。この学習を通して、自身が興味を持つ分野への知識を深めるだけでなく、専門学校という高等教育機関で学ぶための学習への積極性や課題発見・解決能力の初歩を身につける。

本教材は PowerPoint のスライド型となっており、講義資料とワークシートによって構成されている。講義資料をもとに教員主導で授業を進めていくが、中心的な内容はワークシートを用いたグループワークである。ワークシートは主に日本語で作成し、発表も日本語で行うことを想定しているため、N3程度の来日前としては日本語能力が高い層に向けた教材ということになる。ただし、講義資料やワークシートの記述内容を受講者が理解しきれない場合を考え、ベトナム語に翻訳した資料も作成した。また、本教材のワークシートの回答例や教師用の指導ガイドも併せて開発した。これらを参考とすることによって、PBL 形式の授業経験がない教師でも、授業での導入が容易になるよう配慮している。

≪「プロジェクト演習」教材例1 講義資料（日本語）≫

プロジェクトワークとは？

◎プロジェクトワークとは？

①グループをつくる。（3～4人）



②テーマを決める。（ITまたは自動車に関するもの。例：AI自動翻訳機）

③グループごとに、テーマについて情報を集めて発表する。



3

≪「プロジェクト演習」教材例2 ワークシート（ベトナム語）≫

THU THẬP THÔNG TIN①：KHÁI QUÁT LĨNH VỰC

Bản Khái Quát

Chú mục	Nội Dung
Chủ Đề	Về vấn đề ()
Khái Quát về Lĩnh Vực	

12

なお、今年度開発した教材、回答例、指導ガイドは巻末付録に掲載する。

3.5. 専門学校紹介コンテンツ

3.5.1. コンテンツの概要

本事業では、来日前の留学希望者に対して専門学校留学への興味・関心を喚起するため、専門学校を紹介するコンテンツを開発することとした。

今年度は、本事業の連携機関に参画している鹿児島情報ビジネス公務員専門学校及び九州工科自動車専門学校を紹介するコンテンツとして、「ベトナム語版学校パンフレット」「ベトナム語版学校パンフレット WEB 版」「ベトナム人留学生インタビュー動画」の制作という3種類の取り組みを行った。

3.5.2. ベトナム語版学校パンフレット

留学生を受け入れている多くの専門学校では、留学生向けに学校紹介用のパンフレットを作成しているが、大半は日本語であり、外国語版を作成している学校はあまり多くないことがアンケート調査結果からわかっている。これは、専門学校に入学する留学生の多くが日本国内の日本語教育機関で一定期間学んでいる状態であるため、日本語での情報発信でも理解が可能であるからだ。また、外国語版を作成していたとしても、様々な国の留学生に理解してもらえる可能性が高い英語が選択されている。

一方、国籍別で見た国内の留学生数ではトップクラスであるベトナム人に対するベトナム語での情報発信は、それほど多くないのが現状である。そのため、まだ日本語能力がそれほど高くない来日前の留学希望者にとっては、専門学校の情報を集めることは困難である。もしベトナム語で執筆された学校パンフレットが自身の通っている日本語教育機関等にあれば、留学希望者に対して選択肢を提供することができるようになる。

そこで、本事業の連携機関であるベトナムの日本語教育機関における配布を想定した学校紹介パンフレットを制作することとした。今年度は、鹿児島情報ビジネス公務員専門学校及び九州工科自動車専門学校を対象とし、留学生に向けた情報をそろえたベトナム語版パンフレットを制作した。

NEW

Khóa Kinh Doanh Quốc Tế Khóa Kinh Doanh Thông Tin

2 năm - (năm 2)

Khóa Kinh Doanh Quốc Tế

Khóa Kinh Doanh Du Lịch

2 năm - (năm 2)

KBCO có liên kết với công ty VTI (Công ty về IT)

vậy nên các bạn có an tâm về việc làm.

CÁC MÔN HỌC

Có được chứng bằng cấp. K năng cần thiết trong thực tập IT

Python

Hôm nay, với nhu cầu ngày càng tăng, Python đang được chú ý đến, học về nó để chúng ta có thể phân tích được những vấn đề trong thực tế.

Java

Java sẽ là được với kỹ năng thực hành cần thiết trong ngành Bảo mật (JAVAS)

Đề cử thành K Sĩ hữu

trang bị thật nhiều

Công việc: kinh tế thông tin - In-charge Hinata

Hôm nay, ngành IT đang phát triển rất nhanh, sự cần thiết trong kỹ thuật để làm sự nghiệp trong ngành công nghệ này của hầu như các công việc của các kỹ thuật. Từ trường chúng tôi, liên quan đến ICT, các bạn sẽ được trang bị từ mức cơ bản về kỹ năng lập trình, kỹ năng kinh doanh thông tin của các chương trình thực tập thực tế. Có thể nói rằng đây là một cơ hội để các bạn được tiếp xúc với các chương trình thực tập thực tế.

Nội Dung Khóa Học

Vừa học Tiếng Nhật
Vừa học kiến thức chuyên ngành.

1. Giáo Tin Tổng Thô

Giáo Tin Tổng Thô giúp các bạn có thể hiểu được những kiến thức cơ bản.

2. Giáo Tin Chuyên Ngành

Các bạn sẽ tiếp xúc với các kiến thức chuyên ngành của ngành Công nghệ Thông tin.

3. Giáo Tin Tiếng Nhật

Ngành chuyên học về các kiến thức chuyên ngành.

Nêu Học Ngành Du Lịch

Bản và Thủ Đức

khóa Kinh Doanh Du Lịch
Giảng viên: Kaito Takahashi

Hôm nay, ngành Du Lịch đang phát triển rất nhanh, sự cần thiết trong kỹ thuật để làm sự nghiệp trong ngành công nghệ này của hầu như các công việc của các kỹ thuật.

Các bạn sẽ tiếp xúc với các kiến thức chuyên ngành của ngành Công nghệ Thông tin.

Ngành chuyên học về các kiến thức chuyên ngành.

Lịch trình thực tập 2 năm (Vĩ Du)

	Thứ 1	Thứ 2	Thứ 3	Thứ 4	Thứ 5	Thứ 6
1	8:00 - 11:00	11:00 - 12:00	12:00 - 13:00	13:00 - 14:00	14:00 - 15:00	15:00 - 16:00
2	8:00 - 11:00	11:00 - 12:00	12:00 - 13:00	13:00 - 14:00	14:00 - 15:00	15:00 - 16:00

Lời nhắn từ các bạn Du Học Sinh

Nguyễn Văn Vũ
Tốt nghiệp M15

Đây là một khóa học KBCO, nhờ sự giúp đỡ của các học viên, các bạn sẽ được tiếp xúc với các kiến thức chuyên ngành của ngành Công nghệ Thông tin.

Giller Sunita
Tốt nghiệp Trung Tâm Tin Học

Đây là một khóa học KBCO, nhờ sự giúp đỡ của các học viên, các bạn sẽ được tiếp xúc với các kiến thức chuyên ngành của ngành Công nghệ Thông tin.

Lịch trình thực tập 2 năm (Vĩ Du)

	Thứ 1	Thứ 2	Thứ 3	Thứ 4	Thứ 5	Thứ 6
1	8:00 - 11:00	11:00 - 12:00	12:00 - 13:00	13:00 - 14:00	14:00 - 15:00	15:00 - 16:00
2	8:00 - 11:00	11:00 - 12:00	12:00 - 13:00	13:00 - 14:00	14:00 - 15:00	15:00 - 16:00

Hãy cùng nhau trở thành chuyên gia bảo dưỡng ô-tô!

Trường Trung Cấp Công Nghệ Ô Tô Kyushu là một trường chuyên về bảo dưỡng ô-tô nằm tại tỉnh Kumamoto. Mục tiêu của học tập tại khoa công nghệ ô tô quốc tế là trong vòng 3 năm sẽ học được nhiều kỹ thuật và kiến thức về bảo dưỡng ô-tô, hướng việc làm được chứng chỉ thợ bảo dưỡng cấp 2.

Ngoài ra, còn có giáo học tiếng Nhật, giáo học về văn hóa Nhật, học viên sẽ được thử sức tại kỳ thi năng lực tiếng Nhật. Nhà trường sẽ giúp đỡ các học viên cả trong đời sống tại Nhật và việc hỗ trợ xin việc. Hãy cùng với những người bạn, nỗ lực học mà đã hướng tới ước mơ!

Khoa công nghệ ô-tô quốc tế

Nhà trường sẽ hỗ trợ toàn diện trong cả 3 năm!
Kể cả những học viên chưa có kiến thức về ngành học cũng có thể yên tâm

Mục tiêu dành được từ khóa

Chứng chỉ thợ bảo dưỡng cấp độ 2
Năng lực tiếng Nhật N1, N2

Nhà trường được đánh giá là trường chuyên môn về bảo dưỡng ô-tô có bề dày truyền thống nhiều năm liền.

2020 Học viên tốt nghiệp Trong niên khóa 2020 **TI LỆ CÓ VIỆC LÀM 100%**

Đã học tập tại trường
Đã được cấp chứng chỉ thợ bảo dưỡng cấp 2
Đã được cấp chứng chỉ năng lực tiếng Nhật N1

Đã học tập tại trường
Đã được cấp chứng chỉ thợ bảo dưỡng cấp 2
Đã được cấp chứng chỉ năng lực tiếng Nhật N1

Đã học tập tại trường
Đã được cấp chứng chỉ thợ bảo dưỡng cấp 2
Đã được cấp chứng chỉ năng lực tiếng Nhật N1

Đã học tập tại trường
Đã được cấp chứng chỉ thợ bảo dưỡng cấp 2
Đã được cấp chứng chỉ năng lực tiếng Nhật N1

Đã học tập tại trường
Đã được cấp chứng chỉ thợ bảo dưỡng cấp 2
Đã được cấp chứng chỉ năng lực tiếng Nhật N1

Ngoài chứng chỉ thợ bảo dưỡng cấp độ 2, học viên còn có thể dành được nhiều bằng cấp khác nữa, rất có lợi khi xin việc

Chứng chỉ thợ bảo dưỡng ô tô hạng cấp 2 (cấp 2, cấp 3, cấp 4)	Chứng chỉ thợ hàn ô tô hạng cấp 2
Chứng chỉ thợ bảo dưỡng ô tô hạng cấp 2 (cấp 2, cấp 3, cấp 4)	Chứng chỉ thợ hàn ô tô hạng cấp 2
Chứng chỉ người vận hành máy móc hạng cấp 2	Chứng chỉ kỹ năng lái xe hạng cấp 2
Chứng chỉ thợ hàn ô tô hạng cấp 2	Chứng chỉ người vận hành máy móc hạng cấp 2
Chứng chỉ thợ bảo dưỡng ô tô hạng cấp 2	Chứng chỉ người vận hành máy móc hạng cấp 2

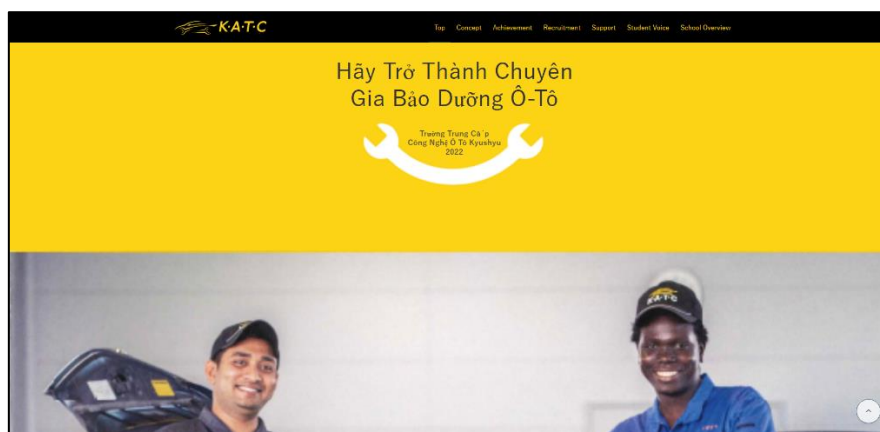
3.5.3. ベトナム語版学校パンフレット WEB 版

前掲したベトナム語版学校パンフレットは、本事業の連携機関であるベトナムの日本語教育機関への配布を中心に活用していく。一方で、ベトナム語での専門学校情報を日本留学に興味を持っている方々へ広く発信していくには、さらにアクセシビリティの高い手段やツールを採用していく必要がある。後述する Facebook ページ「JES - Thông tin về trường dạy nghề Senmon Gakko -」では、日本文化や留学に関する情報の他にも個別の専門学校情報も発信している。SNS と連動して情報発信を行っていく場合には、パンフレットの PDF ファイル等を用いるよりも WEB サイト化する方が、アクセシビリティや視認性の観点からより有効であると思われる。したがって、紙媒体を想定したベトナム語版学校パンフレットと同様の情報を提示する WEB 版の制作も行った。

《鹿児島情報ビジネス公務員専門学校 ベトナム語版パンフレット WEB 版例》



《九州工科自動車専門学校 ベトナム語版パンフレット WEB 版例》



3.5.4. ベトナム人留学生インタビュー動画

留学生は同じ国の出身者同士の結びつきが比較的強く、同国人や同じ母語を持つ人々等のコミュニティを形成していることが多い。そのようなつながりの中で、進学先やアルバイト先を決める際に、先に来日または卒業した先輩からの情報を重要視する留学生が多い。特に日本留学経験者や現役留学生が非常に多いベトナム出身の留学生はその傾向が強い。そして、来日前の留学希望者も先に来日している先輩である現役留学生の情報やアドバイスを重要視する傾向にある。そこで、本事業の連携機関である専門学校に在籍しているベトナム人留学生のインタビュー動画を制作することとした。

今年度は、鹿児島情報ビジネス公務員専門学校及び九州工科自動車専門学校に在籍しているベトナム人留学生計 4 名を対象にインタビューを行った。インタビュー内容は「留学先に日本を選んだ理由」「学校について（学校を選んだ理由、授業の雰囲気、学校の良いところなど）」「日本での生活について（友人関係やアルバイトなど）」「今後のキャリアについて（日本で就職したいか、起業をしたいかなど）」「留学を希望するベトナム人の後輩へのアドバイス」の 5 項目となっている。全項目について留学生はベトナム語と日本語の 2 回に分けて回答している。前者は日本語能力がまだ高くないベトナムの留学希望者に向けた情報発信に使用でき、後者は日本語がある程度理解できるようになった留学希望者や専門学校進学前の留学生に対して先輩が日本語を話している姿を見せることで、モチベーションを喚起する効果を期待している。

《ベトナム人留学生インタビュー動画例 1 鹿児島情報ビジネス公務員専門学校》



《ベトナム人留学生インタビュー動画例2 九州工科自動車専門学校》



3.6. Facebook ページと WEB サイト

3.6.1. Facebook ページと WEB サイトの概要

本事業では、来日前のベトナム人留学希望者・専門学校進学前のベトナム人留学生に加えて、日本や日本留学に興味があるベトナムの若者に対して、様々な情報の発信を行っていく。そこでは、主に SNS を活用して専門学校情報だけでなく日本文化や日本に関するニュースを取り扱うことで、日本に興味のある幅広い層へアプローチする。

今年度は SNS として Facebook ページによる情報発信を行うとともに、WEB サイトも活用した形でベトナムに対する情報発信の環境整備と運用を行った。

3.6.2. Facebook ページにおける取り組み

日本への留学に関する情報を発信すべき主要なターゲットは、10 代後半から 20 代前半の年齢層となる。この世代は、日常的に SNS を使用している人々が多く、情報を集める際には検索エンジンではなく SNS で検索するという場合もある。ベトナムでは Facebook が最も利用されている SNS であり、We Are Social の調査によれば 2021 年 1 月時点で国民の 91.2% が利用していることが明らかになっている。

本事業の連携機関である一般財団法人日本教育基盤財団は、平成 29 年から 3 年間実施した文部科学省委託「専修学校グローバル化対応推進支援事業」において、Facebook ページ「JES - Thông tin về trường dạy nghề Senmon Gakko -」を構築した。そこでは、日本の専門学校の情報や日本語に関する知識、日本の文化や生活に関する情報をベトナム語で継続的に発信しており、2021 年 6 月時点で 6500 人以上のフォロワーがいる状態であった。

そこで、本事業では一般財団法人日本教育基盤財団の Facebook 運用に関する知見を活用し、「JES - Thông tin về trường dạy nghề Senmon Gakko -」をプラットフォームとして本事業の趣旨に合う形で運用し、ベトナムへの情報発信を行うこととした。

《JES - Thông tin về trường dạy nghề Senmon Gakko – トップページ》



URL : <https://www.facebook.com/jes.vietnam.japan>

本取り組みは 2022 年 1 月から開始し、本報告書執筆時点（2022 年 3 月 4 日）までの約 2 か月の期間で計 45 回の投稿を行った。投稿の内容は、「専門学校情報（主に本事業参画校の情報）」「キャリア（職業紹介、資格試験等）」「日本語と文化（祝日、イベント、生活に関する語彙等）」「ニュース（一般的な日本での報道、コロナ関連等）」の 4 種類に分類される。投稿内容の種類ごとの投稿の件数は以下のようにになっている。

《投稿内容の種類と件数》

投稿内容の種類	投稿件数
専門学校情報	9 件
キャリア	1 件
日本語と文化	10 件
ニュース	25 件
合計	45 件

日本への留学に意欲がある層のため、政府の入国に関連する方針やコロナ対策といった内容を多く取り扱ったため、ニュースの投稿記事件数が多くなっている。

また、本事業の趣旨に合う形で Facebook ページのファンを拡大するために、広告を活用して新規のファンを募った。その際の条件は次のようになっている。

《Facebook ページのファン獲得のためのターゲティング》

ターゲット項目	ターゲット属性
居住地	ベトナム
年齢	18 歳から 25 歳
興味・関心	日本語能力試験 Japanese Language & Culture Let's Learn Japanese 日本語 Japanese popular culture 日本 JAPAN STUDY SUPPORT

主要なターゲットは来日前のベトナム人留学希望者と日本や日本留学に興味があるベトナムの若者であることから居住地はベトナムとした。年齢層は、日本留学から専門学校に入学することが現実的である 20 代前半までとした。可能であれば中等教育機関に在籍している年齢層に対しても日本留学への興味を喚起したいところではあるが、Facebook の国別のガイドライン上、ベトナムでは 18 歳未満に対して広告を発信できないため、18 歳以上とした。また、「興味・関心」の項目では日本語や日本文化、日本留学に関係のある項目を選択した。上記のターゲティングでファン募集を行った結果、5 日間で 435 人の新規ファンを獲得した。

新規のファンも含め約 6,900 人のファンに対して情報発信を行っていくことになったが、Facebook の投稿はすべてのファンに表示されるわけではない。個別のファンに対して投稿が表示されるかどうかは、複雑なアルゴリズムによって決定されている。概略として説明すると、普段から対象となる Facebook ページの投稿に対してリアクション（「いいね」や画像のクリック、コメント等を行うこと）をする頻度が高いファン（＝「エンゲージメントの高いファン」）に対して新規の投稿は優先的に表示され、彼らからのリアクションが多いほどその他のファンに対しても新規投稿が表示されやすくなる。つまり、より多くのファンに投稿を見てもらいたいという場合には、まずはエンゲージメントの高いファンに興味を持ってもらえる内容でなくてはならない。そして、普段からエンゲージメントの高いファンからのリアクションが多くなるような投稿を行っていれば、新規投稿が優先的に表示されるファンの数も増えるようになっている。したがって、専門学校情報を可能な限り多く発信したいとしても、まずエンゲージメントの高いファンに興味を持ってもらえなければ、本当に専門学校に興味があるファンにまで投稿が表示されない可能性がある。したがって、普段は日本語や日本文化、日本のニュースといった比較的多くのファンが関心を持つような一般的な内容を投稿してファンのエンゲージメントを高めていき、専門学校情報を発信した時にも、なるべく多くのファンに記事が表示されるようにしておかなければ

ばならない。そこで、現在の「JES - Thông tin về trường dạy nghề Senmon Gakko -」ファンはどのような種類の投稿に興味を示す傾向があるのかを分析することとした。

人気があった投稿を分析する際には、「エンゲージメント率」という指標を用いる。この指標はリアクション総数をリーチ数（何人のファンに表示されたかという数値）で割ったものであり、つまりある投稿が何人のファンに表示されて、そのうち何人が「いいね」やコメント等のリアクションをしたかということを表している。Facebook ページによる投稿は毎回リーチ数が大きく変わる場合も多く、「いいね」の数では単純に投稿の人気度を比較できない。そこで、より客観的に比較できるように導入された指標が「エンゲージメント率」である。ビジネス用 Facebook ページの投稿の平均「エンゲージメント率」は、分野やターゲット層にもよるが、0.5%から 2%程度であると言われている。したがって、3%の「エンゲージメント率」を獲得していれば、投稿内容は反応が良かったと言えるだろう。そこで、本事業で行った投稿の中から「エンゲージメント率」の高かったものを一部紹介する。なお、リーチ数が低い投稿は少数のリアクションでも「エンゲージメント率」が高くなりやすいため、最低でも 100 以上のリーチ数を記録している投稿のみで抽出する。

最も高い「エンゲージメント率」を獲得したのは、物件に関する日本語の語彙（アパート、マンション、〇LDK、築年数、オートロック等）とその意味を紹介した投稿の第 2 弾であった。「エンゲージメント率」は 11%となっており、非常に多くの関心を集めた。これらの語彙は実際に日本で生活しなければ必ずしも知る必要のない語彙であり、ファンの中に日本での生活を現実的に考えている層が多いことが予想される。

《物件に関する語彙と意味に関する投稿 Part 2 11%》


JES - Thông tin về trường dạy nghề Senmon Gakko -
2月26日

Kiến thức đi thuê nhà tại Nhật_phần 2

Tiếp nối phần trước hôm nay hãy cùng JES tìm hiểu về các loại nhà ở Nhật. Các bạn hãy theo dõi và ghi nhớ nhé!

Ở Nhật có 3 kiểu nhà chính như sau : ... もっと見る

[翻訳を見る](#)



投稿のパフォーマンス

1,545 リーチした人数

64 リアクション、コメント、シェア

61 いいね!	61 投稿	0 シェア
1 超いいね!	1 投稿	0 シェア
0 コメント	0 投稿	0 シェア
2 シェア	2 投稿	0 シェア

153 投稿クリック

29 写真表示数	2 リンクのクリック	122 その他のクリック
--------------------	----------------------	------------------------

否定的な意見

0 投稿を非表示	0 全投稿を非表示
0 スпамとして報告	0 いいね! 取り消し

レポートの統計は、投稿に表示されている内容よりも遅れている可能性があります

次に高い「エンゲージメント率」を記録したのは天皇誕生日に関する投稿で、8%と非常に高い数値であった。この記事は NHK ニュースへのリンクも貼っていたが、リンクのクリック数も多く、祝日の紹介というだけでなく天皇に関連する話題が注目を集めた。

《天皇誕生日に関する投稿 8%》

JES - Thông tin về trường dạy nghề Senmon Gakko -

2月23日

Hôm nay chính là một ngày lễ đặc biệt tại Nhật Bản - Ngày sinh nhật Thiên hoàng Naruhito (23/02/1960 - 23/02/2022)

Tại Nhật Bản, 天皇誕生日 (てんのうたんじょうび) - Sinh nhật Thiên hoàng được xác định theo ngày sinh của Thiên hoàng đang trị vì và là một ngày lễ quan trọng trong năm.

Vào sáng ngày hôm nay, Thiên hoàng Naruhito đã có buổi họp báo nhân ngày sinh nhật. Ngài cũng chia sẻ những suy nghĩ về một năm vừa qua với những sự kiện khó quên về dịch bệnh cũng như những nỗ lực của Nhật Bản... もっと見る

翻訳を見る

WWW3.NHK.ORG.JP

天皇陛下 きょう62歳の誕生日 | NHKニュース

【NHK】 天皇陛下は23日、62歳の誕生日を迎えられ...

詳しくはこちら

投稿のパフォーマンス

3,745 リーチした人数

87 リアクション、コメント、シェア

83 いいね！ 83 投稿 0 シェア

3 すごいね！ 3 投稿 0 シェア

1 コメント 0 投稿 1 シェア

0 シェア 0 投稿 0 シェア

246 投稿クリック

0 写真表示数 60 リンクのクリック 186 その他のクリック

否定的な意見

0 投稿を非表示 0 全投稿を非表示

0 スпамとして報告 0 いいね！取り消し

レポートの統計は、投稿に表示されている内容よりも遅れている可能性があります

3 番目に高い「エンゲージメント率」は7%で、日本のバレンタイン文化の説明と関連する語彙の投稿だった。ファンの一般的な日本文化への関心の高さが表れている。

《バレンタイン文化と語彙に関する投稿 7%》



JES - Thông tin về trường dạy nghề Senmon Gakko -

2月14日

Lễ tình nhân "khác biệt" ở Nhật Bản: Ngày phụ nữ tỏ tình 🍷

Ngày mai là 14/2 ngày lễ tình nhân hay còn gọi là Valentine's day, không biết các bạn nam đã chuẩn bị quà để tặng cho cô gái mình yêu thương chưa nhỉ?

Tuy nhiên, ở Nhật Bản ngày này lại là ngày dành cho các cô gái đi tỏ tình với các chàng trai. Chúng ta hãy cùng tìm hiểu về sự khác biệt thú vị này nhé.... もっと見る

[翻訳を見る](#)

投稿のパフォーマンス

583 リーチした人数

30 リアクション、コメント、シェア

28 いいね！	28 投稿	0 シェア
---------	-------	-------

1 すごいね	1 投稿	0 シェア
--------	------	-------

0 コメント	0 投稿	0 シェア
--------	------	-------

1 シェア	1 投稿	0 シェア
-------	------	-------

16 投稿クリック

3 写真表示数	0 リンクのクリック	13 その他のクリック
---------	------------	-------------

否定的な意見

0 投稿を非表示	0 全投稿を非表示
0 スпамとして報告	0 いいね！取り消し

レポートの統計は、投稿に表示されている内容よりも遅れている可能性があります

ここまで紹介した 3 つの記事も含めて、「エンゲージメント率」3%以上を記録した投稿は、45 件中 12 件であった。以下に投稿の内容と種類及び「エンゲージメント率」を記載する。

《「エンゲージメント率」3%以上の投稿》

投稿内容	投稿内容の種類	エンゲージメント率
物件に関する語彙と意味 Part 2	日本語と文化	11%
天皇誕生日	ニュース	8%
バレンタイン文化と語彙	日本語と文化	7%
住みやすい県で福岡が 2 位	ニュース	6%
外国人入国申請受付が開始	ニュース	6%
九州工科自動車専門学校紹介 Part 1	専門学校情報	5%
九州工科自動車専門学校紹介 Part 2	専門学校情報	4%
鹿児島情報ビジネス公務員専門学校紹介 Part 1	専門学校情報	3%
物件に関する語彙と意味 Part 1	日本語と文化	3%
鹿児島情報ビジネス公務員専門学校 e スポーツ講演会・オンライン説明会	専門学校情報	3%
九州工科自動車専門学校 熊本県自動車整備振興会の講座受講	専門学校情報	3%
JR 東日本が水素電車を 2030 年導入	ニュース	3%

投稿内容の種類の内訳では、「専門学校情報」が 5 件、「ニュース」が 4 件、「日本語と文化」が 3 件となっている。「専門学校情報」は全 9 件中 5 件が「エンゲージメント率」3%を超えており、著しく高い数値にはならないが安定して人気のある投稿である。これは、Facebook ページのファンの中に IT・情報系や自動車整備系の専門学校進学に関心がある層が一定数いる可能性が想定される。また、鹿児島情報ビジネス公務員専門学校に関する投稿は計 3 回、九州工科自動車専門学校に関する投稿は計 2 回ファンによって保存されている。投稿を保存したファンは、各専門学校について明確に興味を持っているということだろう。Facebook ページの主な目的は情報の発信と興味・関心の喚起であるが、紹介している専門学校への進学に興味を持っているファンに対してさらにアプローチしたり、問い合わせをもらうための方法を検討することも必要かもしれない。

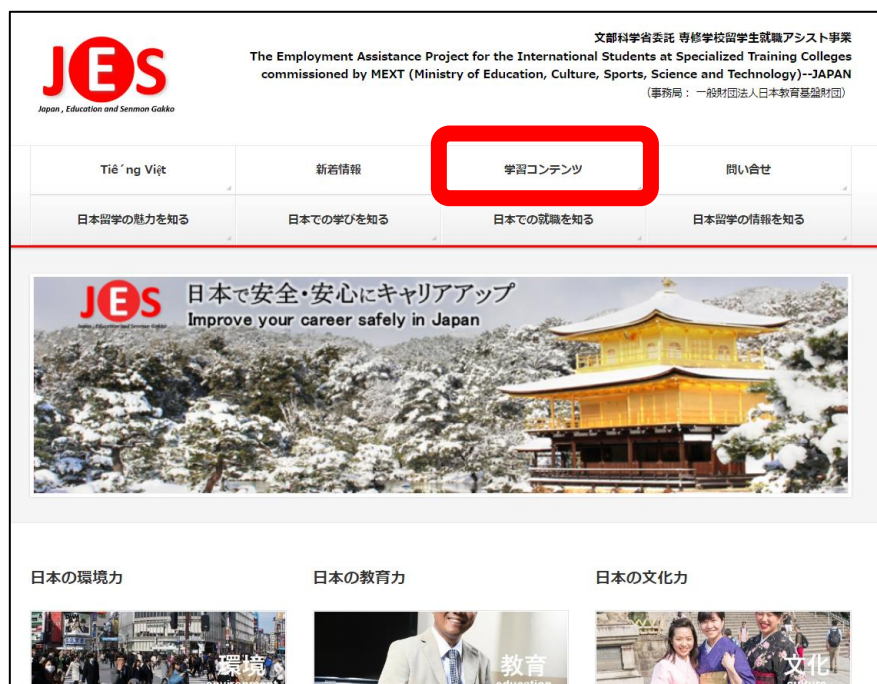
3.6.3. WEB サイトにおける取り組み

Facebook をはじめとした SNS では、重要な情報やタイムリーな情報を抽出し、大勢に向けて発信することができるというメリットがある。一方で、毎日大量の情報がプラットフォーム上で発信されているため、大切な情報がまぎれてしまったり、すぐに流れてしまったりというデメリットもある。したがって、大量の情報を体系立てて蓄積し、いつでも見られるようにするためのプラットフォームには向いていないといえるだろう。日本留学に興味があり、様々な情報を収集したいという希望者のニーズ応えるためには、Facebook での情報発信だけでなく、多くの情報を体系立てて掲載することができる WEB サイトの運用も必要である。

本事業の連携機関である一般財団法人日本教育基盤財団は、Facebook と連携して日本留学に関する比較的固定的な情報を発信するための WEB サイト「JES-Japan, Education and Senmon Gakko」を運用している。本事業では、今年度の取り組みの一環としてこの WEB サイトの機能拡充を行うこととした。

1 つ目の拡充は、学習コンテンツのページである。一般財団法人日本教育基盤財団はこれまでに開発した留学生用学習コンテンツを専用の別 WEB サイトに蓄積していた。しかし、これは WEB サイト「JES-Japan, Education and Senmon Gakko」を通してしかアクセスすることができず、実際に活用してもらう機会が少なかった。この学習コンテンツを「JES-Japan, Education and Senmon Gakko」に実装することで、このサイトにアクセスした方々により使ってもらいやすくすることとした。

≪ 「JES – Japan, Education and Senmon Gakko」 トップページ ≫



上記トップページの画像内の枠で囲ったメニューをクリックすると、学習コンテンツのページに移行する。

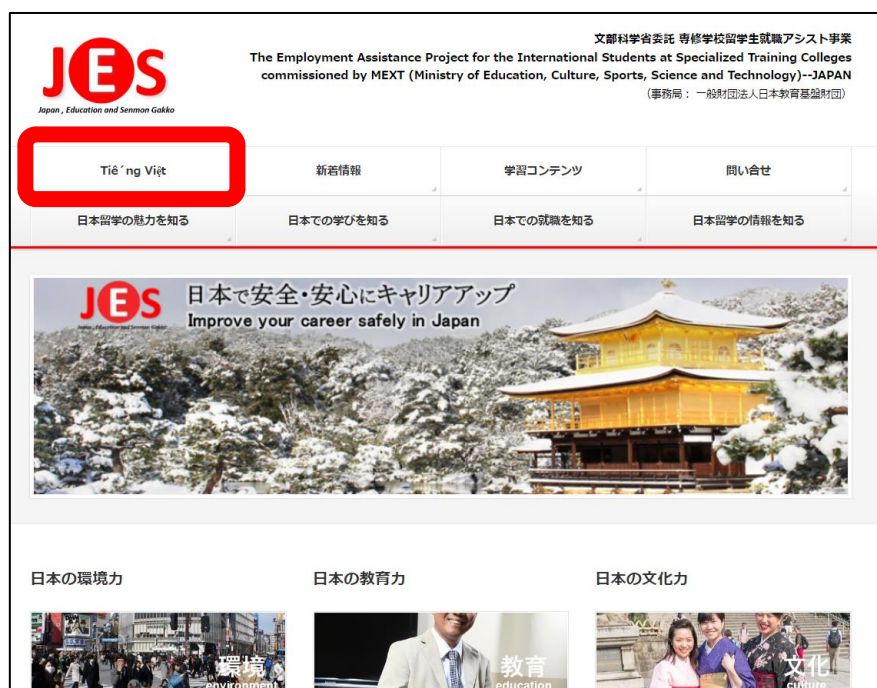
≪ 「JES – Japan, Education and Senmon Gakko」 学習コンテンツページ ≫



学習コンテンツページには、連携する専門学校情報を掲載する「学校情報」、日本の文化を学ぶコンテンツを閲覧できる「日本文化」、日本語能力を簡易的に計測できるテストを体験できる「日本語試験」、就職やキャリアについて考えるコンテンツを閲覧できる「職業とキャリア」の4種類のメニューがある。

なお、この WEB サイトは以下の枠で囲った左枠のメニューをクリックすることで、ベトナム語に言語切り替えが可能である。学習コンテンツのページに関してもすべての情報がベトナム語で表示されているページを作成したので、日本語があまりよくわからないベトナムの日本語初級者でも、本 WEB サイトで実装されたコンテンツを体験することが可能である。

≪「JES – Japan, Education and Senmon Gakko」日本語版≫



« 「JES – Japan, Education and Senmon Gakko」 ベトナム語版 »



JES
Japan, Education and Senmon Gakko

文部科学省委託 専修学校留学生就職アシスト事業
The Employment Assistance Project for the International Students at Specialized Training Colleges
commissioned by MEXT (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology)-JAPAN
(事務局：一般財団法人日本教育基盤財団)

日本語	Tin mới nhất	Nội dung đào tạo	Liên lạc
Tìm hiểu sự hấp dẫn của Du học Nhật Bản	Tìm hiểu việc học tại Nhật	Bạn biết gì về việc làm tại Nhật	Bạn biết gì về thông tin du học Nhật Bản



JES 日本で安全・安心にキャリアアップ
Improve your career safely in Japan

Sức mạnh của môi trường Nhật Bản



Sức mạnh của nền giáo dục Nhật Bản



Sức mạnh của văn hóa Nhật Bản



« ベトナム語版学習コンテンツページ (Nội dung đào tạo) »



JES
Japan, Education and Senmon Gakko

文部科学省委託 専修学校留学生就職アシスト事業
The Employment Assistance Project for the International Students at Specialized Training Colleges
commissioned by MEXT (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology)-JAPAN
(事務局：一般財団法人日本教育基盤財団)

日本語	Tin mới nhất	Nội dung đào tạo	Liên lạc
Tìm hiểu sự hấp dẫn của Du học Nhật Bản	Tìm hiểu việc học tại Nhật	Bạn biết gì về việc làm tại Nhật	Bạn biết gì về thông tin du học Nhật Bản

Nội dung đào tạo

[Giới thiệu trường](#)

[Văn hóa Nhật Bản](#)

[Thi thử tiếng Nhật](#)

[Nghề nghiệp và Sự nghiệp](#)

Bạn có thể **học hỏi thêm nhiều về Nhật Bản** thông qua trang Web này.

Giới thiệu trường



Văn hóa Nhật Bản



Thi thử tiếng Nhật



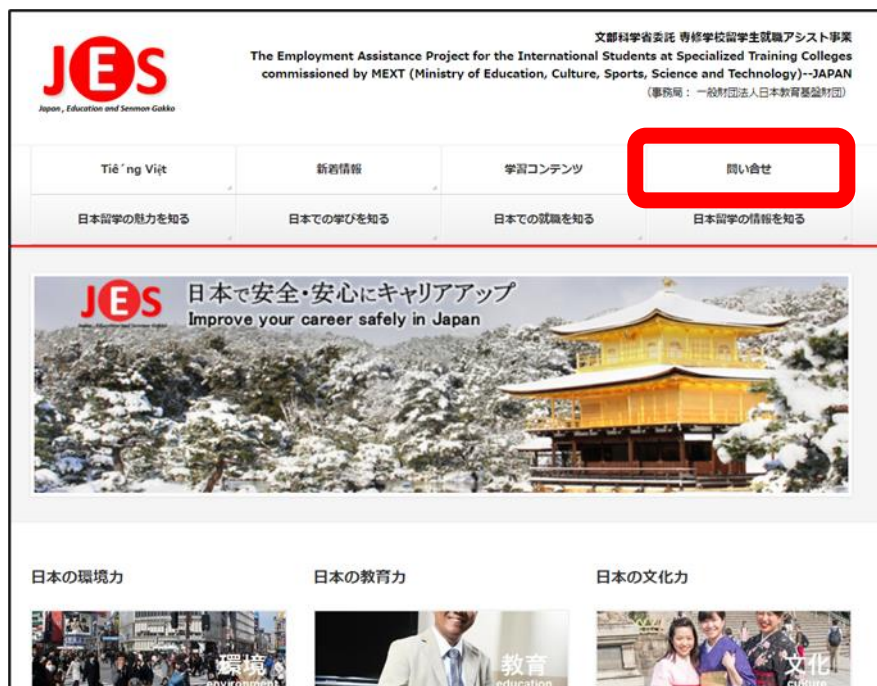
Nghề nghiệp và Sự nghiệp



Find us on  **facebook**

2つ目の拡充は、問い合わせフォームである。これまでは本 WEB において質問や意見等は受け付けていなかった。しかし、日本の留学に関して今後何らかの問い合わせが来る可能性も想定し、問い合わせフォームの機能を整備した。以下のトップページの枠で囲んだ右上のメニューをクリックすると問い合わせフォームに移行する。

≪ 「JES – Japan, Education and Senmon Gakko」 トップページ ≫



問い合わせフォームは日本語版とベトナム語版の両方を用意している。

◀ 「JES – Japan, Education and Senmon Gakko」 問い合わせフォーム日本語版 ▶



文部科学省委託 専修学校留学生就職アシスト事業

The Employment Assistance Project for the International Students at Specialized Training Colleges
commissioned by MEXT (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology)-JAPAN

(事務局：一般財団法人日本教育基盤財団)

Tiếng Việt	新着情報	学習コンテンツ	問い合わせ
日本留学の魅力を知る	日本での学びを知る	日本での就職を知る	日本留学の情報を知る

問い合わせ

HOME > 問い合わせ

J-Studyに関心を持っていただき、ありがとうございます。
お問い合わせ内容は、当サイトが掲げる個人情報保護方針に則って管理し、送信者の同意なく第三者に開示・提供することはありません。

氏名 (必須)

ふりがな (必須)

メールアドレス (必須)

◀ 「JES – Japan, Education and Senmon Gakko」 問い合わせフォームベトナム語版 ▶



文部科学省委託 専修学校留学生就職アシスト事業

The Employment Assistance Project for the International Students at Specialized Training Colleges
commissioned by MEXT (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology)-JAPAN

(事務局：一般財団法人日本教育基盤財団)

日本語	Tin mới nhất	Nội dung đào tạo	Liên lạc
Tìm hiểu sự hấp dẫn của Du học Nhật Bản	Tìm hiểu việc học tại Nhật	Bạn biết gì về việc làm tại Nhật	Bạn biết gì về thông tin du học Nhật Bản

Liên hệ với chúng tôi

HOME > Liên hệ với chúng tôi

Chân thành cảm ơn đã quan tâm đến JES
Nội dung liên lạc sẽ được quản lý theo phương châm bảo hộ thông tin cá nhân, và sẽ không cung cấp cho người thứ ba nếu không có sự đồng ý của người gửi

Họ và tên (bắt buộc)

今年度はWEB「JES – Japan, Education and Senmon Gakko」に以上の拡充を施し、留学生への情報発信及び学習支援機能の整備を行った。

3.7. e ラーニングシステム

3.7.1. e ラーニングの概要

本事業では今年度計 6 つの科目の試作教材を開発した。次年度はそれらをもとに教材の改訂及び本格開発を行うが、試作教材を実際に留学希望者等に活用してもらいフィードバックを得られるように、試作教材を使うことができる環境を整備しなければならない。そこで、今年度の試作教材を実装した e ラーニングシステムを準備した。

3.7.2. e ラーニングの構成

本 e ラーニングは、あらかじめ提供するユーザーID とパスワードを入力することにより、ログインをして使用する。

《e ラーニング ログイン画面》



e-learning
文部科学省
委託事業

和検
WAKEN

User ID

Password

☐ Keep me logged in

LOGIN

ログイン後には、科目ごとの6つのメニューが表示される。

《eラーニング ログイン後のメニュー画面》

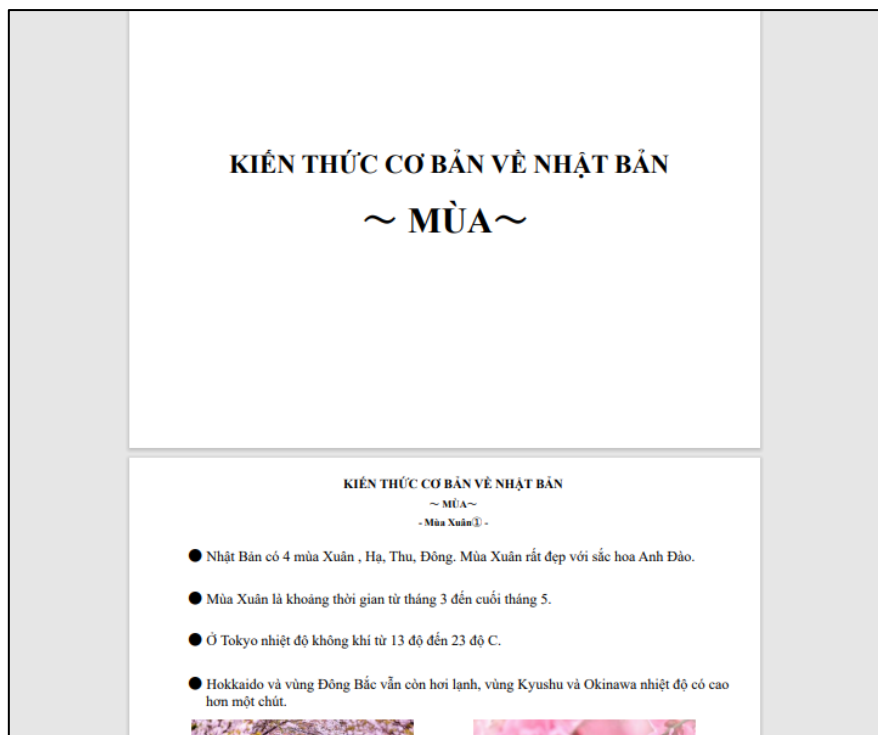


「KIẾN THỨC CƠ BẢN VỀ NHẬT BẢN 日本の基礎知識」をクリックすると、試作した3種類のテーマのメニューが表示される。テーマをクリックすると、スライドの資料をダウンロードすることができる。

« 「KIẾN THỨC CƠ BẢN VỀ NHẬT BẢN」 メニュー »



« ダウンロードした資料の例 »

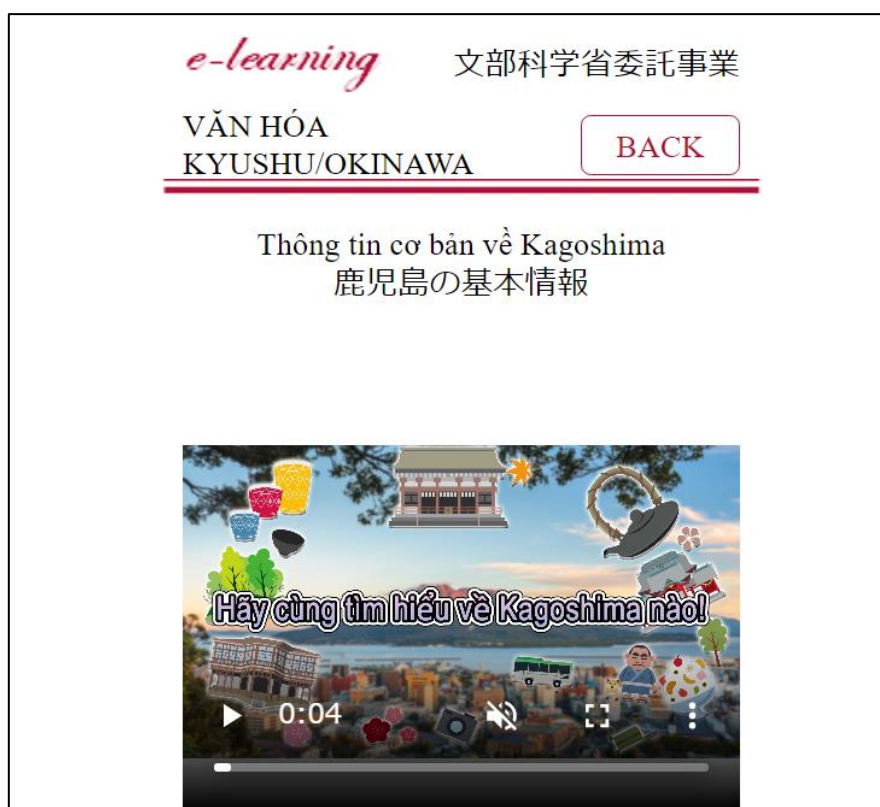


「VĂN HÓA KYUSHU / OKINAWA 九州・沖縄の文化」をクリックすると、試作した3種類のテーマのメニューが表示される。テーマをクリックすると、動画を視聴できる。

≪ 「VĂN HÓA KYUSHU / OKINAWA」メニュー ≫

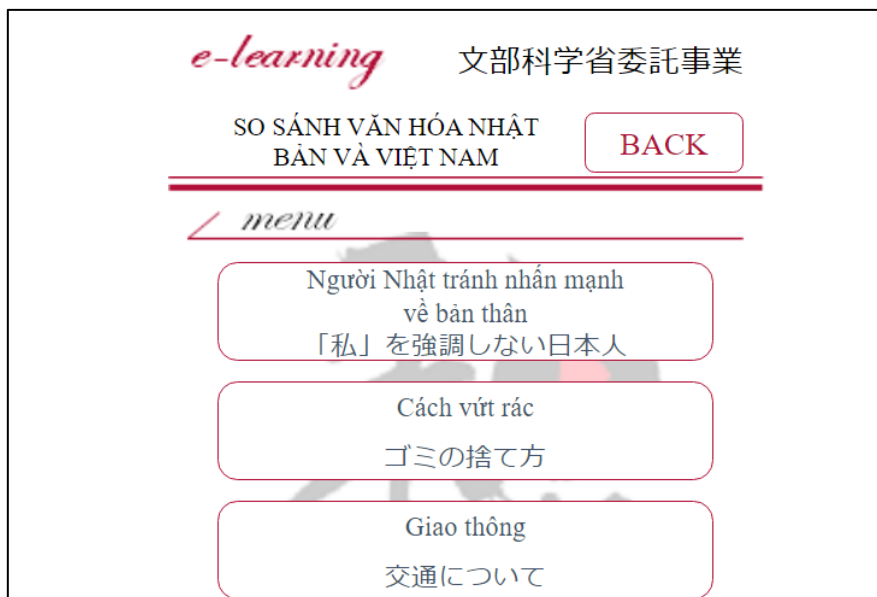


≪ 動画の例 ≫

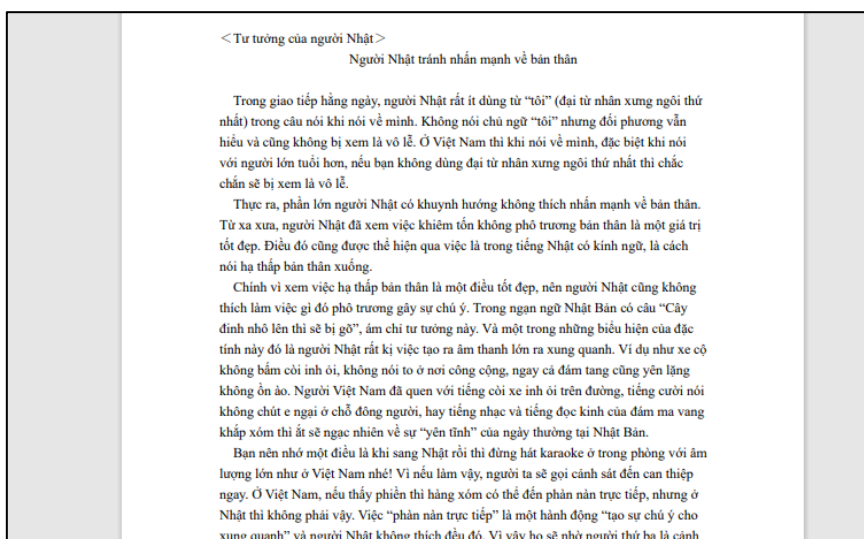


「SO SÁNH VĂN HÓA NHẬT BẢN VÀ VIỆT NAM 日本とベトナムの文化比較」をクリックすると、試作した 3 種類のテーマのメニューが表示される。テーマをクリックすると、読解教材のファイルをダウンロードできる。

≪ 「SO SÁNH VĂN HÓA NHẬT BẢN VÀ VIỆT NAM」メニュー ≫



≪ ダウンロードした資料の例 ≫



「NGHỀ THÔNG TIN IT IT キャリア」または「NGHỀ SỬA CHỮA Ô TÔ 自動車整備キャリア」をクリックすると、試作した 18 個または 14 個のテーマのメニューが表示される。

テーマをクリックすると、「VIDEO（動画）」か「BÀI KIỂM TRA（テスト）」のメニューが選択できる。それぞれクリックすると動画での学習、内容確認テストを行うことができる。

« 「NGHỀ THÔNG TIN IT」メニュー »



« 「動画またはテストの選択画面」 »



《動画学習画面》

e-learning

文部科学省委託事業

NGHỀ THÔNG TIN IT

BACK

Nơi làm việc nhân lực IT

HIỂU VỀ CÔNG VIỆC
 Người nhân lực IT là gì? – Hiểu được vai trò và nghĩa vụ của nhân lực IT
 ~ Nơi làm việc nhân lực IT ~

■ **Khả năng tư duy logic**
 Để đưa các hướng dẫn rõ ràng, chính xác và đúng trình tự cho PC, việc tư duy logic là rất cần thiết.

■ **Đạo đức nghề**
 Cần có đạo đức nghề sáng để sử dụng công nghệ IT theo đúng hướng. Cần phải giữ bí mật thông tin của tổ chức và cá nhân mà bạn đã biết.

■ **Nhạy cảm với thay đổi.**
 Luôn sẵn sàng với những điều mới, linh hoạt trong việc ứng phó với sự thay đổi.

《内容確認テスト画面》

e-learning

文部科学省委託事業

NGHỀ SỬA CHỮA Ô TÔ

BACK

Kỹ năng giao tiếp của thợ sửa ô tô

(1 / 2)

Thợ sửa chữa ô tô không cần nó khả năng giao tiếp với người dùng.

1	Đúng
2	Sai

Hãy chọn 1 đáp án đúng nhất trong số các đáp án dưới đây.

「BÀI TẬP DỰ ÁN プロジェクト演習」をクリックすると、「教材」「回答例」「指導ガイド」の3つがメニューとして表示され、クリックするとファイルをダウンロードできる。

« 「BÀI TẬP DỰ ÁN」メニュー »



« ダウンロードした資料の例 »



4. ま と め

4.1. 令和 3 年度事業の総括

4.2. 事業終了後の成果活用方針・手法

4.1. 令和 3 年度事業の総括

今年度の事業活動は、大きく分類すると調査と開発の 2 種類の取り組みを行った。

調査では、「専門学校アンケート調査」「企業ヒアリング調査」「遠隔教育、ネットワーク支援学習環境事例調査」の 3 種類を実施した。「専門学校アンケート調査」では、全国の IT・情報系及び自動車整備系専門学校にアンケートを実施した。そこでは、留学生の受入状況や教育、生活支援、就職、課題といった質問項目について伺い、各専門学校の実際の取り組みについて情報収集することで、本事業における留学生支援体制整備の基礎資料とした。「企業ヒアリング調査」では、本事業の拠点である九州・沖縄地域の IT・情報通信系企業等 10 社と自動車整備系企業・工場 10 社の計 20 社から外国人雇用の実態についてヒアリングを行った。そこでは、外国人雇用の実績や待遇、求める資質・能力、外国人材雇用における課題と意見を伺った。ここで得た情報は留学生の教育及び就職支援の体制作りにおける貴重な資料となった。「遠隔教育、ネットワーク支援学習環境事例調査」では実際に国内外で行われたオンラインでの語学教育・留学生教育の事例を収集した。この結果から、ベトナムの日本語教育機関等で学ぶ留学希望者への教育支援を行う際に活用可能性があるツールや起こりうる問題について検討を行った。

開発では、「学習者評価指標」「教材試作」「学校紹介コンテンツ」「Facebook ページと WEB サイト」「e ラーニングシステム」に関する取り組みを行った。「学習者評価指標」では専門学校進学前の留学希望者・留学生の能力・知識・態度について把握すべき項目を整理、プロトタイプを作成した。「教材試作」では、「日本の基礎知識」「九州・沖縄の文化」「日本とベトナムの文化比較」「IT キャリア」「自動車整備キャリア」「プロジェクト演習」の 6 科目について試作教材を開発し、次年度の改訂及び本格開発に備えた。「学校紹介コンテンツ」ではベトナム語版パンフレットとその WEB 版を開発したほか、現役ベトナム人留学生のインタビュー動画を制作した。「Facebook ページと WEB サイト」では、今年度開始した情報発信の体制として、Facebook ページの運用実績とその成果分析、WEB サイトの拡充を行った。「e ラーニングシステム」では、試作教材を実際に活用できるよう e ラーニングに実装した。

今年度は 3 か年の事業の初年度ということもあり、体制整備のための調査やプロトタイプ開発や試作といった取り組みが主となっている。しかし、Facebook ページと WEB サイトによる情報発信の仕組みの運用実績を積み、留学生の募集における支援体制整備の準備が整った状況である。この取り組みは次年度も継続的に進め、日本留学への興味・関心の喚起と留学希望者への情報発信による支援を現地日本語教育機関と協力しながら行っていく。また、次年度は教材の本格開発を行うことから、留学生の来日前後の学習における支援体制の整備を行っていくことになる。同様に生活面での支援体制整備のための取り

組みも開始する。今年度調査で得た情報を参考としながら、現在連携組織の専門学校において行っている取り組みの強化を進めることとなる。

新型コロナウイルスの世界的流行は令和 3 年度も収束せず、留学生の受入は現在でも厳しい状況が続いている。ベトナムのハノイ・ホーチミンといった大都市では非常に長い期間教育機関を開くことができないという状況が続き、留学希望者は日本語を学ぶ機会が著しく制限されていた。依然として予断を許さない状況が続いているが、2022 年 3 月現在ようやく留学生の入国制限が緩和され明るい兆しも見えてきている。再び留学生が日本で学ぶことができる条件が整った際には、充実した学びと安心安全な生活、就職の機会を提供できるよう、本事業をこれからも推進していきたい。

4.2. 事業終了後の成果活用方針・手法

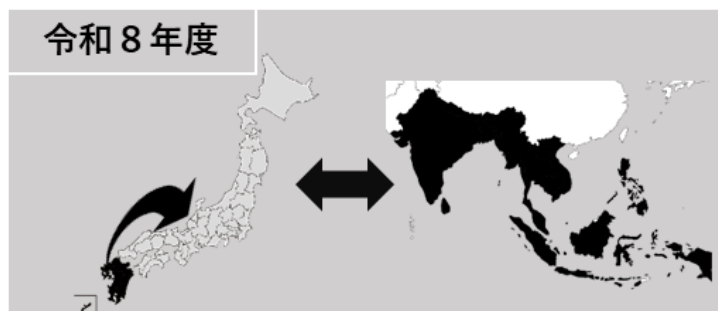
現段階での本事業終了後の成果の活用方針・手法を以下に示す。

事業期間内である令和3～5年度は、まず当財団が事業推進主体として設置する実施委員会に参画する教育機関に成果の導入を行う。これと並行して、鹿児島県・熊本県の専修学校各種学校協会・連合会等の協力のもと、鹿児島県及び熊本県のITまたは自動車整備の学科・コースを持つ専門学校に成果の周知を進める。

事業期間終了後の令和6年度からは、事業期間終了後も留学生の受け入れ・教育・就職支援の体制を継続・拡大することを目的として、実施委員会参画機関を中心とした連携組織を構築する。また、本事業の成果に関心を持った鹿児島県及び熊本県のITと自動車整備の学科・コースを持つ専門学校や企業・業界団体にも連携組織への参画を呼び掛け、組織の拡大を図る。さらに、ビジネスや介護といった留学生に比較的人気が高い他分野においても本事業で整備したような学生募集から就職までをトータルパッケージとする留学生支援のモデルを適用可能かについて検討を行う。また、ベトナムの日本語教育機関にも広く本事業の成果を周知することにより、ベトナムにおける連携機関数の拡大を図る。

令和7年度からは、実施委員会に参画する宮崎県・沖縄県・福岡県等の専門学校の協力のもと、九州・沖縄地域に広く本事業の成果を周知する。また、前年度に構築した連携組織をもとにした発展的組織である「九州・沖縄地域の留学生支援コンソーシアム（仮称）」を設立し、専門学校等の教育機関、留学生受け入れを進める業界の企業・団体、行政機関等に参画を呼び掛ける。そして、留学生支援モデルを導入した教育機関での活用状況や地域での普及状況を検証し、必要に応じてモデルを更新する。さらに、ベトナム以外の東南アジア・南アジア諸国の日本語教育機関への成果の周知と留学生支援モデルの普及の可能性も検討する。

令和8年度からは、本事業及びコンソーシアムの活動を九州・沖縄地域外にも広く周知することによって、本事業で推進した留学生の受け入れ・教育・就職を支援するモデルの普及を促す。また、ベトナム以外の各国における連携機関数の拡大を図る。



令和3年度 文部科学省委託事業 専修学校留学生の学びの支援推進事業
コロナ禍を踏まえた各地域における外国人留学生の戦略的受入に向けた体制整備

テクノロジー分野の留学生および留学希望者を対象とした
教育及び就職の支援モデル構築事業

令和3年度事業 成果報告書

2022年3月発行

発行者 一般財団法人 日本検定基盤財団
〒145-0071 東京都大田区田園調布1-8-21
TEL : 03-3722-1788 FAX : 03-3583-1855
<http://www.waken.or.jp/>

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、《一般財団法人日本検定基盤財団》が実施した令和3年度「専修学校留学生の学びの支援推進事業」の成果をとりまとめたものです。

※禁無断転載